

2019年（平成31年/令和元年）

兵庫県感染症発生動向調査事業

年 報

兵庫県立健康科学研究所
（兵庫県感染症情報センター）

はじめに

2019年当初には、季節性インフルエンザのA(H1N1)pdm09とA(H3N2)型のウイルスが同時流行し、最盛期の患者数は、2018年に引き続き例年より多くなりました。また、RSウイルス感染症、伝染性紅斑、感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるもの）は、過去5年間で最大の患者数が報告されました。

さらに、ダニ媒介感染症である日本紅斑熱も、2019年の患者数が過去5年間で最大となりました。その他、風しんは2018年8月～2019年4月にかけて、麻しんは2019年4月と6～7月に患者の集積が見られ、拡大防止にはワクチン接種の普及啓発が重要となっております。

県民の健康を守り、地域医療、公衆衛生行政を支えていくためには、感染症の流行状況を正確に把握する必要があり、2016年4月から、改正された「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律」が全面施行され、サーベイランス体制の充実強化、検査の信頼性を確保する制度（感染症GLP）の導入が図られました。また、2019年には、大規模なイベントに伴うマスクギャザリングに備え、疑似症サーベイランスの見直しが行われました。

今後更なる確かな感染症対策のための適切な情報提供が迅速に行えるよう、より一層努力してまいりますので、新型コロナウイルス感染症への対応等多忙のこととは存じますが、関係機関の皆様方には、引き続きご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに2019年の事業年報を取りまとめました。本書を感染症対策の資料としてご活用いただければ幸いです。

最後に、この事業の実施にあたり、兵庫県医師会、郡市医師会、定点医療機関をはじめとする関係各位には、ひとかたならぬご理解とご尽力を賜っておりますことに、改めまして心からお礼申し上げます。

2020年12月

兵庫県立健康科学研究所長 大橋 秀隆

2019年報告週対応表

報告週	期 間	報告週	期 間
1	12月31日～1月6日	27	7月1日～7月7日
2	1月7日～1月13日	28	7月8日～7月14日
3	1月14日～1月20日	29	7月15日～7月21日
4	1月21日～1月27日	30	7月22日～7月28日
5	1月28日～2月3日	31	7月29日～8月4日
6	2月4日～2月10日	32	8月5日～8月11日
7	2月11日～2月17日	33	8月12日～8月18日
8	2月18日～2月24日	34	8月19日～8月25日
9	2月25日～3月3日	35	8月26日～9月1日
10	3月4日～3月10日	36	9月2日～9月8日
11	3月11日～3月17日	37	9月9日～9月15日
12	3月18日～3月24日	38	9月16日～9月22日
13	3月25日～3月31日	39	9月23日～9月29日
14	4月1日～4月7日	40	9月30日～10月6日
15	4月8日～4月14日	41	10月7日～10月13日
16	4月15日～4月21日	42	10月14日～10月20日
17	4月22日～4月28日	43	10月21日～10月27日
18	4月29日～5月5日	44	10月28日～11月3日
19	5月6日～5月12日	45	11月4日～11月10日
20	5月13日～5月19日	46	11月11日～11月17日
21	5月20日～5月26日	47	11月18日～11月24日
22	5月27日～6月2日	48	11月25日～12月1日
23	6月3日～6月9日	49	12月2日～12月8日
24	6月10日～6月16日	50	12月9日～12月15日
25	6月17日～6月23日	51	12月16日～12月22日
26	6月24日～6月30日	52	12月23日～12月29日

目 次

1. 事業の概要

- 1. 1 兵庫県における感染症発生動向調査システム 1
- 1. 2 地域の区分と地域別定点数 4

2. 患者発生状況

- 2. 1 概要 6
- 2. 2 結核、腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒、百日咳及び
定点把握対象疾病の動向 8
 - (1) 結核 9
 - (2) 腸管出血性大腸菌感染症 10
 - (3) 侵襲性肺炎球菌感染症 11
 - (4) 梅毒 12
 - (5) 百日咳 14
 - (6) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く） 15
 - (7) RS ウイルス感染症 16
 - (8) 咽頭結膜熱 17
 - (9) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 18
 - (10) 感染性胃腸炎 19
 - (11) 水痘 20
 - (12) 手足口病 21
 - (13) 伝染性紅斑 22
 - (14) 突発性発しん 23
 - (15) ヘルパンギーナ 24
 - (16) 流行性耳下腺炎 25
 - (17) 急性出血性結膜炎 26
 - (18) 流行性角結膜炎 27
 - (19) 細菌性髄膜炎
(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く) 28
 - (20) 無菌性髄膜炎 29
 - (21) マイコプラズマ肺炎 30
 - (22) クラミジア肺炎（オウム病を除く） 31
 - (23) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る） 32
 - (24) 性器クラミジア感染症 33
 - (25) 性器ヘルペスウイルス感染症 35
 - (26) 尖圭コンジローマ 37
 - (27) 淋菌感染症 39

(28) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	41
(29) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	42
(30) 薬剤耐性緑膿菌感染症	43

3. 病原微生物検出状況

(1) 腸管出血性大腸菌感染症事例	44
(2) 細菌による食中毒（疑）事例	45
(3) クドア（ヒラメ寄生虫）の検査	45
(4) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症事例	45
(5) 侵襲性肺炎球菌感染症事例	45
(6) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症事例	46
(7) その他の細菌検査	47
(8) 結核 QFT 検査	47
(9) 結核菌の同定試験及び結核の感染源調査	48
(10) インフルエンザウイルスの検出状況	51
(11) 日本脳炎流行予測調査結果	51
(12) 蚊媒介感染症の検査	51
(13) ダニ媒介感染症の検査	51
(14) HIV 及び肝炎ウイルスの検査	51
(15) 集団嘔吐下痢症事例からのノロウイルス等の検出状況	52
(16) 麻しん及び風しんウイルスの検出状況	53
(17) 感染症発生動向調査における月別病原体検出件数	53

4. 資料

(1) 全数把握対象疾病の患者数	56
(2) 定点把握対象疾病の週（月）別患者数	60
(3) 定点把握対象疾病の保健所別患者数	63
(4) 定点把握対象疾病の年齢階級別患者数	66
(5) 定点把握対象疾病（月報）の性別患者数	68

兵庫県感染症発生動向調査事業実施要領

1. 事業の概要

1. 1 兵庫県における感染症発生動向調査システム

図1に患者情報に関する兵庫県感染症発生動向調査システムを示す。コンピュータ・オンライン・システムは、結核及びその他の感染症の患者情報を迅速に収集、解析、還元することにより、適切な予防措置を講じ、流行を未然に防止することを目的として、1987年に結核・感染症サーベイランスシステムとして導入された。1992年以降は厚生行政総合情報システム（WISH）上での運用となり、1998年に対象疾病の若干の増加と一部疾病名の変更及び患者の年齢階級区分の変更が行われた。同時にシステムの名称も兵庫県結核・感染症発生動向調査システムと改められた。

1999年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」が施行された。これに伴い、当研究所内に基幹地方感染症情報センターが設置され、政令市を含む兵庫県全域の感染症情報の集計・解析・情報還元の中核を担うこととなった。ただし、この時点では結核予防法は感染症法に一元化されず、結核は感染症発生動向調査の対象疾病とはならなかった。

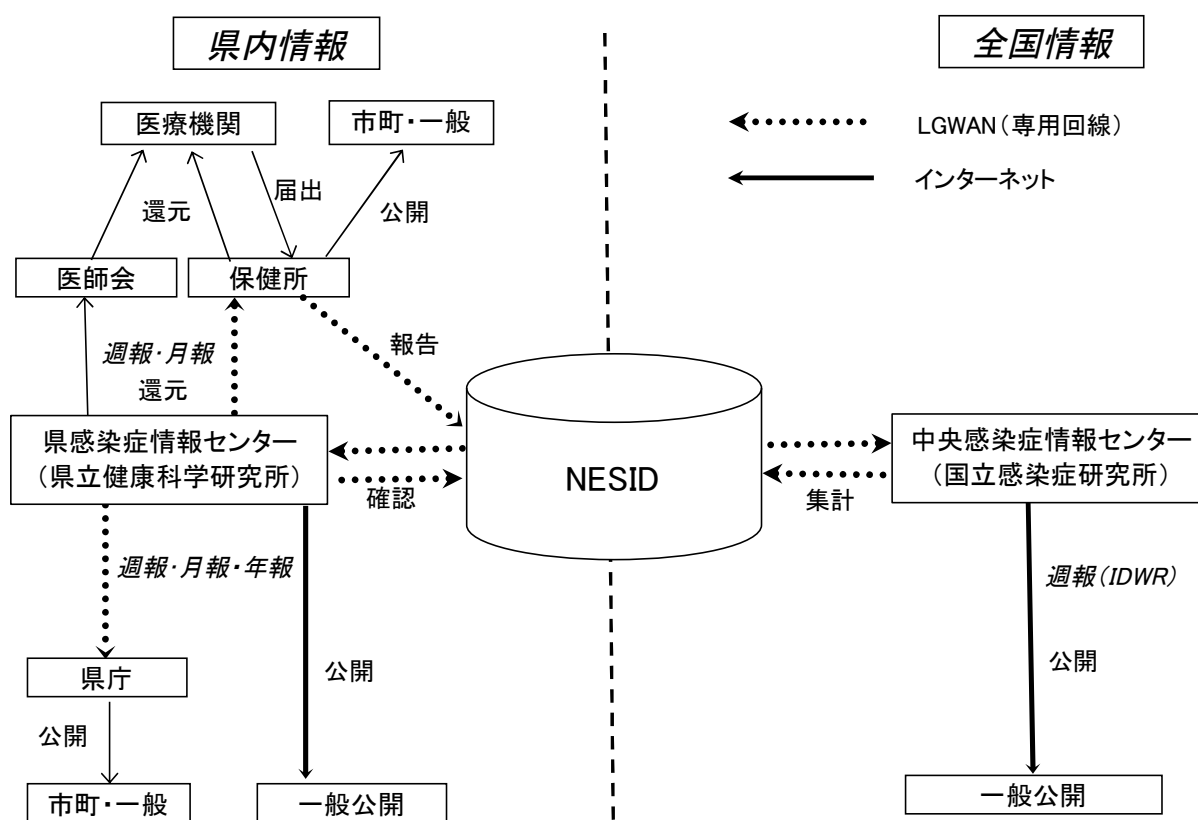
2006年4月からは感染症発生動向調査システムが全面的に新しくなった。従来、収集された情報は全国の保健所、都道府県及び政令市、国の各レベルで集積され、そのためのデータベースプログラムが各組織に配布されていたが、新システム（NESID）では、これらの情報はブラウザで取り扱われて、国レベルで一元管理されることになった。ネットワークは従来どおりWISHを用い、インターネットからは隔離されたクローズドなイントラネットとなっている。回線は国と全国の地方自治体を相互接続した広域ネットワークであるLGWAN（総合行政ネットワーク）を用いている。新システムにより、情報伝達の迅速化、セキュリティ向上、対象疾病等に変更があった場合の迅速対応（全国にプログラムを配布し、インストールする必要がないため）が図られた。

2007年4月の感染症法の改正では、発生動向調査対象疾病の類型分けの変更や結核予防法の統合等がなされた。感染症法の改正がその後も行われた結果、2019年12月31日現在の対象疾病は疑似症を含めて114疾病（表1、表2）となっている。

なお、2018年3月からNESIDはWISHデータセンターでの運用から政府共通プラットフォームでの運用に変更となり、WAF（Webアプリケーションファイアウォール）等によるセキュリティ強化が図られている。

当感染症情報センターでは、表 1、表 2 に示す感染症発生動向調査システムの対象疾病である一類～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症の合計 113 疾病（疑似症を除く）のうち、全数把握対象疾病（89 疾病）については県内すべての医療機関からの患者発生届出を、定点把握対象疾病（24 疾病）については県内に指定された医療機関（全 294 定点）からの報告を、保健所を通じて集計・解析し、感染症の動向に関するコメント・グラフを付し週報、月報及び年報として保健所、市町、医師会、医療機関等に還元するとともに、ホームページを通じて広く県民に公開している。

図 1 兵庫県感染症発生動向調査システム（2019 年）



NESID : National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases 厚生労働省感染症サーベイランスシステム

表1 全数把握の対象疾病 (89 疾病)

(2019 年 12 月 31 日現在)

	対象疾病
一類感染症(7 疾病)	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類感染症(7 疾病)	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群 ^A 、(12)中東呼吸器症候群 ^B 、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9)
三類感染症(5 疾病)	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
四類感染症(44 疾病)	(20)E型肝炎、(21)ウエストナイル熱 ^C 、(22)A型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサナル森林病、(29)Q熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)ジカウイルス感染症、(34)重症熱性血小板減少症候群 ^D 、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ ^E 、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)Bウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ポツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兎病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱
五類感染症(24 疾病)	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎 ^F 、(66)カルパペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺 ^G 、(68)急性脳炎 ^H 、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群、(73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘(入院例に限る)、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症
新型インフルエンザ等感染症(2 疾病)	(112)新型インフルエンザ、(113)再興型インフルエンザ

^A 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。^B 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。^C ウエストナイル脳炎を含む。^D 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。^E H5N1 及び H7N9 を除く。^F E型肝炎及びA型肝炎を除く。^G 急性灰白髄炎を除く。^H ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表2 定点把握対象疾病 (五類感染症、疑似症)

(2019 年 12 月 31 日現在)

患者定点	対象疾病
小児科定点(週報) 129 定点、10 疾病	(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパンギーナ、(97)流行性耳下腺炎
インフルエンザ定点(週報) 199 定点、1 疾病	(98)インフルエンザ ¹
眼科定点(週報) 35 定点、2 疾病	(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜炎
性感染症定点(月報) 46 定点、4 疾病	(101)性器クラミジア感染症、(102)性器ヘルペスウイルス感染症、(103)尖圭コンジローマ、(104)淋菌感染症
基幹定点(週報) 14 定点、6 疾病	(98)インフルエンザ ¹ ※ただし、入院患者に限定する。 (91)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(105)クラミジア肺炎(オウム病を除く)、(106)細菌性髄膜炎 ² 、(108)マイコプラズマ肺炎、(109)無菌性髄膜炎
基幹定点(月報) 14 定点、3 疾病	(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(111)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症 ¹ 41 定点	法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 (114)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

¹ 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。² インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。¹ 2019 年 4 月 1 日改正。汎用サーベイランスシステムで実施。

1. 2 地域の区分と地域別定点数

図2に、政令市、中核市及び保健所管内を単位とする地域の区分を示す。

表3に、五類感染症の地域別定点数と人口の関係を示す。

2019年の定点数は、インフルエンザ199定点、小児科129定点、眼科35定点、性感染症46定点、基幹14定点である。

図2 地域の区分

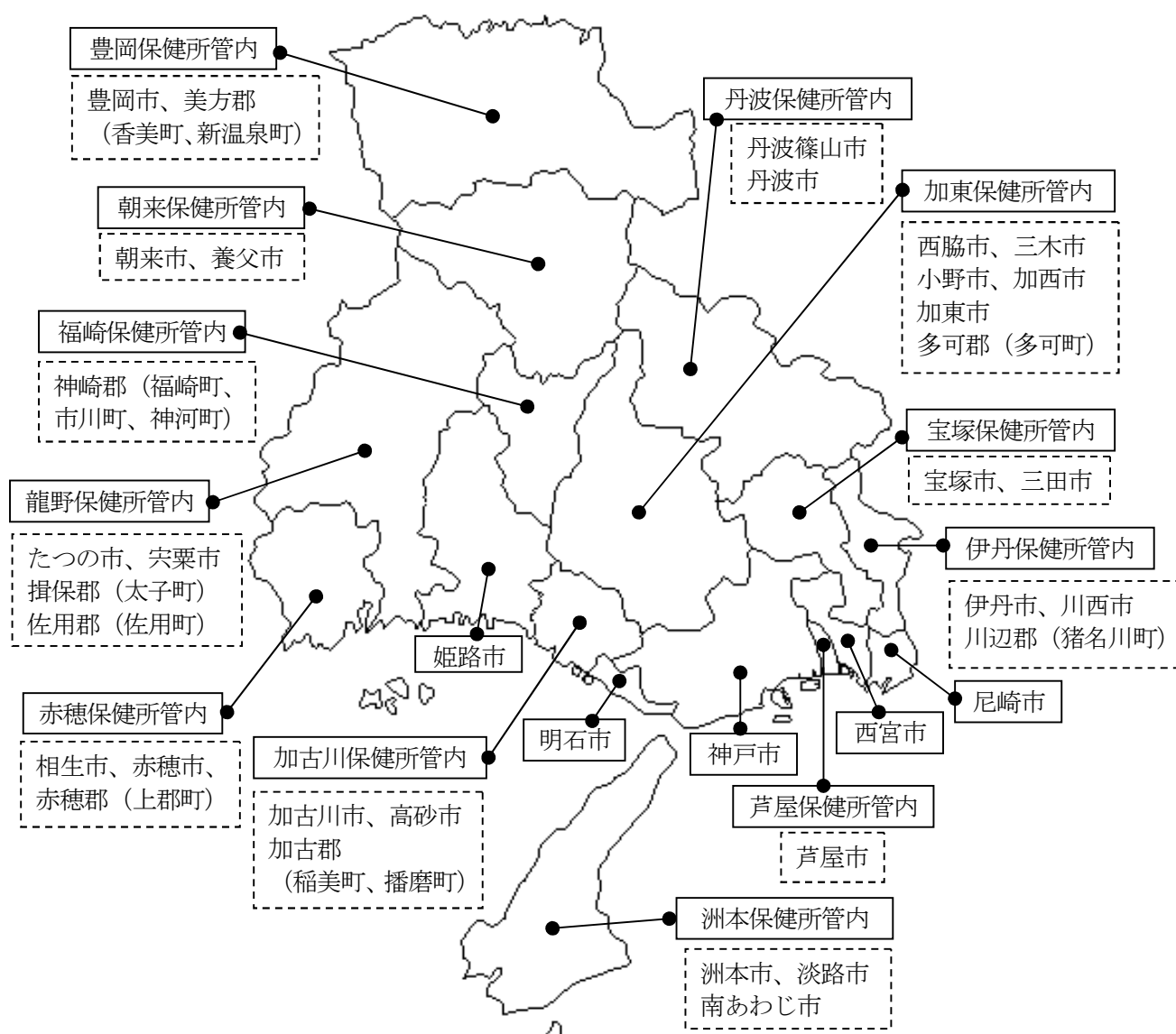


表3 地域別定点数と人口の関係

区分	人口 (万人)	人口比 (%)	インフルエンザ定点		小児科定点		眼科定点		性感染症定点		基幹定点	
			定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)
神戸市	152.4	27.9	48	3.2	31	4.9	10	15.2	12	12.7	3	50.8
尼崎市	45.1	8.3	15	3.0	10	4.5	3	15.0	4	11.3	1	45.1
姫路市	53.1	9.7	19	2.8	13	4.1	3	17.7	4	13.3	1	53.1
西宮市	48.7	8.9	14	3.5	9	5.4	3	16.2	3	16.2	1	48.7
明石市	29.9	5.5	11	2.7	7	4.3	2	15.0	2	15.0	0	—
芦屋 保健所管内	9.5	1.7	3	3.2	2	4.7	1	9.5	1	9.5	0	—
伊丹 保健所管内	38.2	7.0	12	3.2	8	4.8	2	19.1	2	19.1	0	—
宝塚 保健所管内	33.6	6.1	9	3.7	6	5.6	2	16.8	3	11.2	0	—
加古川 保健所管内	41.5	7.6	14	3.0	9	4.6	3	13.8	4	10.4	1	41.5
加東 保健所管内	26.6	4.9	13	2.0	8	3.3	2	13.3	3	8.9	1	26.6
龍野 保健所管内	16.0	2.9	8	2.0	5	3.2	1	16.0	1	16.0	1	16.0
赤穂 保健所管内	9.0	1.6	6	1.5	4	2.2	0	—	1	9.0	1	9.0
福崎 保健所管内	4.2	0.8	2	2.1	1	4.2	1	4.2	1	4.2	0	—
豊岡 保健所管内	10.9	2.0	8	1.4	5	2.2	1	10.9	1	10.9	1	10.9
朝来 保健所管内	5.2	0.9	3	1.7	2	2.6	0	—	1	5.2	1	5.2
丹波 保健所管内	10.2	1.9	6	1.7	4	2.5	0	—	1	10.2	1	10.2
洲本 保健所管内	12.8	2.3	8	1.6	5	2.6	1	12.8	2	6.4	1	12.8
合計	546.8	100.0	199	2.7	129	4.2	35	15.6	46	11.9	14	39.1

(人口:2019年7月1日推計人口)

2. 患者発生状況

2. 1 概要

2. 1. 1 全数把握対象疾病

表 4 に全数把握対象疾病の年間患者数を示す。2019 年は、一類感染症は報告がなく、二類感染症は結核 1,112 人であった。患者数の多い疾病は、三類感染症では腸管出血性大腸菌感染症 154 人、四類感染症ではレジオネラ症 92 人、五類感染症ではカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 103 人、侵襲性肺炎球菌感染症 189 人、梅毒 287 人、百日咳 714 人であった。

2018 年と比較すると、2019 年はつつが虫病、デング熱、日本紅斑熱、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、百日咳、麻しん等の患者数が増加した。

ダニ媒介感染症である日本紅斑熱の発病時期は 6～10 月、つつが虫病の発病時期は 11～12 月であった。蚊媒介感染症であるデング熱の感染地域は、すべてベトナム等の東南アジアであった。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の患者から分離された菌株の約 3 割を占める大腸菌及び肺炎桿菌の多くは、抗生物質を開裂する酵素カルバペネマーゼの遺伝子を保有していた。劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者数は年々増加傾向にあり、約 6 割が 70 歳以上であった。百日咳の患者は 5～14 歳が全体の 6 割以上と多く、20 歳以上は約 2 割を占めていた。麻しんは、4 月に遺伝子型 B3、6 月と 7 月に遺伝子型 D8 のウイルスによる流行がみられた。

2. 1. 2 定点把握対象疾病

表 5 に週報疾病別年間患者数を、表 6 に月報疾病別年間患者数を示す。

週報対象疾病のうち、インフルエンザ定点及び小児科定点対象疾病で 2019 年の患者数が多い疾病は、インフルエンザ 60,790 人、感染性胃腸炎 40,585 人、手足口病 17,231 人、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 9,528 人の順であった。2018 年と比較すると、手足口病 [3,268 人→17,231 人] 及び伝染性紅斑 [600 人→4,977 人] は患者数が増加し、流行性耳下腺炎 [647 人→385 人] は患者数が減少した。眼科定点対象疾病では、急性出血性結膜炎 [34 人→14 人] の患者数が減少した。基幹定点対象疾病では、無菌性髄膜炎 [32 人→70 人]、マイコプラズマ肺炎 [87 人→167 人] 及び感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるもの) [117 人→236 人] の患者数が増加した。

月報対象疾病のうち性感染症では、尖圭コンジローマ [192 人→221 人] の患者数がやや増加した。薬剤耐性菌感染症では、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 [51 人→36 人] の患者数がやや減少した。

表4 全数把握対象疾病の年間患者数（届出のあった疾病）

（2020年10月31日現在の兵庫県感染症情報センターにおける把握）

	疾 病 名	2017年患者数	2018年患者数	2019年患者数
二類	結核	1,166	1,170	1,112
三類	コレラ	0	1	0
	細菌性赤痢	6	6	2
	腸管出血性大腸菌感染症	96	133	154
	腸チフス	2	0	2
	パラチフス	0	2	0
四類	E型肝炎	3	13	11
	A型肝炎	21	17	9
	Q熱	0	1	0
	オウム病	1	0	0
	ジカウイルス感染症	1	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*A}	1	0	1
	チクングニア熱	0	0	2
	つつが虫病	1	4	8
	デング熱	7	7	14
	日本紅斑熱	7	9	19
	マラリア	4	1	2
	ライム病	0	2	0
	レジオネラ症	71	88	92
	レプトスピラ症	0	2	0
五類	アメーバ赤痢	40	30	33
	ウイルス性肝炎 ^{*B}	12	15	10
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	64	84	103
	急性弛緩性麻痺 ^{*C*1}	—	9	1
	急性脳炎 ^{*D}	34	34	40
	クリプトスポリジウム症	1	1	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	7	11	8
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	29	40	56
	後天性免疫不全症候群	36	26	25
	ジアルジア症	1	4	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	14	20	19
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	6	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	188	230	189
	水痘（入院例）	12	20	17
	梅毒	198	271	287
	播種性クリプトコックス症	6	10	5
	破傷風	3	3	2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3	3	3
	百日咳 ^{*2}	—	564	714
	風しん	7	51	49
麻しん	3	2	51	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	1	

^{*A} 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。^{*B} E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*C} 急性灰白髄炎を除く。^{*D} ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

^{*1} 2018年5月1日より追加。^{*2} 2018年1月1日より追加。

表5 疾病別年間患者数（週報）

疾 病 名	2017年		2018年		2019年	
	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり
インフルエンザ ^{*A}	51,814	260.38	70,073	352.26	60,790	305.54
RSウイルス感染症	6,485	50.3	4,749	36.85	6,552	50.85
咽頭結膜熱	3,737	29	2,761	21.42	3,589	27.85
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9,588	74.4	8,912	69.15	9,528	73.92
感染性胃腸炎	41,139	319.22	38,629	299.78	40,585	314.83
水痘	2,255	17.49	2,421	18.79	2,084	16.17
手足口病	15,180	117.88	3,268	25.36	17,231	133.64
伝染性紅斑	556	4.32	600	4.66	4,977	38.60
突発性発しん	2,542	19.73	2,359	18.31	2,096	16.26
ヘルパンギーナ	3,338	25.92	2,830	21.96	2,624	20.36
流行性耳下腺炎	3,395	26.34	647	5.02	385	2.99
急性出血性結膜炎	17	0.49	34	0.97	14	0.40
流行性角結膜炎	858	24.51	1,258	35.98	1,153	32.98
細菌性髄膜炎 ^{*B}	32	2.34	37	2.65	36	2.57
無菌性髄膜炎	50	3.62	32	2.29	70	5.00
マイコプラズマ肺炎	170	12.34	87	6.24	167	11.93
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	11	0.79	2	0.14	1	0.07
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルス)	164	12.09	117	8.36	236	16.86

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

表6 疾病別年間患者数（月報）

疾 病 名	2017年		2018年		2019年	
	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり
性器クラミジア感染症	1025	22.28	1,077	23.45	1,130	24.57
性器ヘルペスウイルス感染症	304	6.61	376	8.19	364	7.91
尖圭コンジローマ	203	4.41	192	4.18	221	4.80
淋菌感染症	309	6.72	317	6.90	299	6.50
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	458	32.71	528	38.73	556	39.71
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	78	5.57	51	3.74	36	2.57
薬剤耐性緑膿菌感染症	6	0.43	9	0.65	5	0.36

2.2 結核、腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒、百日咳及び定点把握対象疾病の動向

2019年の感染症発生動向調査事業における週報及び月報の患者情報を解析し、週（月）別患者数、保健所別患者数及び年齢階級別患者数を求めた。性感染症では性別・年齢階級別患者数を求めた。これらの統計表は付表として本誌56～68ページに掲載した。

全数把握対象疾病のうち患者数の多い結核、腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒、百日咳、及び定点把握対象疾病について、各疾病の動向を以下に示す。

(1) 結核

結核の年間患者数は1,112人で、2018年の1,170人より減少した。2010～2013年は年間1,500人前後で推移していたが、2014年以降はやや減少傾向を示し、2016～2019年は年間1,100人台となっている。性別分布は男性606人、女性506人であった。

患者の年齢階級別割合は10歳未満2%、10歳代1%、20歳代6%、30歳代4%、40歳代7%、50歳代9%、60歳代12%、70歳代21%、80歳代27%、90歳以上10%と、70歳以上の高齢者が全体の58%を占めていた。

病型別では、肺結核が539人(48%)、肺結核及びその他の結核が44人(4%)、その他の結核が186人(17%)、無症状病原体保有者が337人(30%)、疑似症患者が6人(1%)であった。

図 3-1 結核の週別患者数

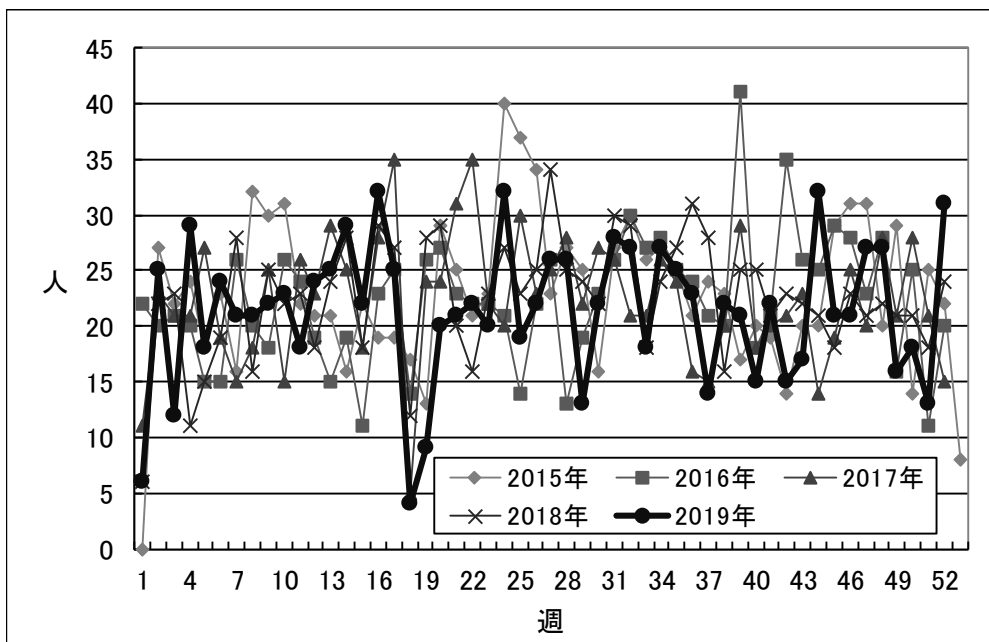
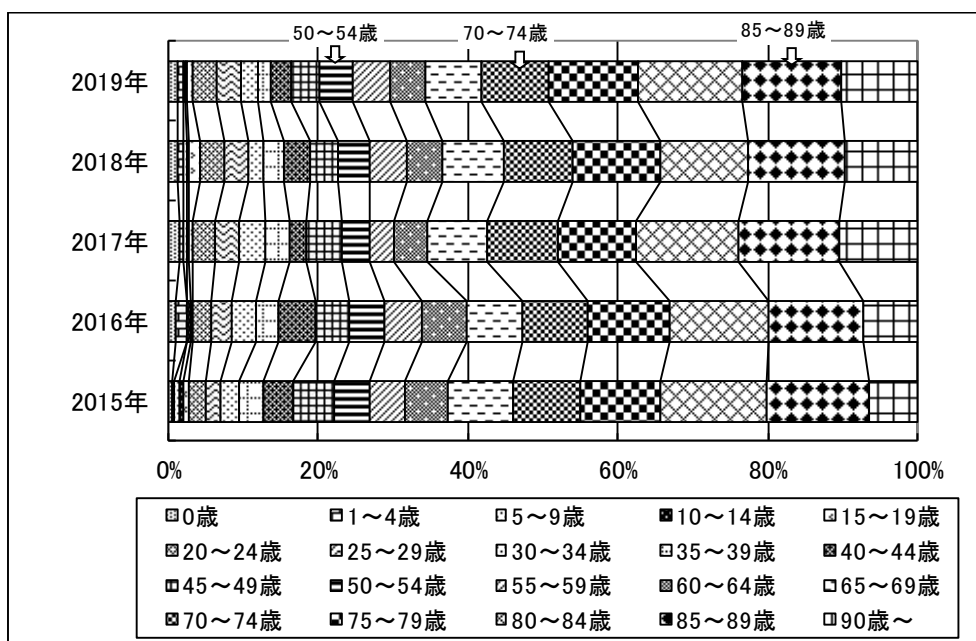


図 3-2 結核患者の年齢階級別割合



(2) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の年間患者数は154人で、2018年の133人より増加した。23週（6月上旬）、31週（8月上旬）、39週（9月下旬）及び43週（10月下旬）には、10人以上の患者が報告された。性別分布は男性71人、女性83人であった。

患者の年齢階級別割合は10歳未満25%、10歳代20%、20歳代18%、30歳代14%、40歳代9%、50歳代5%、60歳代3%、70歳以上5%であった。

有症者は110人で、うち6人が溶血性尿毒症症候群を発症し、無症状病原体保有者は44人であった。O血清型別では、O157が102人、O145が15人、O26が14人の順で多くなった。

図 4-1 腸管出血性大腸菌感染症の週別患者数

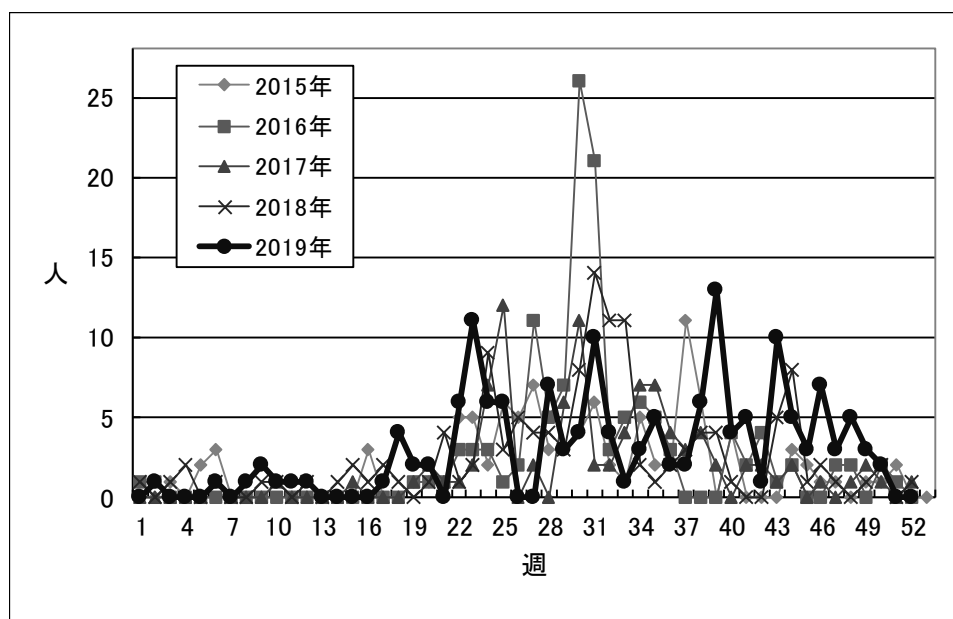
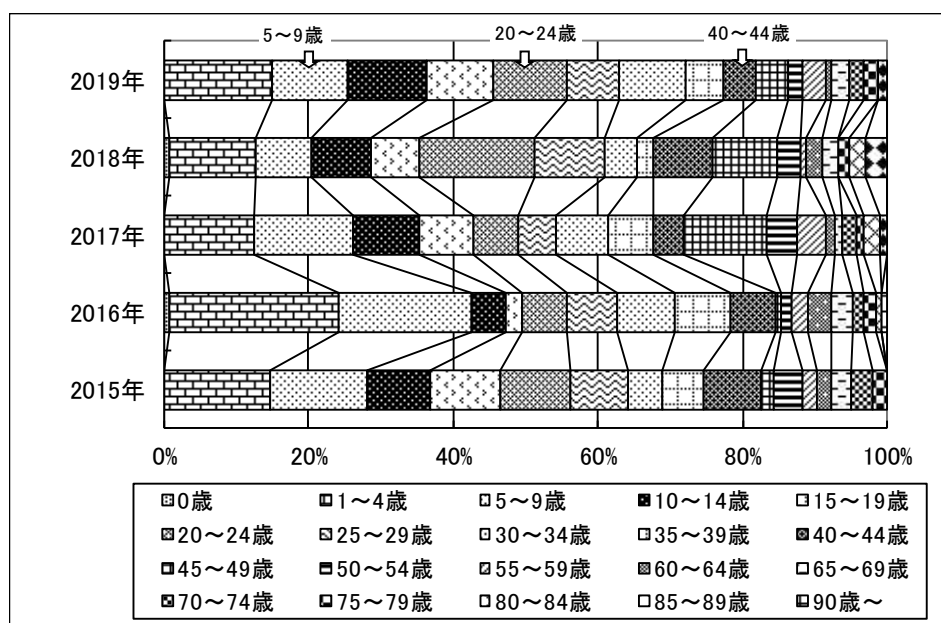


図 4-2 腸管出血性大腸菌感染症患者の年齢階級別割合



(3) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症の年間患者数は189人で、2018年の230人より減少した。性別分布は男性111人、女性78人であった。本疾病は、2013年4月1日より全数把握対象疾病に追加され、冬から初夏にかけて患者発生が増加する傾向が見られる。

患者の年齢階級別割合は10歳未満20%、10歳代1%、20歳代0%、30歳代2%、40歳代2%、50歳代8%、60歳代14%、70歳代22%、80歳代24%、90歳以上8%となり、4歳以下の乳幼児と65歳以上の高齢者として全体の79%を占めていた。

4歳以下の患者33人中31人はワクチン接種をしていたが、65歳以上の患者117人中、ワクチン接種有りは21人、接種無しが44人、不明が52人であった。

図5-1 侵襲性肺炎球菌感染症の週別患者数

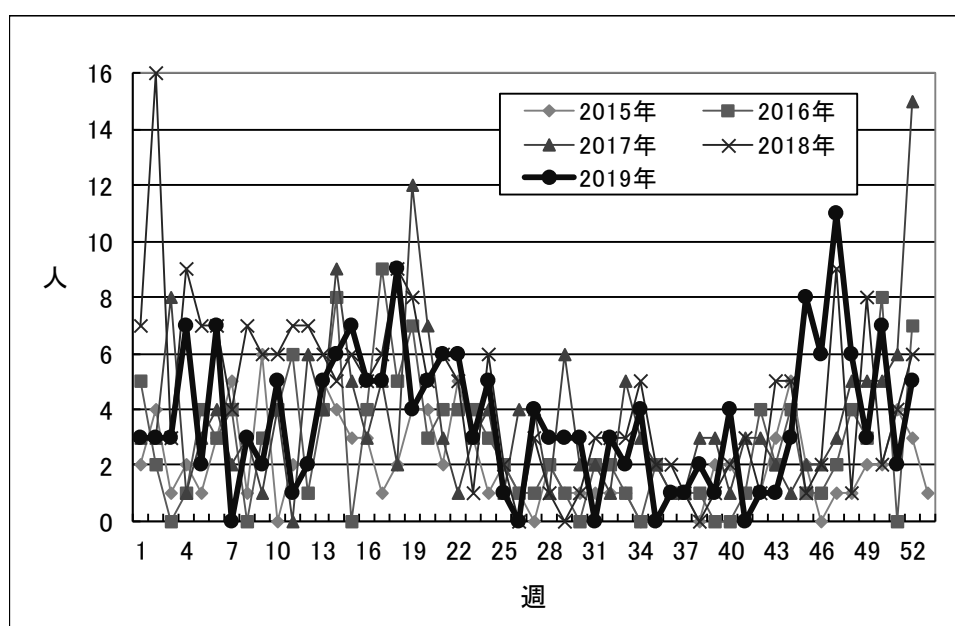
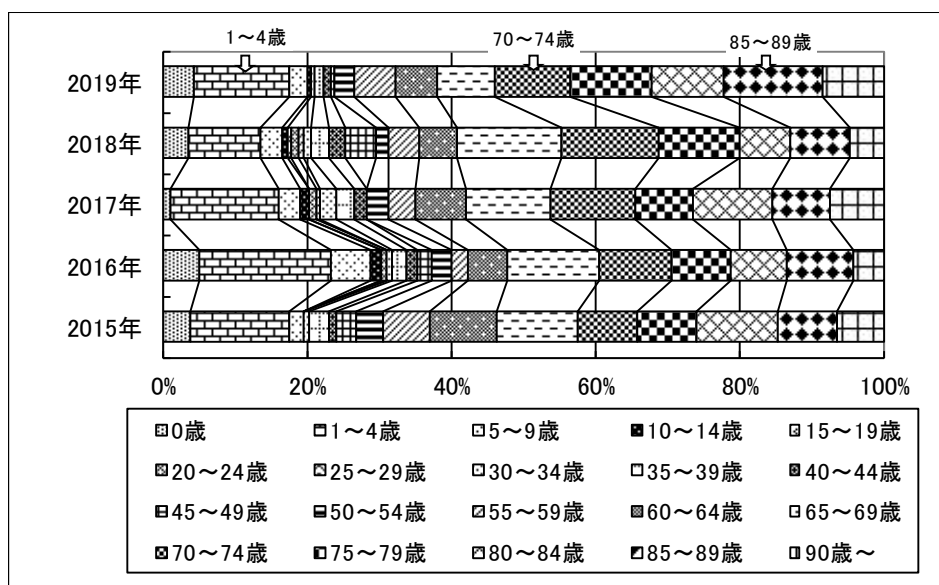


図5-2 侵襲性肺炎球菌感染症患者の年齢階級別割合



(4) 梅毒

梅毒の年間患者数は287人で、2018年の271人より増加した。性別分布は男性164人（2018年190人）、女性123人（2018年81人）と、2019年は女性患者が著しく増加した。

患者の年齢階級別割合は10歳代14%、20歳代32%、30歳代17%、40歳代19%、50歳代9%、60歳代4%、70歳代2%、80歳以上2%となり、20～40歳代の患者数が多くなっている。

感染原因として、9割が性的接触を報告しており、感染地域は兵庫県内が187人、その他国内が52人、国外が3人、不明が45人であった。

図 6-1 梅毒の週別患者数

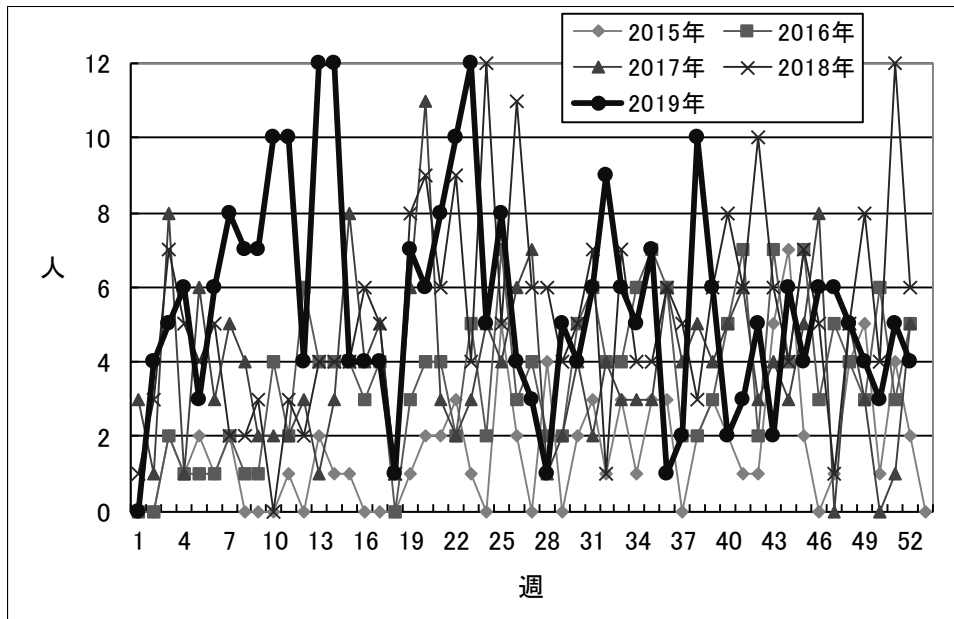


図 6-2 梅毒患者の年齢階級別割合

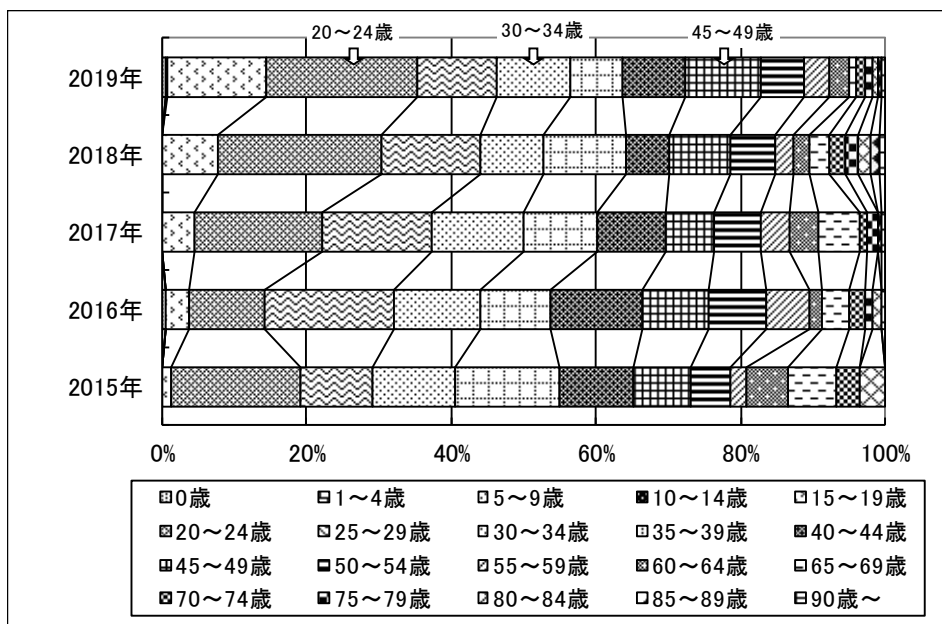


図 6-3 梅毒の年齢階級別患者数（男性）

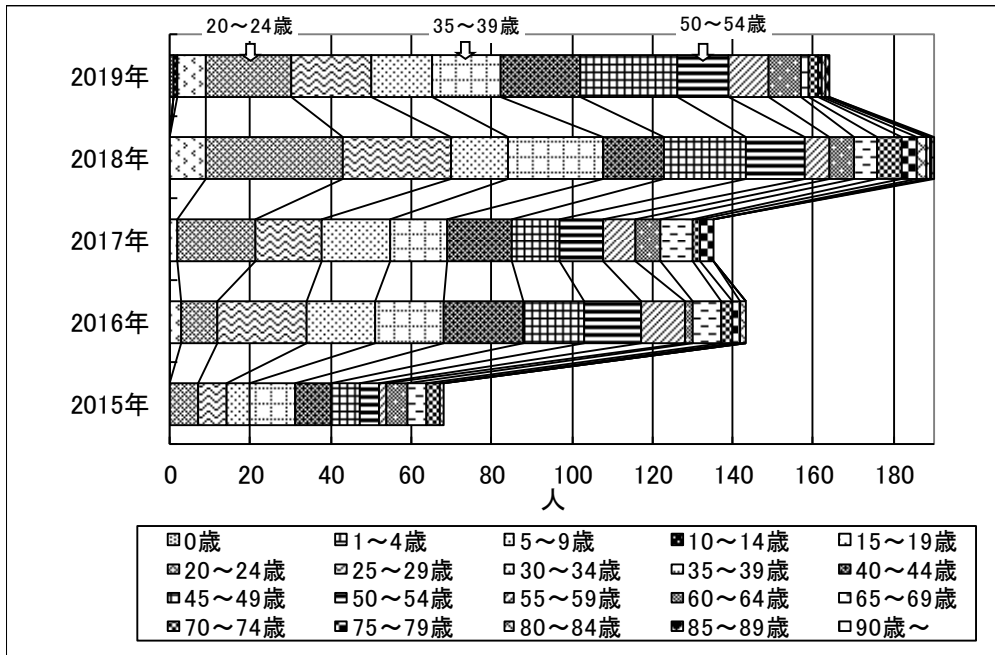
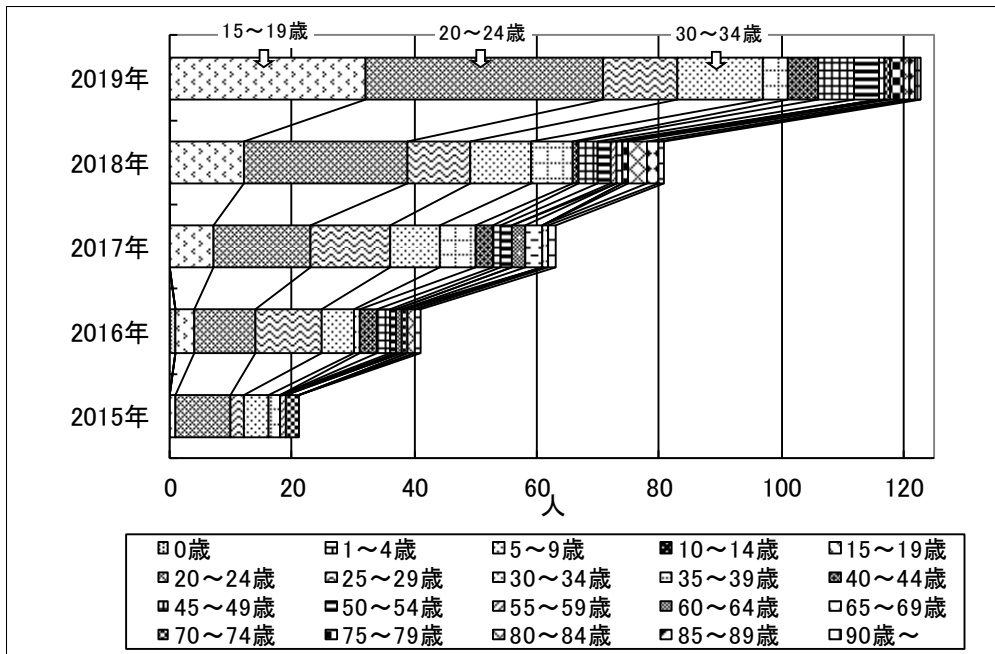


図 6-4 梅毒の年齢階級別患者数（女性）



(5) 百日咳

百日咳の年間患者数は714人で、2018年の564人より増加した。性別分布は男性306人、女性408人であった。本疾病は、2018年1月1日より、すべての医療機関が届出する全数把握対象疾病に変更になり、成人の患者を含めて発生状況が把握できるようになった。

患者の年齢階級別割合は10歳未満54%、10歳代25%、20歳代3%、30歳代5%、40歳代7%、50歳代2%、60歳代2%、70歳以上2%となり、5～14歳の割合が64%と多く、成人患者は全体の20%を占めていた。

感染経路として、家族内感染が180人から、学校での流行が102人から報告されている。乳児期に接種したワクチンの効果は、学童期にすでに低下していると推定される。

図 7-1 百日咳の週別患者数

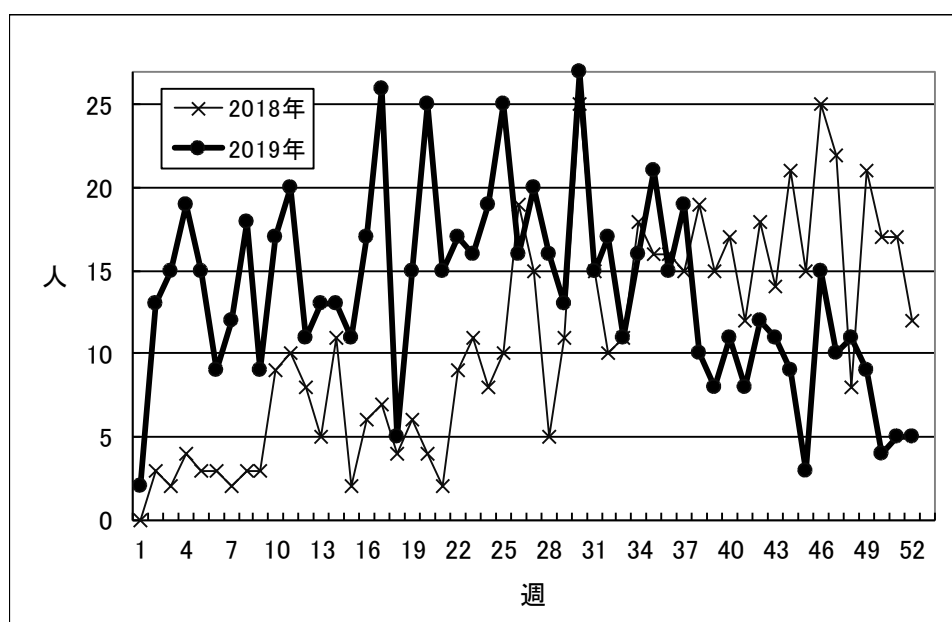
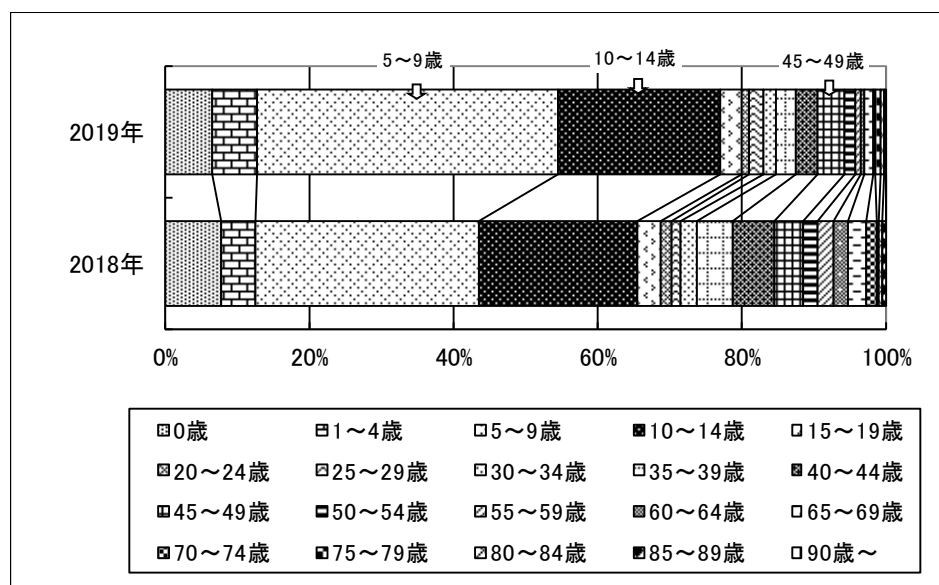


図 7-2 百日咳患者の年齢階級別割合



(6) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

年間患者数は60,790人（定点あたり305.54人）で、2018年の70,073人（352.26人）より減少した。週別定点あたり患者数は、2週（1月上旬）に定点あたり30人を超えて警報レベルとなり、4週（1月下旬）には最大のピーク（52.91人）を示した。その後、7週（2月中旬）には定点あたり10人を、13週（3月下旬）には定点あたり1.0人を下回った。また、年末47週（11月下旬）から流行開始の目安とされる定点あたり1.0人を超えて流行期に入り、52週（12月下旬）に定点あたり10人を超えて注意報レベルとなった。

当研究所で行った検査ではA(H1N1)pdm09、A(H3N2)型及びB型（Victoria系統）のインフルエンザウイルスを266件検出した。年初の1月～3月にはA(H1N1)pdm09及びA(H3N2)型を同時に検出し、その後5月にかけて主にA(H3N2)型とB型（Victoria系統）の検出が継続した。また、11月以降は、主にA(H1N1)pdm09を検出した。

患者の年齢階級別割合では、9歳以下の患者が全体の51%、14歳以下の患者が全体の68%を占めていた。

図 8-1 インフルエンザの週別定点あたり患者数

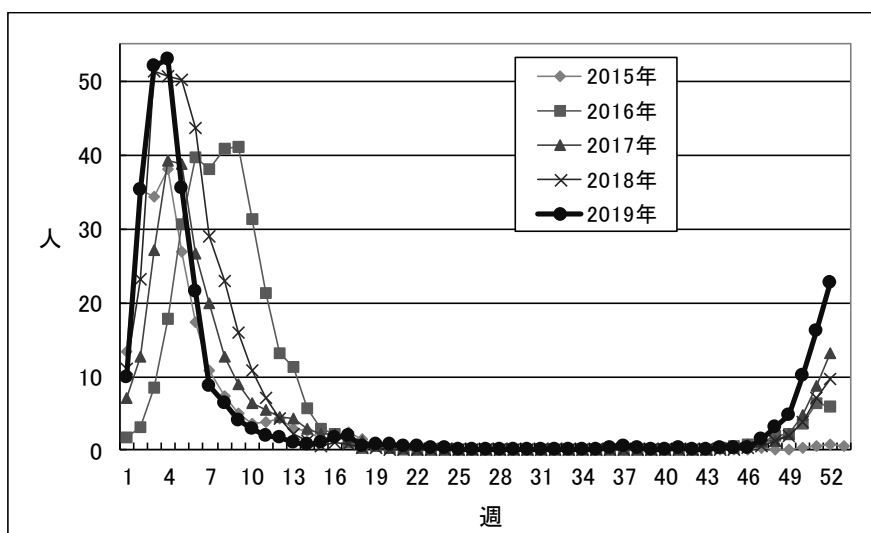
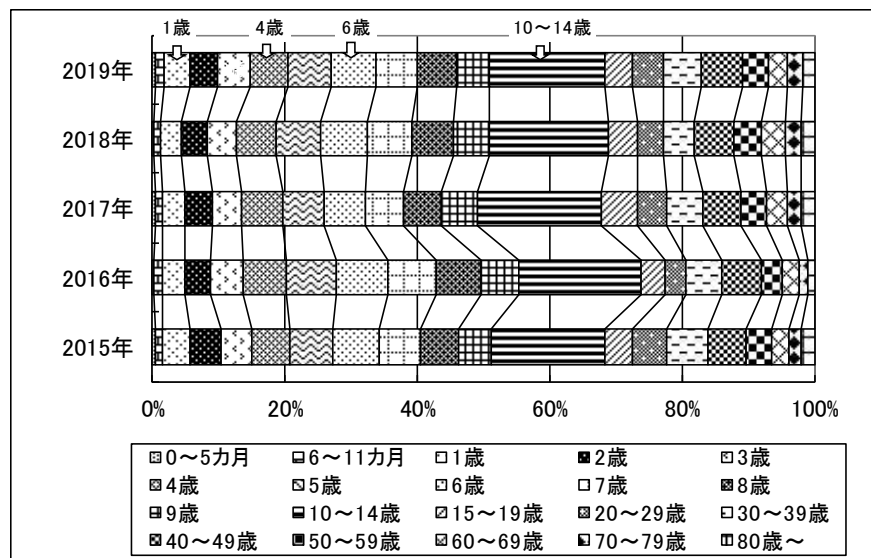


図 8-2 インフルエンザ患者の年齢階級別割合



(7) RS ウイルス感染症

本疾病は2003年11月に小児科定点対象疾病となった。患者報告には検査診断が必要だが、2011年10月より迅速診断キットによる抗原検査の保険適用が拡大され、従来入院患者に加えて外来患者の乳児（1歳未満）等にも適用可能となっている。

2019年の年間患者数は6,552人（定点あたり50.85人）で、2018年の4,749人（36.85人）より増加し、過去最大となった。

週別定点あたり患者数は30週（7月下旬）から増加し始め、37週（9月中旬）に最大のピーク（4.67人）を示した後、44週（10月下旬）には定点あたり1.0人を下回った。

患者の年齢階級別割合では、0歳の患者が全体の30%、1歳以下の患者が64%、2歳以下の患者が83%を占めていた。

図 9-1 RS ウイルス感染症の週別定点あたり患者数

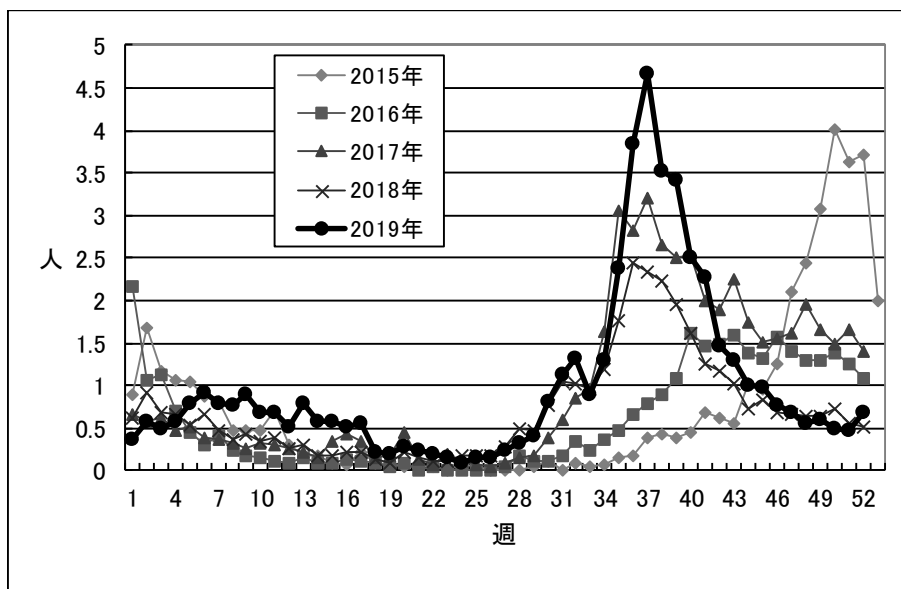
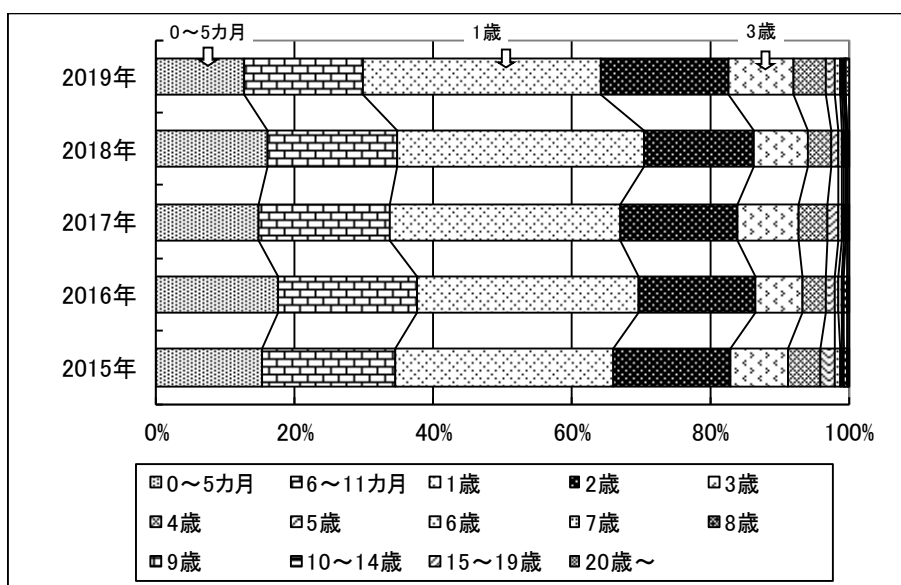


図 9-2 RS ウイルス感染症患者の年齢階級別割合



(8) 咽頭結膜熱

年間患者数は3,589人（定点あたり28.85人）で、2018年の2,761人（21.42人）より増加した。

週別定点あたり患者数は19週（4月下旬）から増加し始め、増減を繰り返した後、45週（11月上旬）以降に再び増加して、50週（12月中旬）に最大のピーク（0.90人）を示した。

患者の年齢階級別割合は1歳25%、2歳15%、3歳15%、4歳14%、5歳10%の順で多く、0～5歳の患者が全体の85%、0～9歳の患者が全体の97%を占めていた。

図 10-1 咽頭結膜熱の週別定点あたり患者数

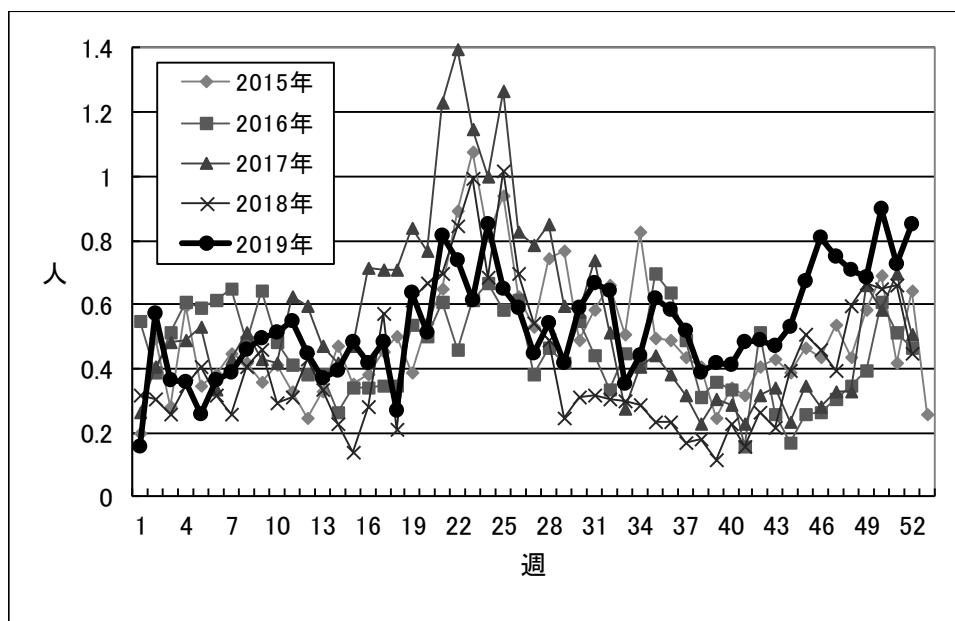
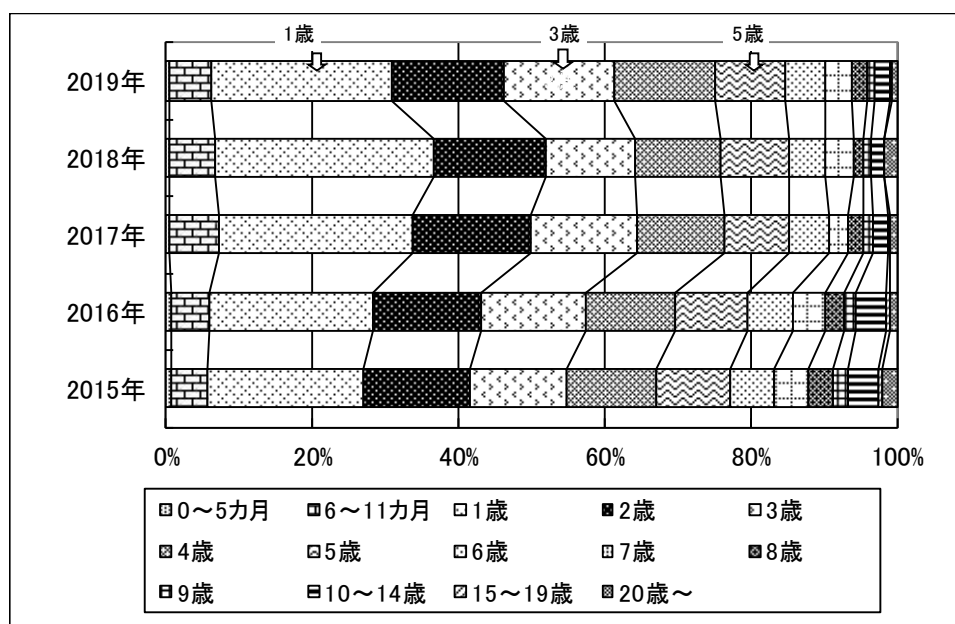


図 10-2 咽頭結膜熱患者の年齢階級別割合



(9) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

年間患者数は9,528人(定点あたり73.92人)で、2018年の8,912人(69.15人)より増加した。

週別定点あたり患者数は22週(5月下旬)にピーク(2.53人)を示した後、29週(7月中旬)以降は比較的患者数が少ない状態が続いたが、46週(11月中旬)以降に再び増加した。

患者の年齢階級別割合は5歳14%、6歳13%、4歳13%、7歳11%、3歳10%の順で多く、1~9歳の患者が全体の84%、1~14歳の患者が全体の95%を占めていた。

図 11-1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の週別定点あたり患者数

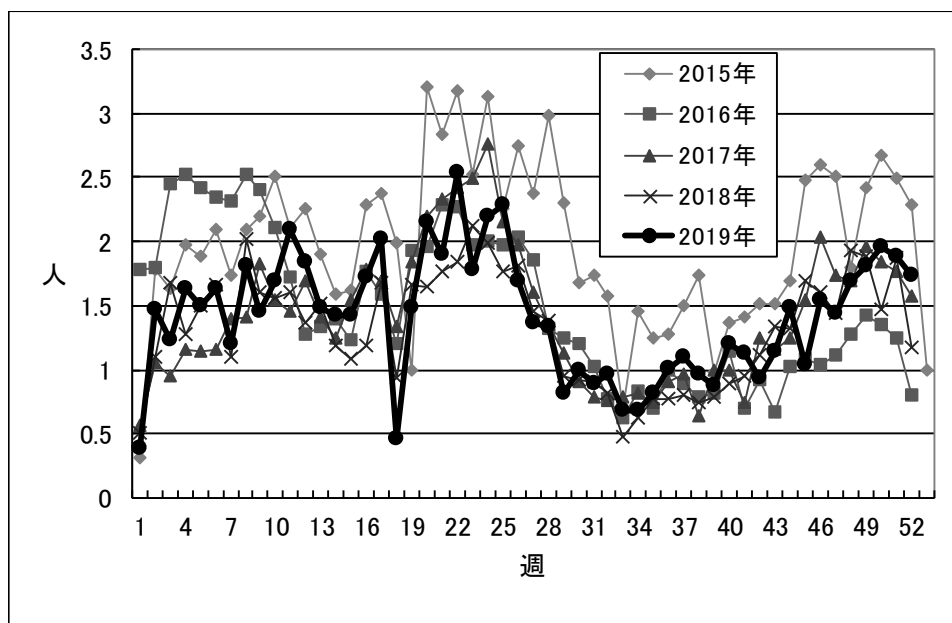
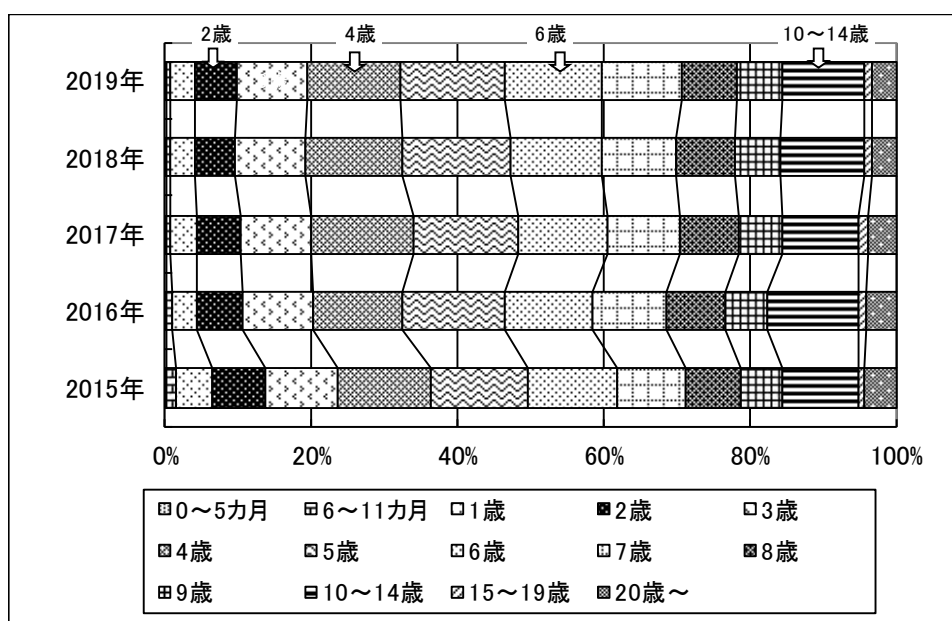


図 11-2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者の年齢階級別割合



(10) 感染性胃腸炎

年間患者数は40,585人（定点あたり314.83人）で、2018年の38,629人（299.78人）より増加した。

週別定点あたり患者数は17週（4月下旬）にピーク（10.85人）を示した後、秋期に向けて減少し、年末48週（11月下旬）以降に再び増加した。

患者の年齢階級別割合は1歳14%、2歳12%、3歳11%、4歳10%、5歳9%の順で多く、0～5歳の患者が全体の61%、0～9歳の患者が全体の81%を占めていた。

図12-1 感染性胃腸炎の週別定点あたり患者数

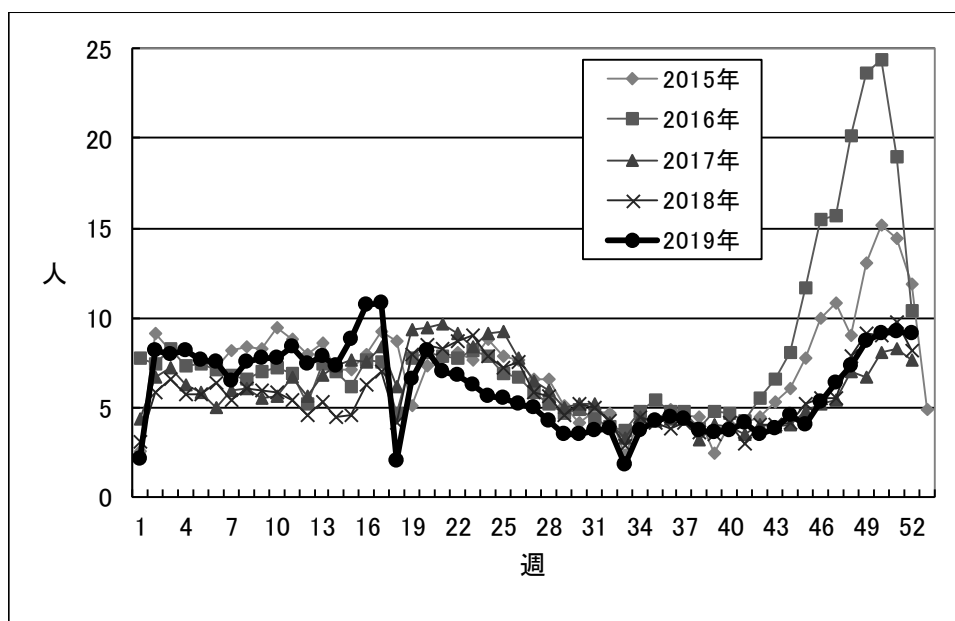
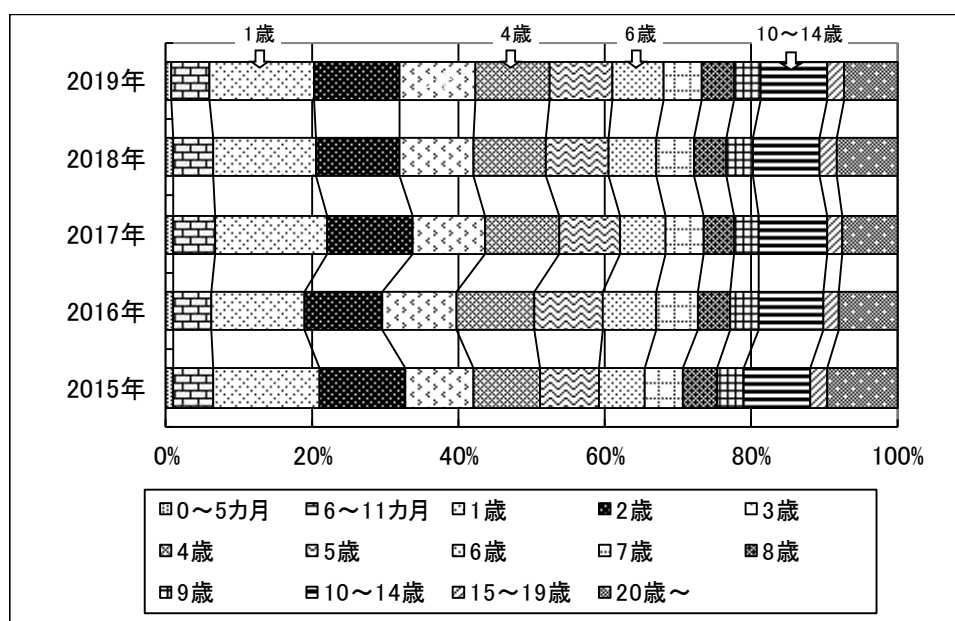


図12-2 感染性胃腸炎患者の年齢階級別割合



(11) 水痘

年間患者数は2,084人（定点あたり16.17人）で、2018年の2,421人（18.79人）より減少した。

2014年10月1日から水痘ワクチンが定期接種化され、これに先立って、2014年9月19日から24時間以上の入院を要した水痘症例が全数届出対象となった。

2015年以降の小児科定点からの週別定点あたり患者数は、ワクチン接種の効果によるものか、以前よりも少なく、小さい変動で推移している。

患者の年齢階級別割合は7歳14%、6歳13%、5歳11%、8歳9%、4歳8%の順で多く、4～9歳の患者が全体の63%を占めていた。10歳以上の患者割合が増加傾向にある。

図 13-1 水痘の週別定点あたり患者数

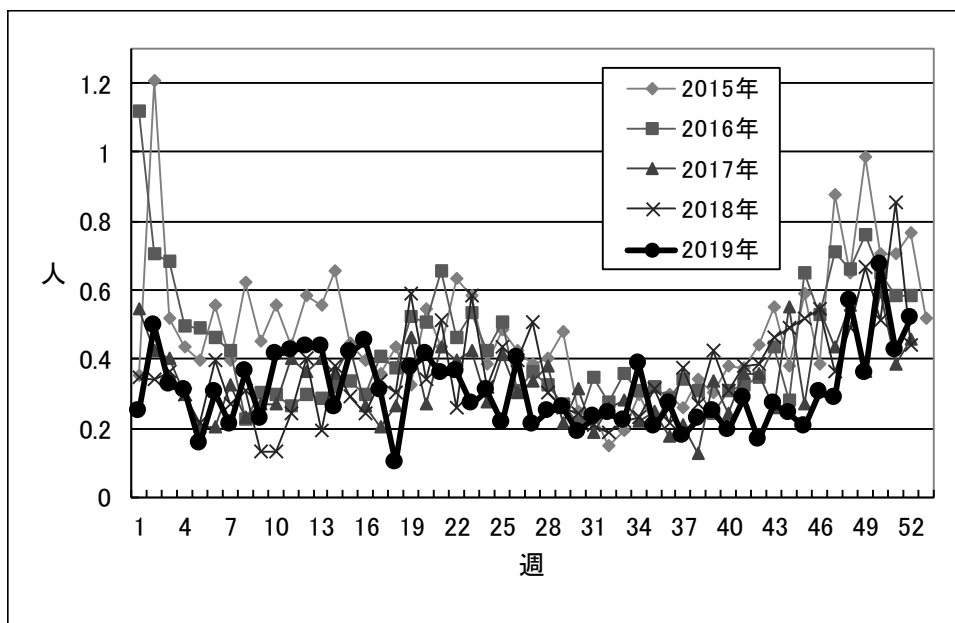
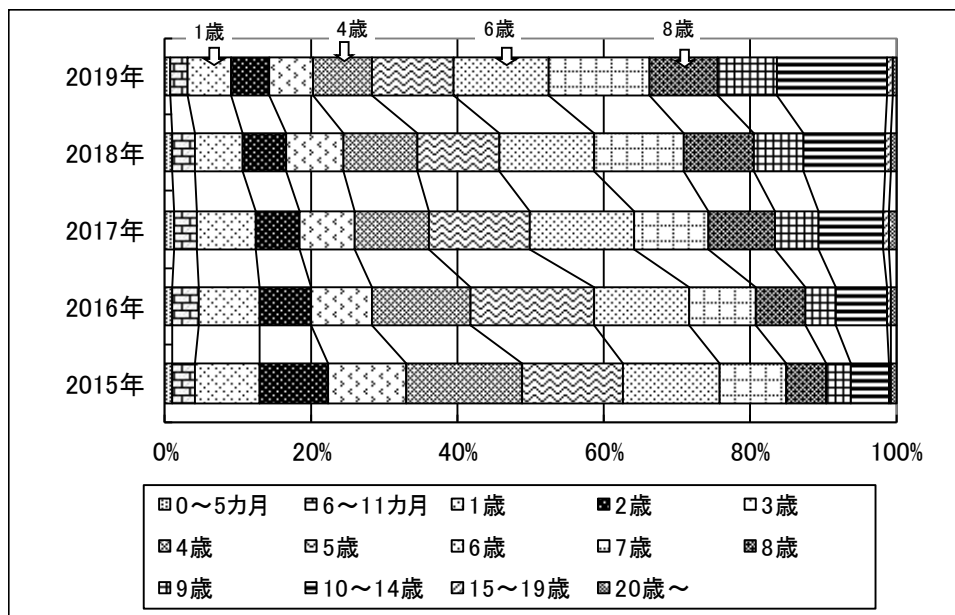


図 13-2 水痘患者の年齢階級別割合



(12) 手足口病

年間患者数は17,231人（定点あたり133.64人）で、2018年の患者数3,268人（25.36人）より大幅に増加した。

週別定点あたり患者数は21週（5月下旬）から増加し始め、28週（7月中旬）にピーク（17.88人）を示した後、40週（10月下旬）には定点あたり1.0人を下回った。

患者の年齢階級別割合は1歳30%、2歳21%、3歳14%、4歳11%の順で多く、0～5歳の患者が全体の91%を占めていた。

当研究所で行った検査では、主にコクサッキーウイルスA6型（CA6）が検出された

図 14-1 手足口病の週別定点あたり患者数

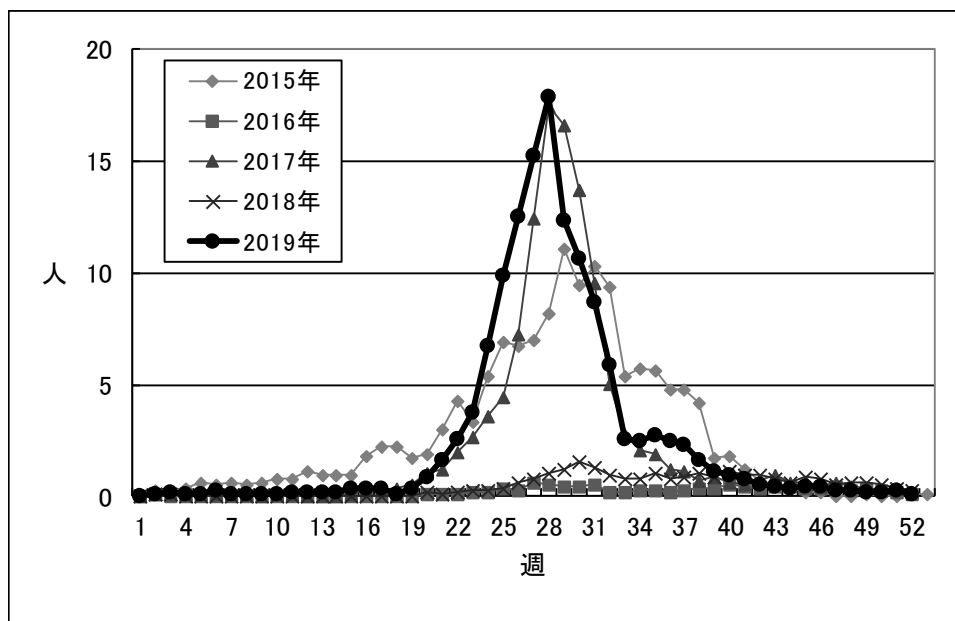
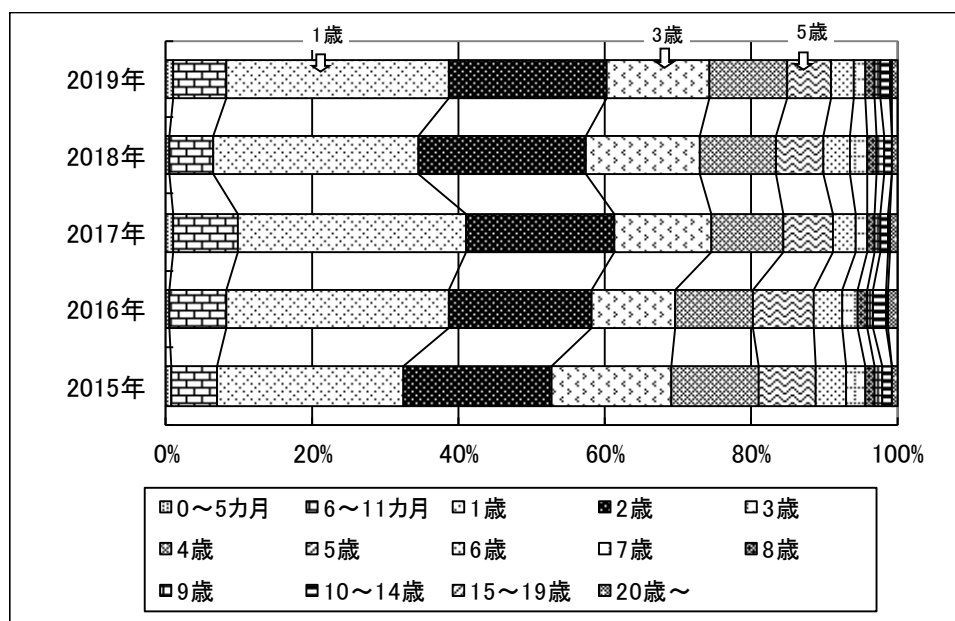


図 14-2 手足口病患者の年齢階級別割合



(13) 伝染性紅斑

年間患者数は4,977人(定点あたり38.60人)で、2018年の600人(4.66人)より大幅に増加し、4年ぶりの流行となった。

週別定点あたり患者数は16週(4月中旬)以降、増減を繰り返しながらも多い状態で推移し、36週(9月上旬)に最大のピーク(1.26人)を示した。

患者の年齢階級別割合は5歳17%、4歳16%、6歳13%、3歳11%、7歳10%の順で多く、3～7歳の患者が全体の68%を占めていた。

図 15-1 伝染性紅斑の週別定点あたり患者数

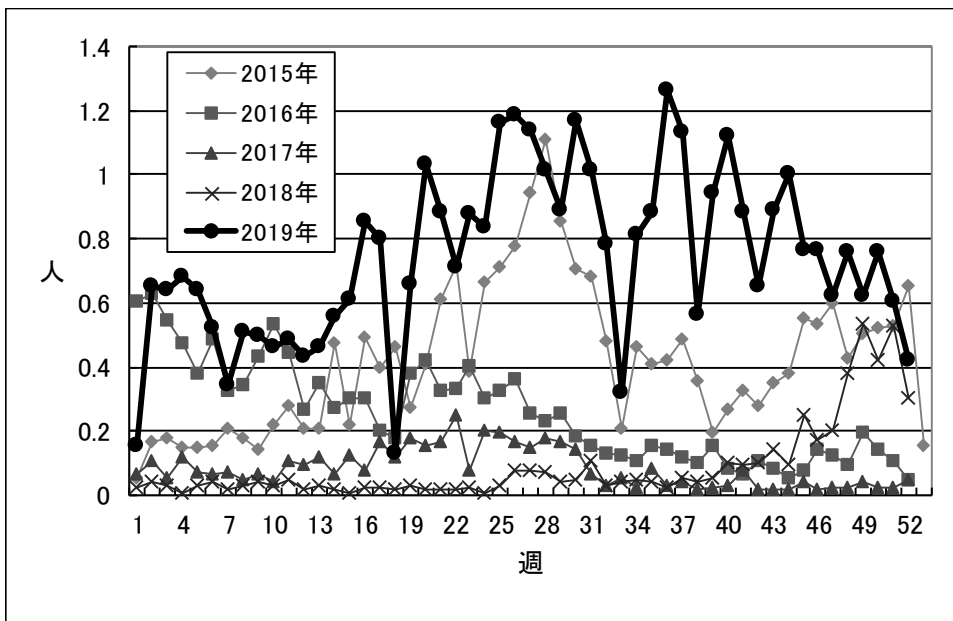
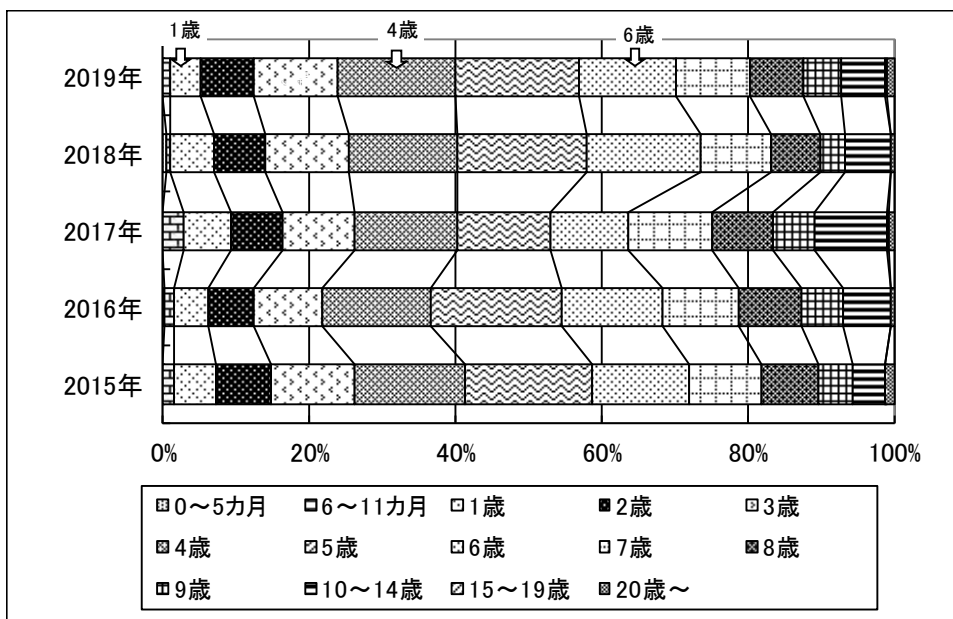


図 15-2 伝染性紅斑患者の年齢階級別割合



(14) 突発性発しん

年間患者数は2,096人（定点あたり16.26人）で、2018年の2,359人（18.31人）より減少した。年間患者数の経年の推移に多少のバラツキはみられるが、2000年以降緩やかな減少傾向が続いている。本疾病は1年を通じて患者が発生し、季節性が明瞭でない。週別定点あたり患者数は、0.06～0.51人の間で推移した。

患者の年齢階級別割合は0歳が34%、1歳が50%、2歳が10%を占めていた。

図 16-1 突発性発しんの週別定点あたり患者数

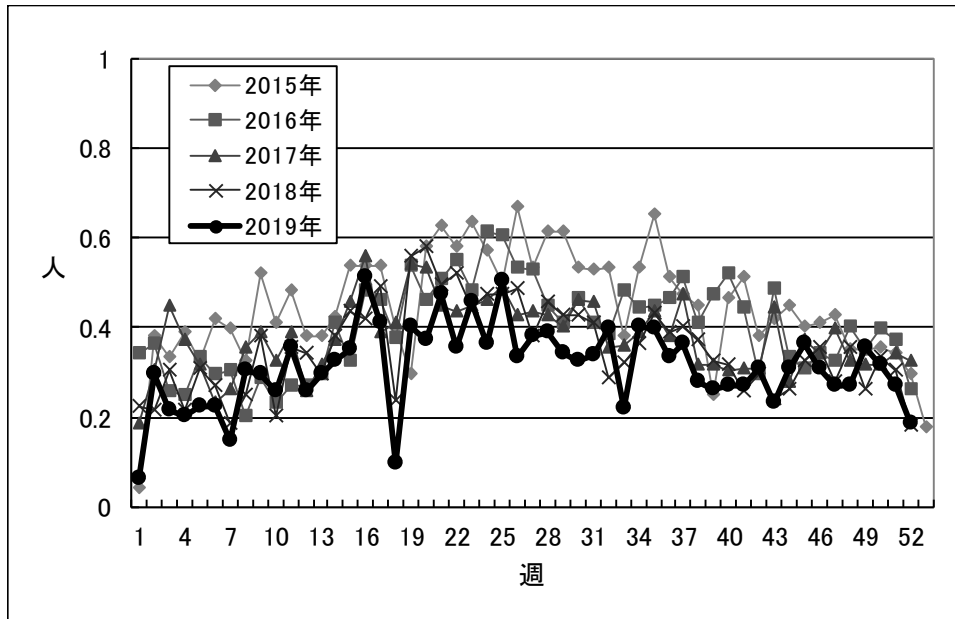
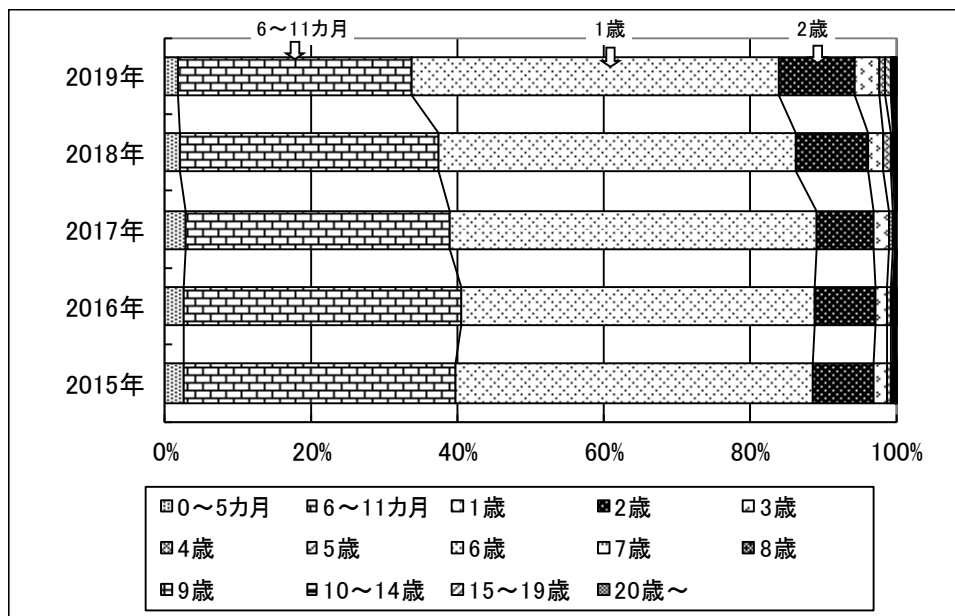


図 16-2 突発性発しん患者の年齢階級別割合



(15) ヘルパンギーナ

年間患者数は2,624人（定点あたり20.36人）で、2018年の2,830人（21.96人）より減少した。

週別定点あたり患者数は20週（5月中旬）頃から増加が始まり、28週（7月中旬）にピーク（2.42人）を示した後減少に転じ、45週（11月上旬）頃に終息した。

患者の年齢階級別割合は1歳27%、2歳20%、3歳14%、4歳11%、0歳10%の順で多く、0～5歳の患者が全体の89%を占めていた。

図 17-1 ヘルパンギーナの週別定点あたり患者数

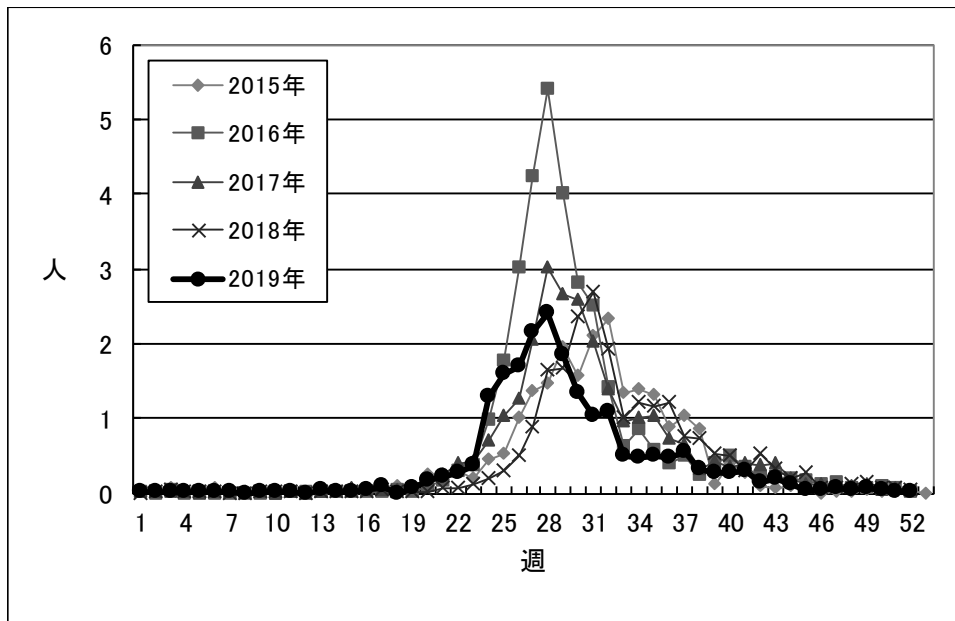
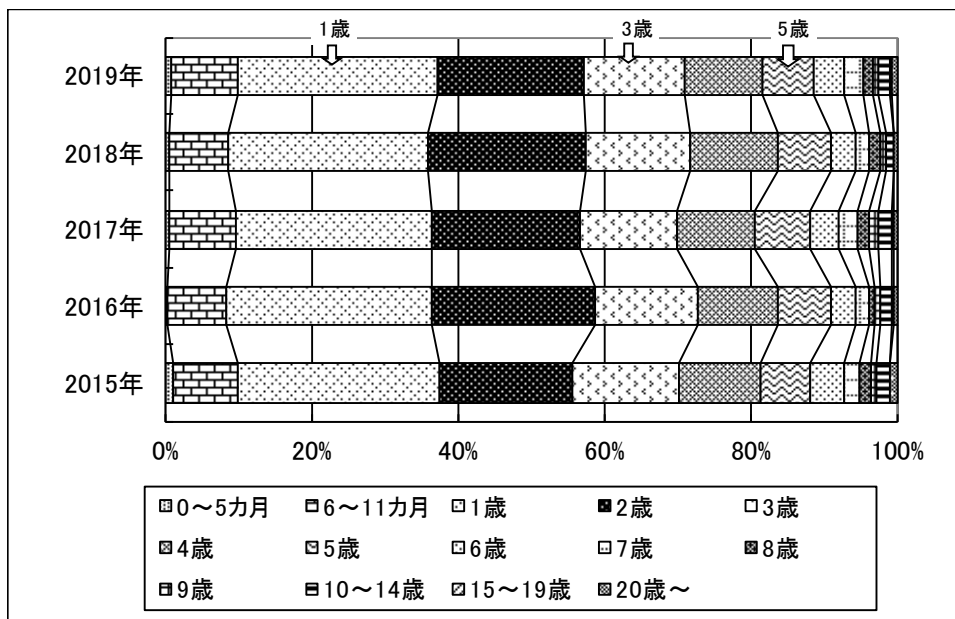


図 17-2 ヘルパンギーナ患者の年齢階級別割合



(16) 流行性耳下腺炎

年間患者数は385人（定点あたり2.99人）で、2018年の647人（5.02人）より減少した。週別定点あたり患者数は0.00～0.20人の間で推移した。

患者の年齢階級別割合は5歳15%、6歳12%、8歳12%、4歳11%、7歳10%の順で多く、3～8歳の患者が全体の70%を占めていた。

図 18-1 流行性耳下腺炎の週別定点あたり患者数

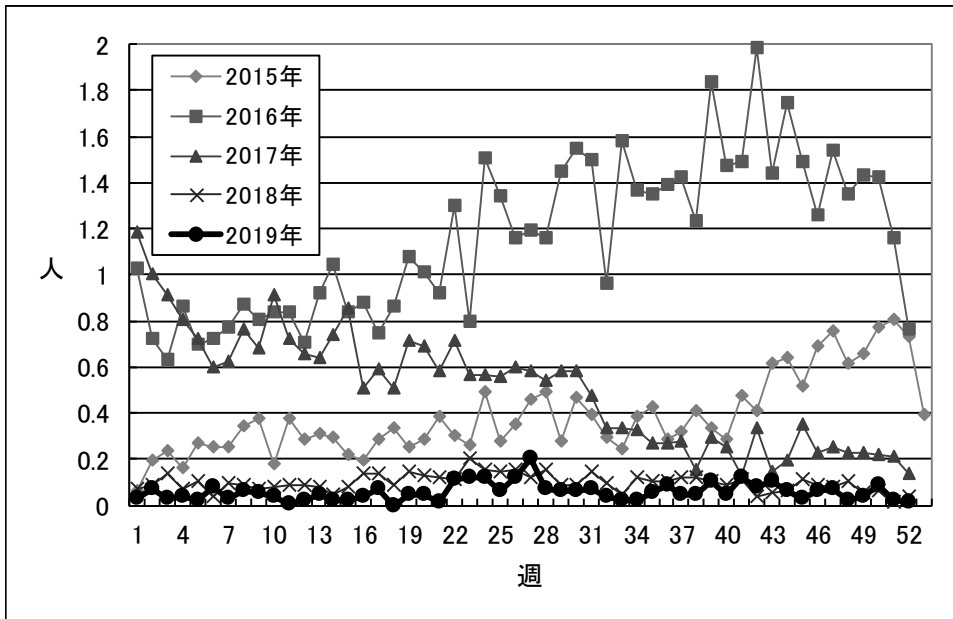
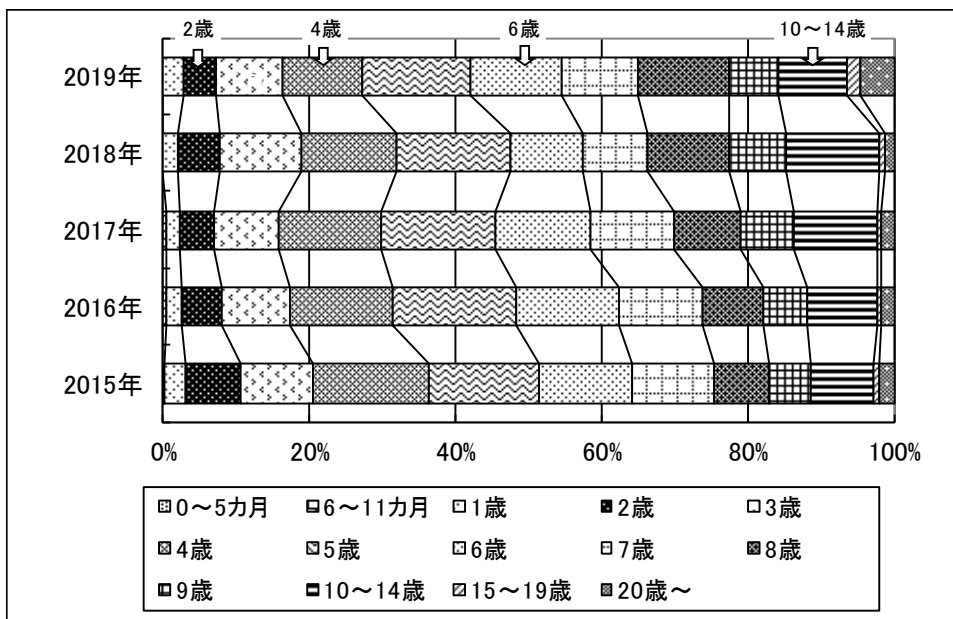


図 18-2 流行性耳下腺炎患者の年齢階級別割合



(17) 急性出血性結膜炎

年間患者数は14人（定点あたり0.40人）で、2018年の34人（0.97人）より減少した。

2007年以降、定点あたり患者数は1人未満の少ない状態で推移している。

患者の年齢階級別割合は50歳代29%、20歳代と40歳代が各21%、30歳代14%の順で多くなっていた。

図 19-1 急性出血性結膜炎の週別定点あたり患者数

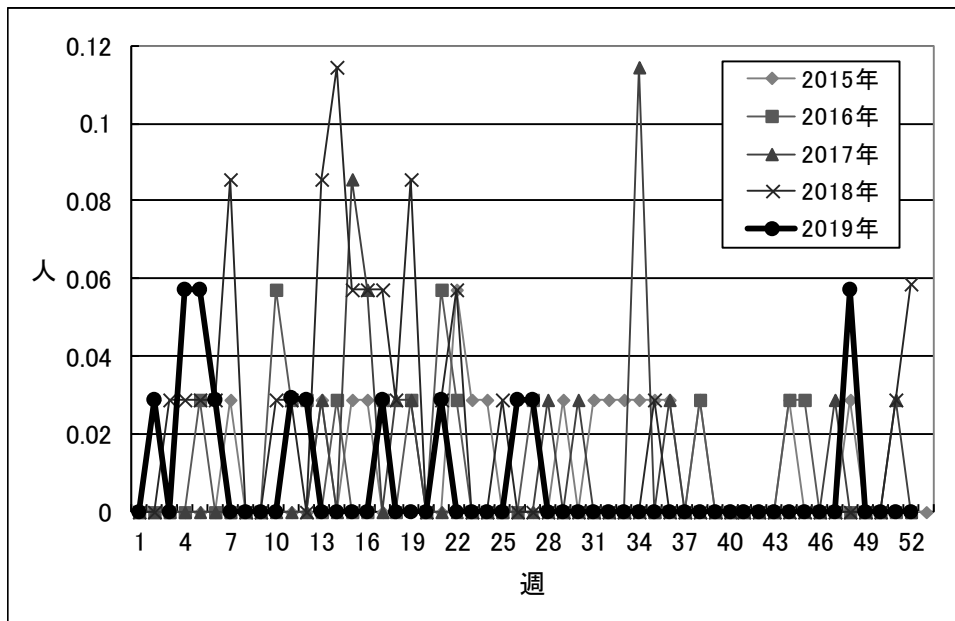
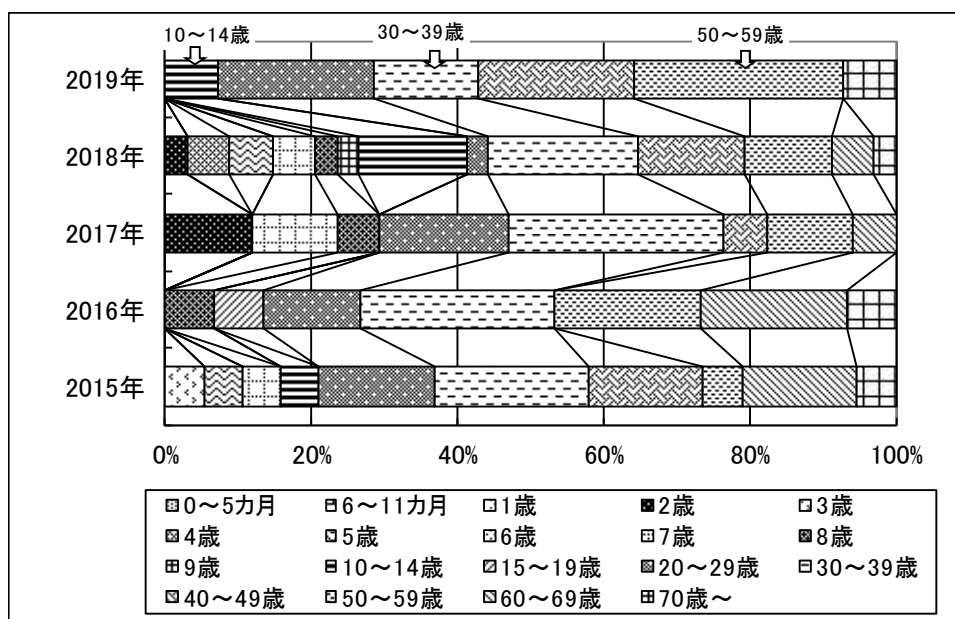


図 19-2 急性出血性結膜炎患者の年齢階級別割合



(18) 流行性角結膜炎

年間患者数は1,153人（定点あたり32.98人）で、2018年の1,258人（35.98人）より減少した。

週別定点あたり患者数は、2週（1月上旬）にピーク（1.11人）を示したが、年間を通して変動は比較的小さかった。

患者の年齢階級別割合は0～9歳32%、30歳代23%がやや多いが、各年齢層で患者が発生していた。

図 20-1 流行性角結膜炎の週別定点あたり患者数

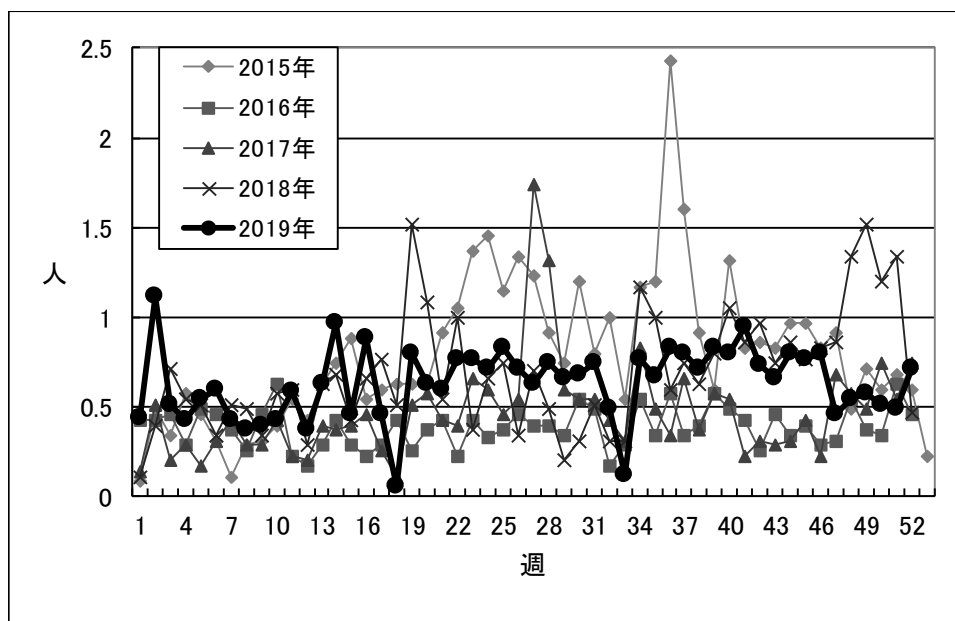
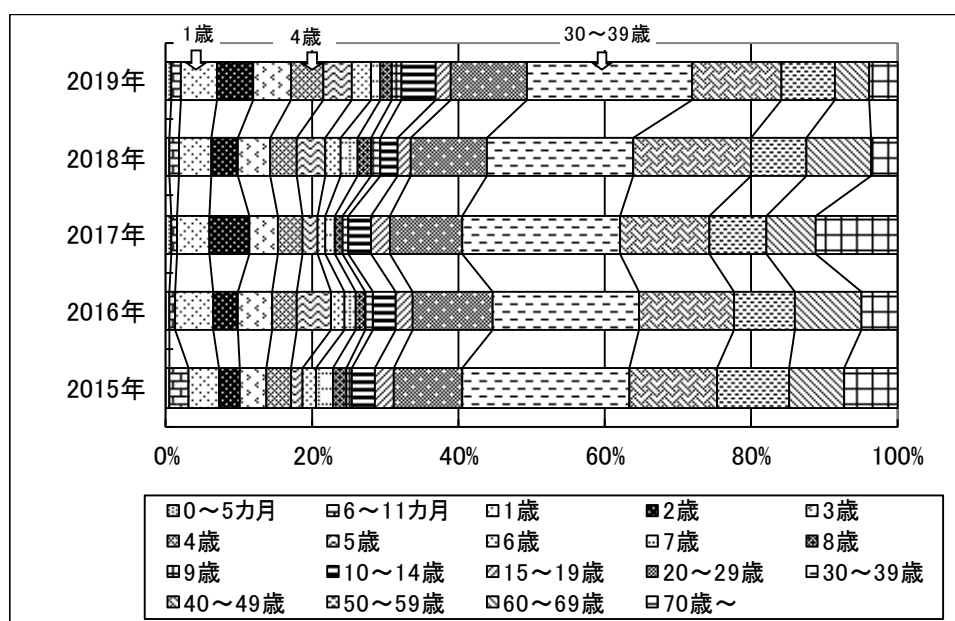


図 20-2 流行性角結膜炎患者の年齢階級別割合



(19) 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）
 年間患者数は36人（定点あたり2.57人）で、2018年の37人（2.65人）より減少した。
 患者の年齢分布は70歳以上が10人（28%）、0歳5人（14%）、5～9歳及び60～64歳が各4人（11%）、1～4歳及び65～69歳が各3人（8%）の順で多くなっていた。

図 21-1 細菌性髄膜炎の週別定点あたり患者数

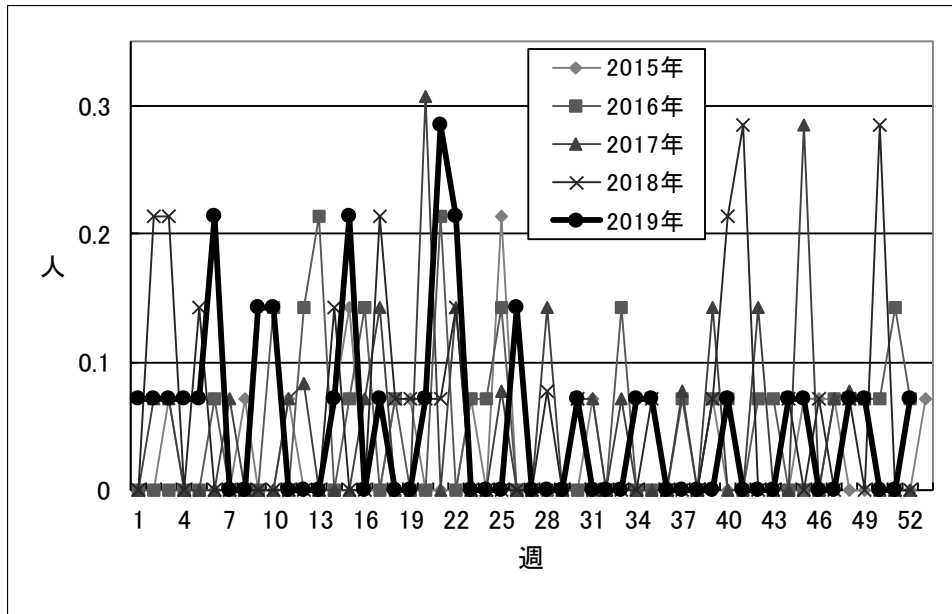
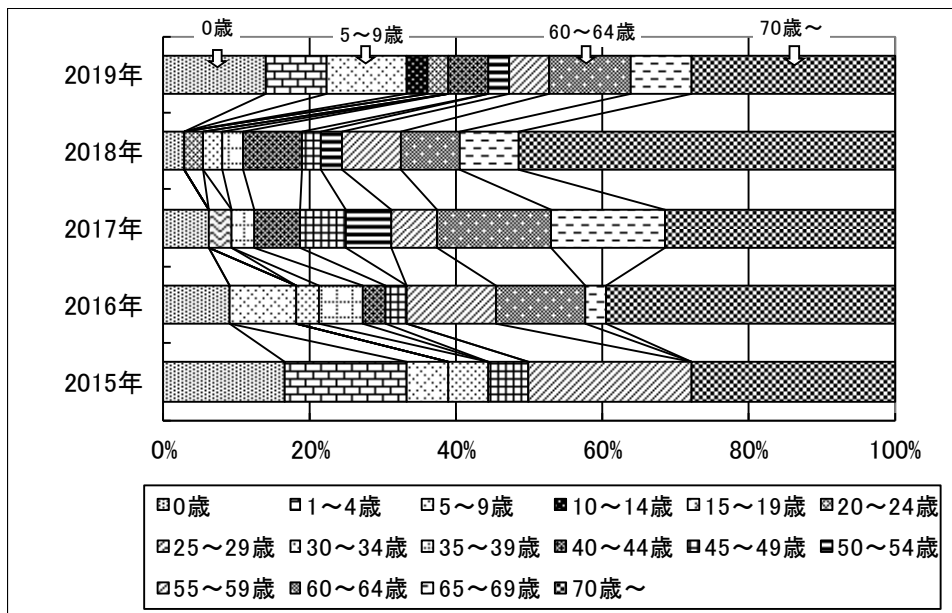


図 21-2 細菌性髄膜炎患者の年齢階級別割合



(20) 無菌性髄膜炎

年間患者数は70人（定点あたり5.00人）で、2018年の32人（2.29人）より増加した。
2004年以降20～70人の範囲で増減を繰り返している。

患者の年齢分布は0歳26人（37%）、5～9歳及び10～14歳が各8人（11%）、1～4歳7人（10%）、
70歳以上5人（7%）の順で多くなっていた。

図 22-1 無菌性髄膜炎の週別定点あたり患者数

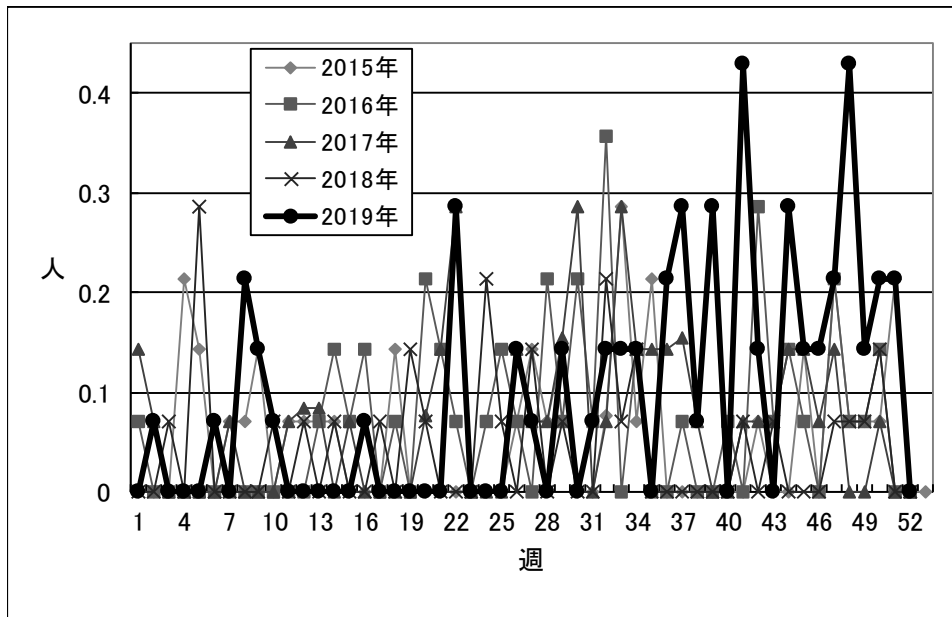
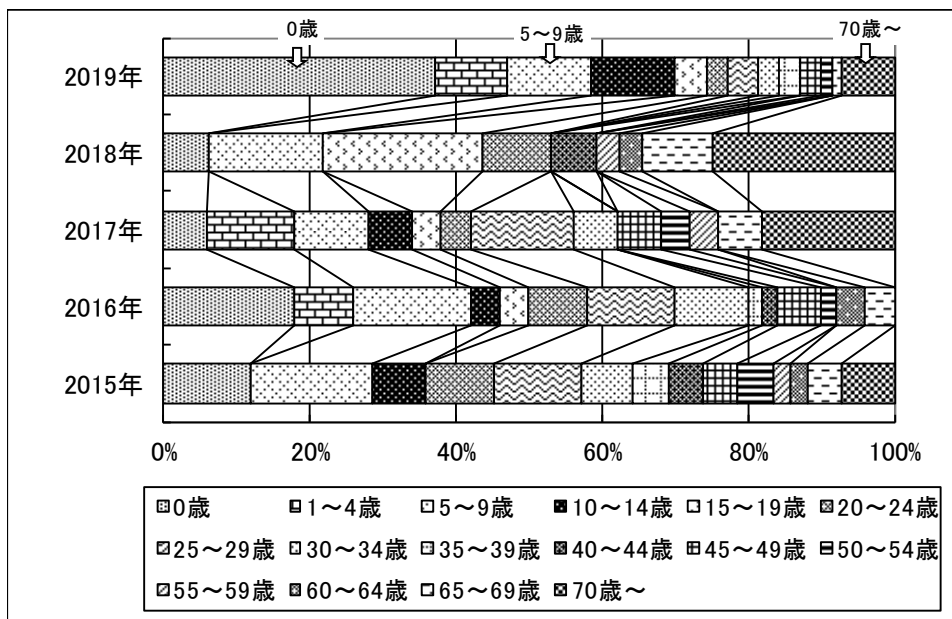


図 22-2 無菌性髄膜炎患者の年齢階級別割合



(21) マイコプラズマ肺炎

年間患者数は167人（定点あたり11.93人）で、2018年の87人（6.24人）より増加した。週別定点あたり患者数は、44週（10月下旬）以降増加傾向を示した。

患者の年齢階級別割合は5～9歳31%、10～14歳26%、1～4歳20%の順で多く、15歳未満の患者が全体の77%を占めていた。

図 23-1 マイコプラズマ肺炎の週別定点あたり患者数

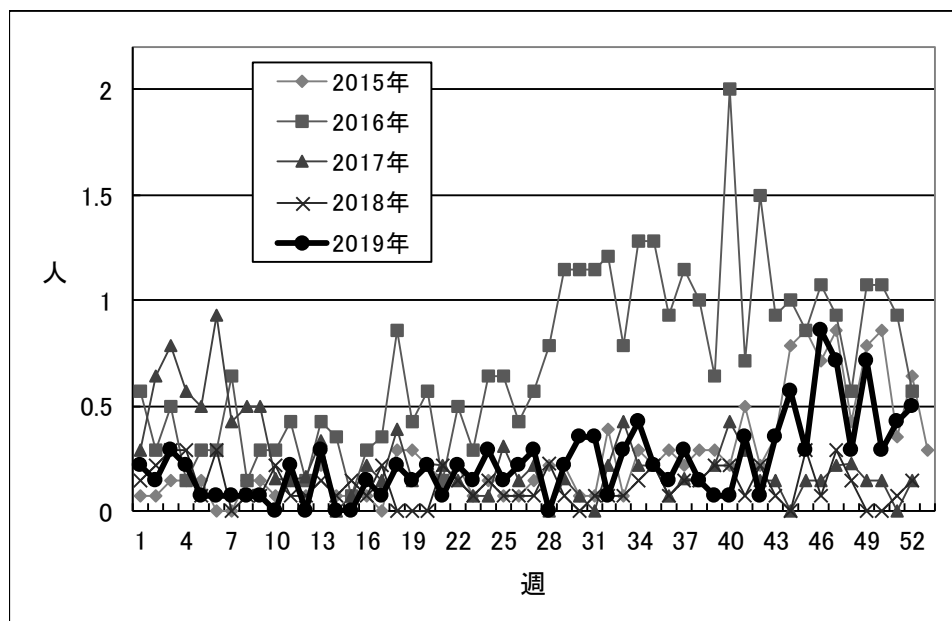
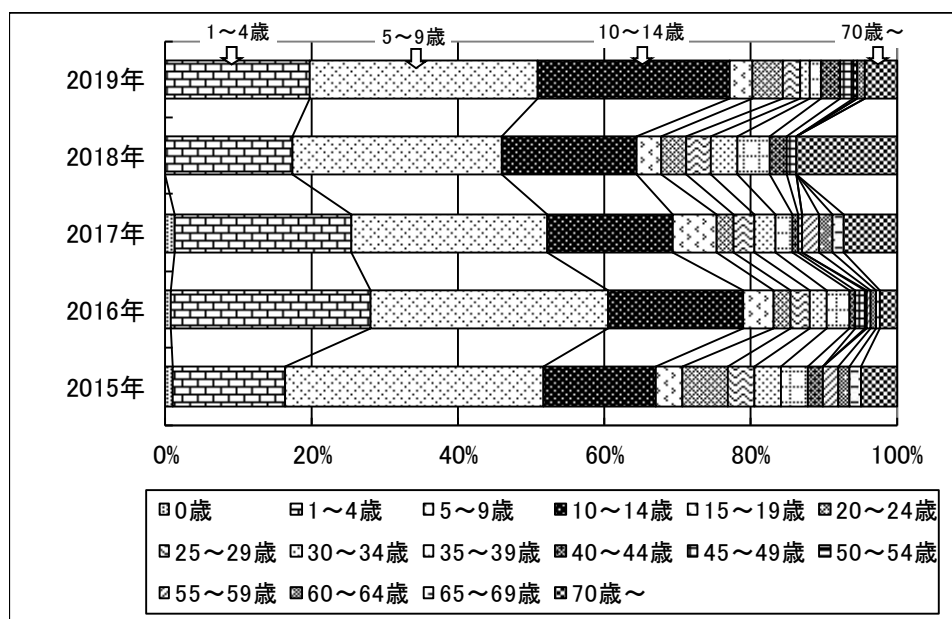


図 23-2 マイコプラズマ肺炎患者の年齢階級別割合



(22) クラミジア肺炎（オウム病を除く）

年間患者数は1人（定点あたり0.07人）で、2018年の2人（0.14人）より減少し、2015年及び2016年の各1人と同じレベルとなった。

患者の年齢分布は、1~4歳が1人となっていた。

図 24-1 クラミジア肺炎（オウム病を除く）の週別定点あたり患者数

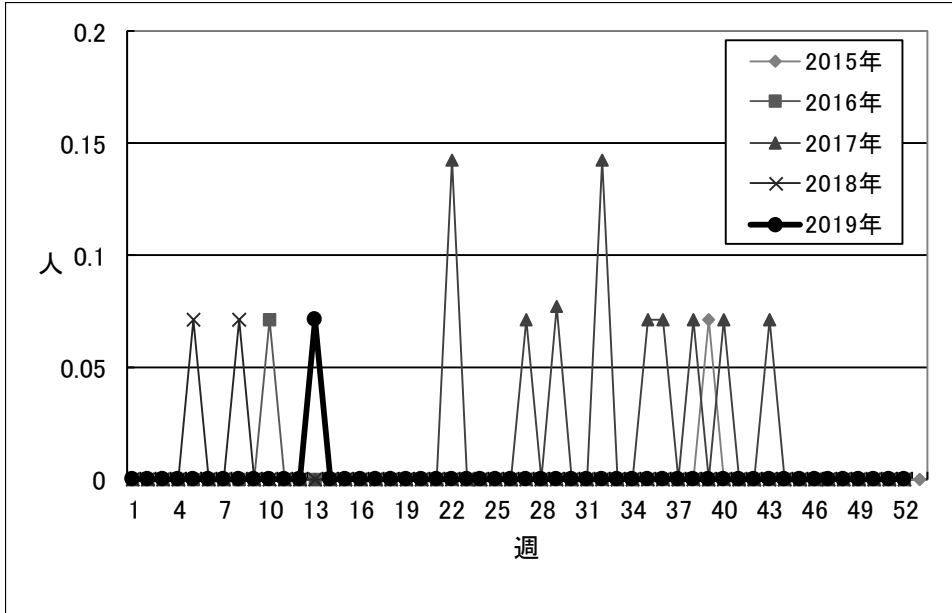
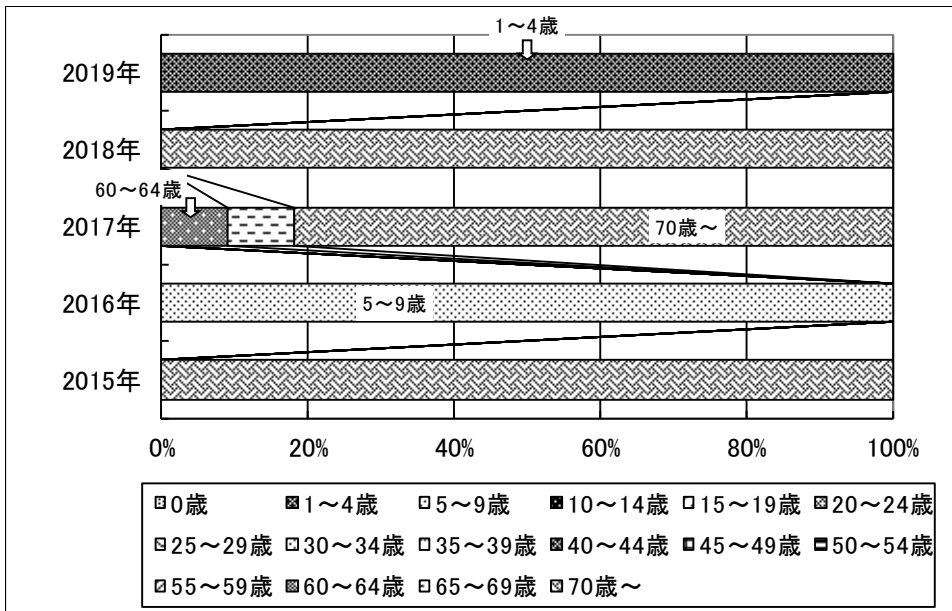


図 24-2 クラミジア肺炎（オウム病を除く）患者の年齢階級別割合



(23) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）

本疾病は2013年10月24日より基幹定点対象疾病に追加された。2019年の年間患者数は236人（定点あたり16.86人）で、2018年の117人（8.36人）より増加した。

週別定点あたり患者数は16週（4月中旬）にピーク（2.50人）を示し、9週（2月下旬）から23週（6月上旬）まで、患者数の比較的多い状態で推移した。

患者の年齢階級別割合は1～4歳58%、5～9歳27%、0歳11%の順で多くなった。

図 25-1 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルス）の週別定点あたり患者数

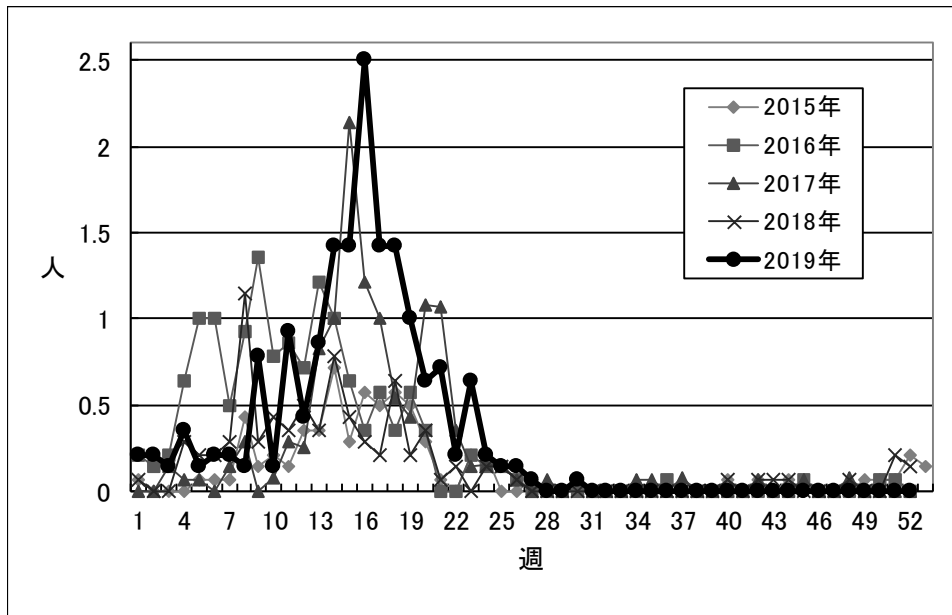
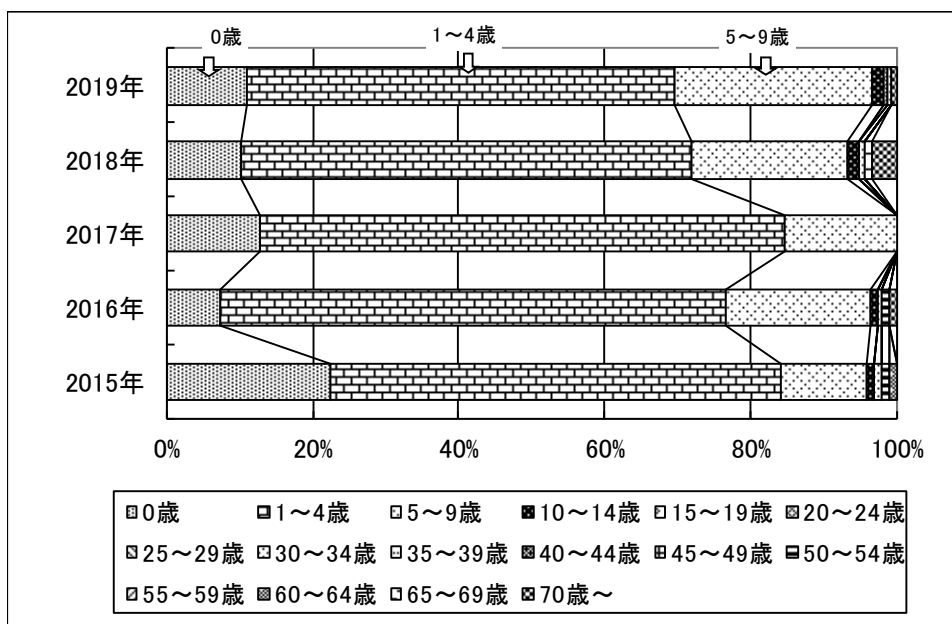


図 25-2 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルス）患者の年齢階級別割合



(24) 性器クラミジア感染症

年間患者数は1,130人（定点あたり24.57人）で、2018年の1,077人（23.45人）よりわずかに増加した。患者の性別割合は、男性53%、女性47%であった。

患者の性別年齢階級別割合では、男性は20～24歳24%、25～29歳20%、30～34歳14%、35～39歳及び40～44歳各11%の順で多く、20～44歳の患者が男性患者の80%を占めていた。女性は20～24歳36%、25～29歳23%、15～19歳14%、30～34歳13%の順で多く、15～34歳の患者が女性患者の85%を占めていた。

図 26-1 性器クラミジア感染症の月別定点あたり患者数

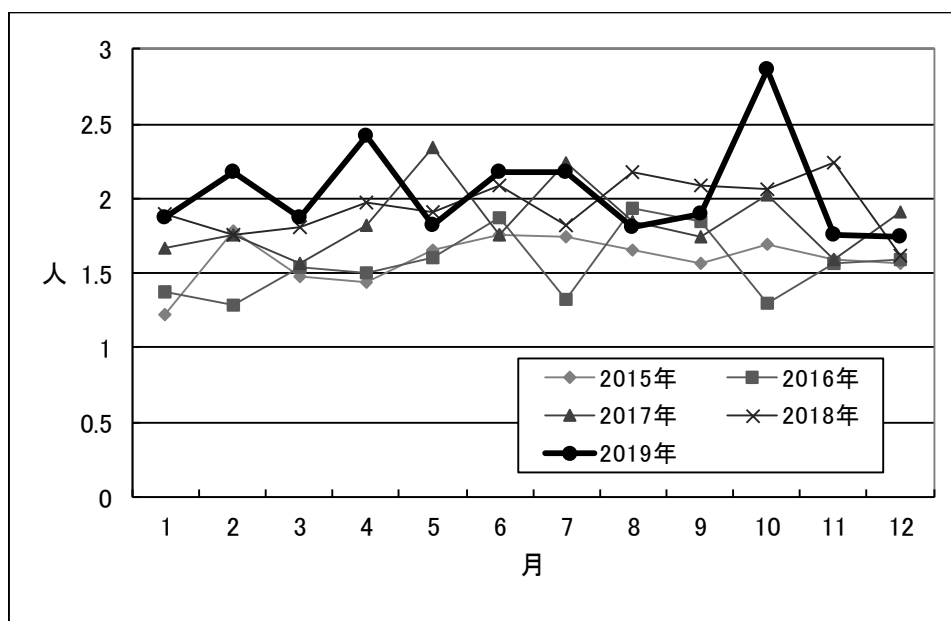


図 26-2 性器クラミジア感染症患者の性別割合

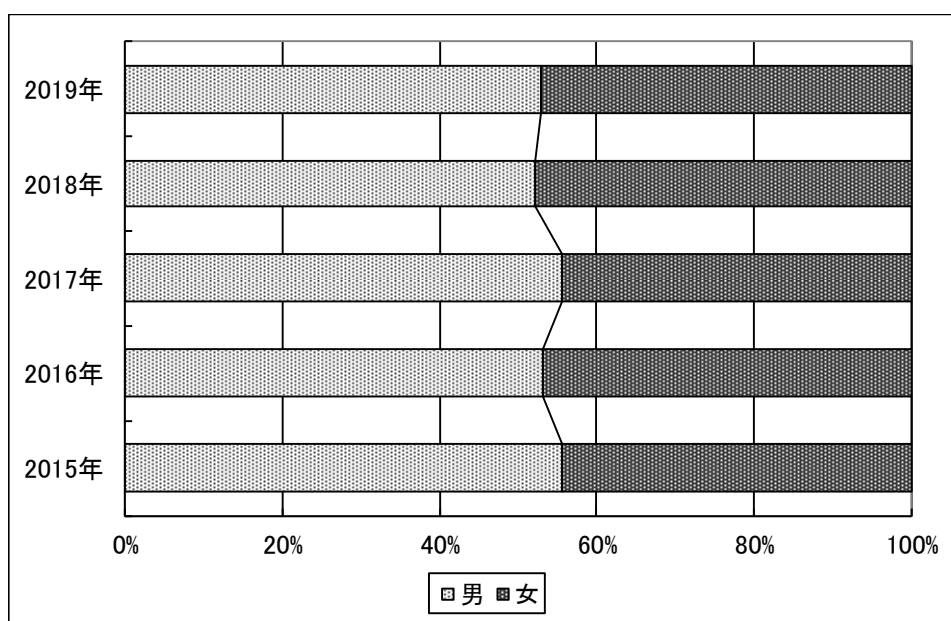


図 26-3 性器クラミジア感染症患者の年齢階級別割合（男性）

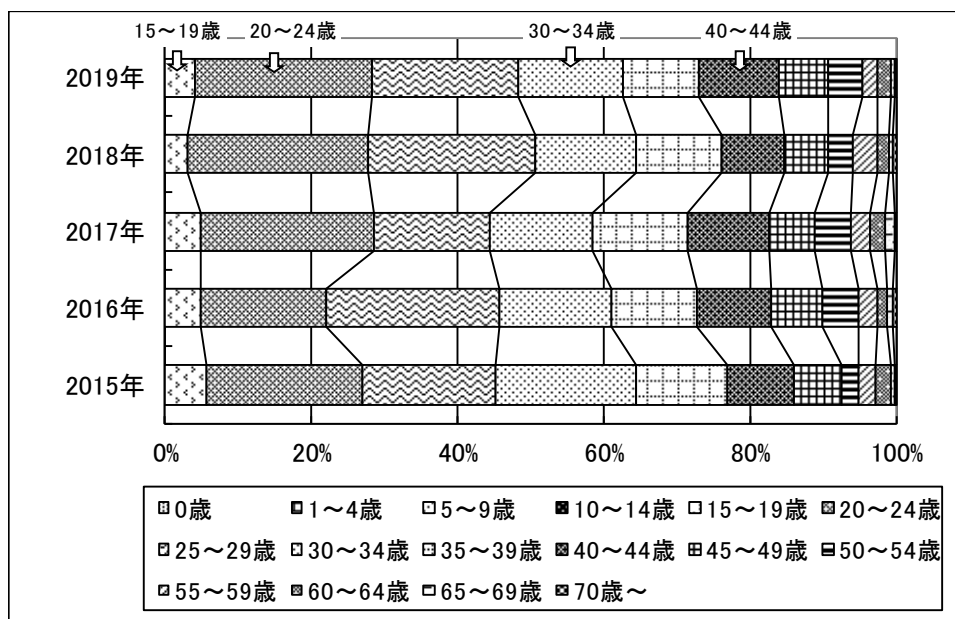
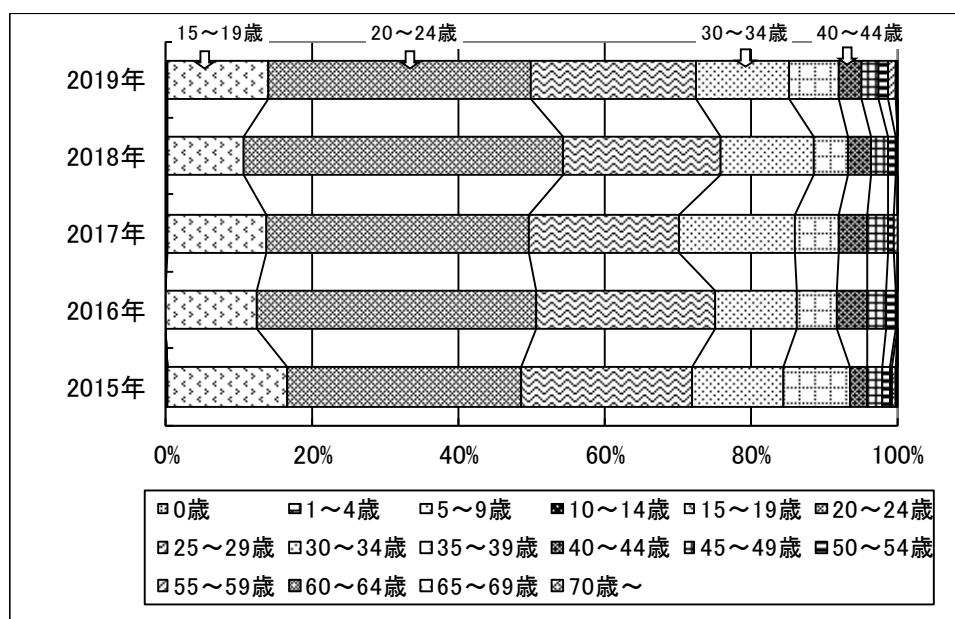


図 26-4 性器クラミジア感染症患者の年齢階級別割合（女性）



(25) 性器ヘルペスウイルス感染症

年間患者数は364人（定点あたり7.91人）で、2018年の376人（定点あたり8.19人）よりわずかに減少した。患者の性別割合は、男性41%、女性59%であった。

患者の性別年齢階級別割合では、男性は40～44歳16%、25～29歳15%、35～39歳14%、30～34歳12%の順で多く、25～49歳の患者が男性患者の67%を占めていた。女性は20～24歳15%、35～39歳13%、25～29歳12%、30～34歳10%の順で多く、20～44歳の患者が女性患者の57%を占めていた。

図 27-1 性器ヘルペスウイルス感染症の月別定点あたり患者数

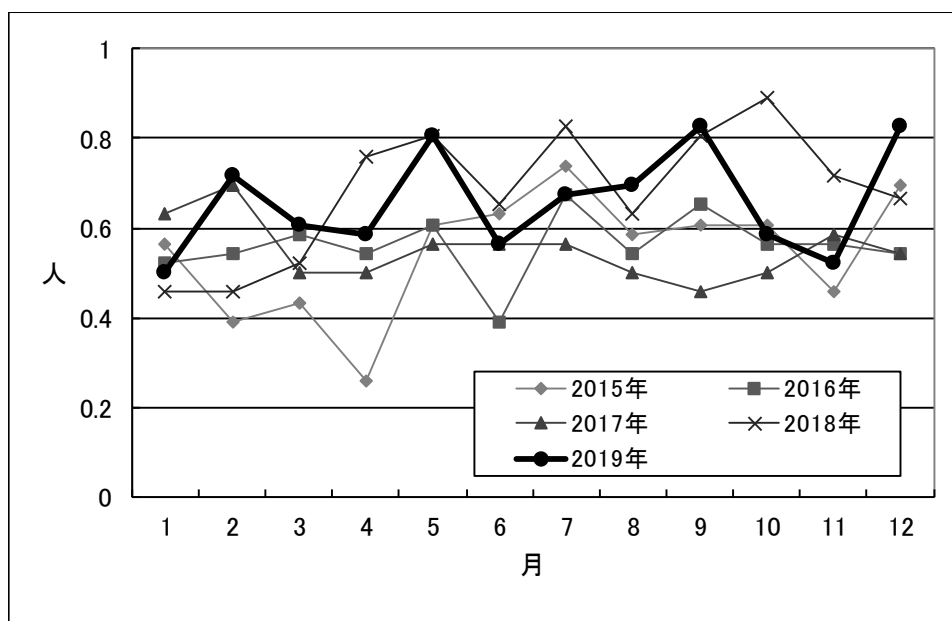


図 27-2 性器ヘルペスウイルス感染症患者の性別割合

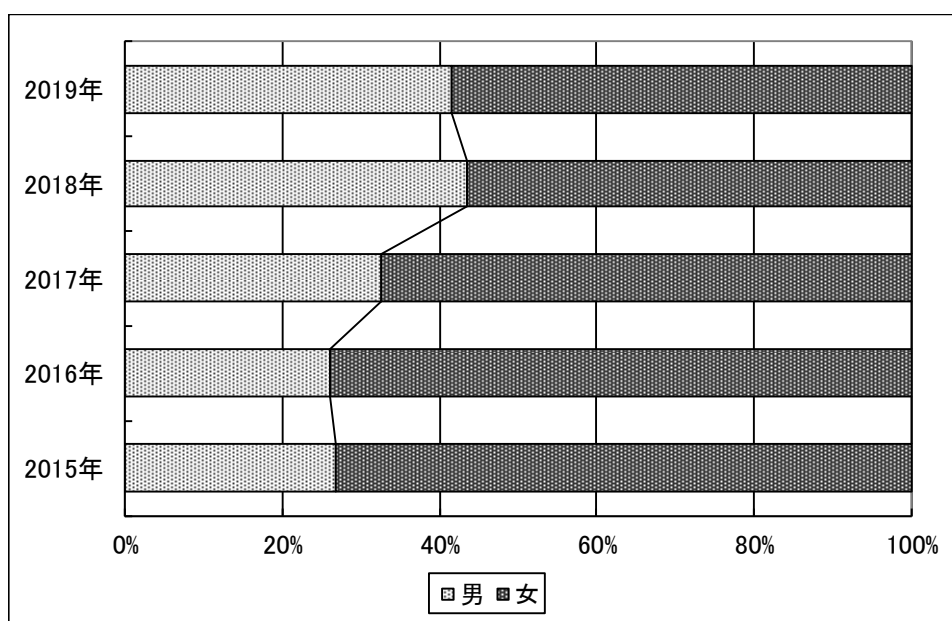


図 27-3 性器ヘルペスウイルス感染症患者の年齢階級別割合（男性）

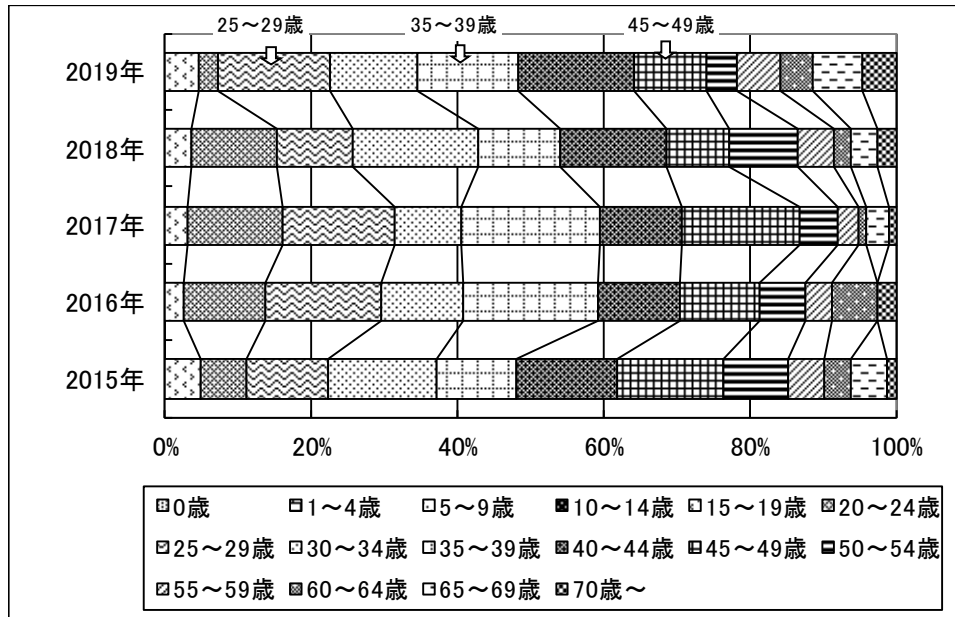
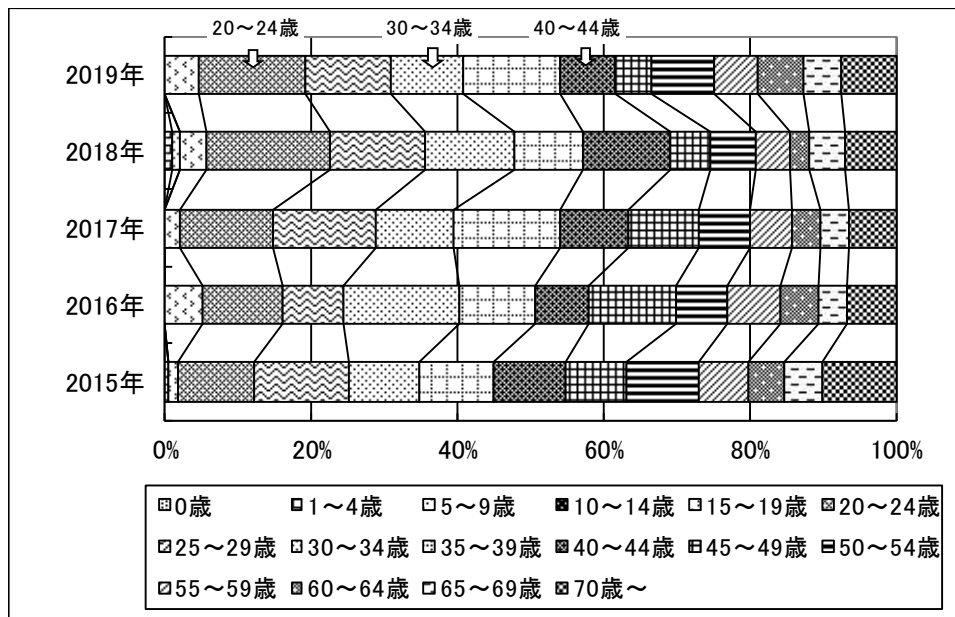


図 27-4 性器ヘルペスウイルス感染症患者の年齢階級別割合（女性）



(26) 尖圭コンジローマ

年間患者数は221人（定点あたり4.80人）で、2018年の192人（4.18人）より増加した。患者の性別割合は、男性69%、女性31%であった。

患者の性別年齢階級別割合では、男性は25～29歳23%、30～34歳及び40～44歳各13%、20～24歳11%の順で多く、20～44歳の患者が男性患者の65%を占めていた。女性は20～24歳26%、25～29歳及び35～39歳各16%、30～34歳13%の順で多く、20～39歳の患者が女性患者の71%を占めていた。

図 28-1 尖圭コンジローマの月別定点あたり患者数

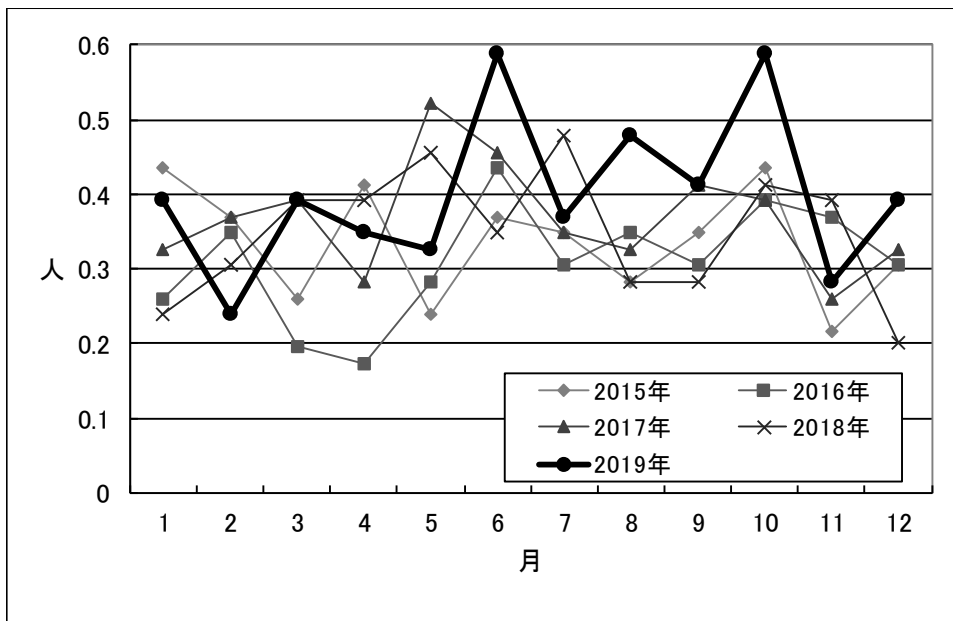


図 28-2 尖圭コンジローマ患者の性別割合

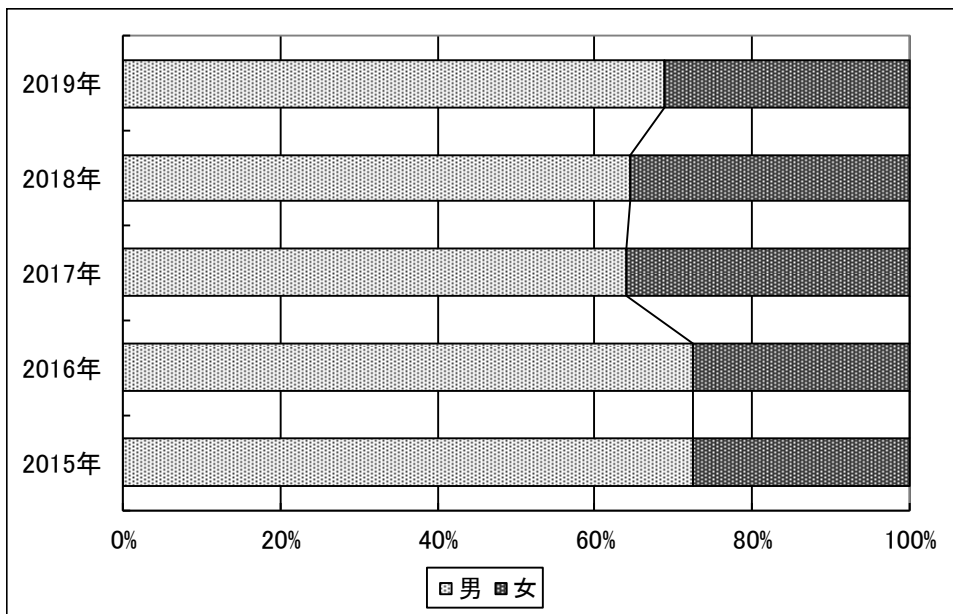


図 28-3 尖圭コンジローマ患者の年齢階級別割合（男性）

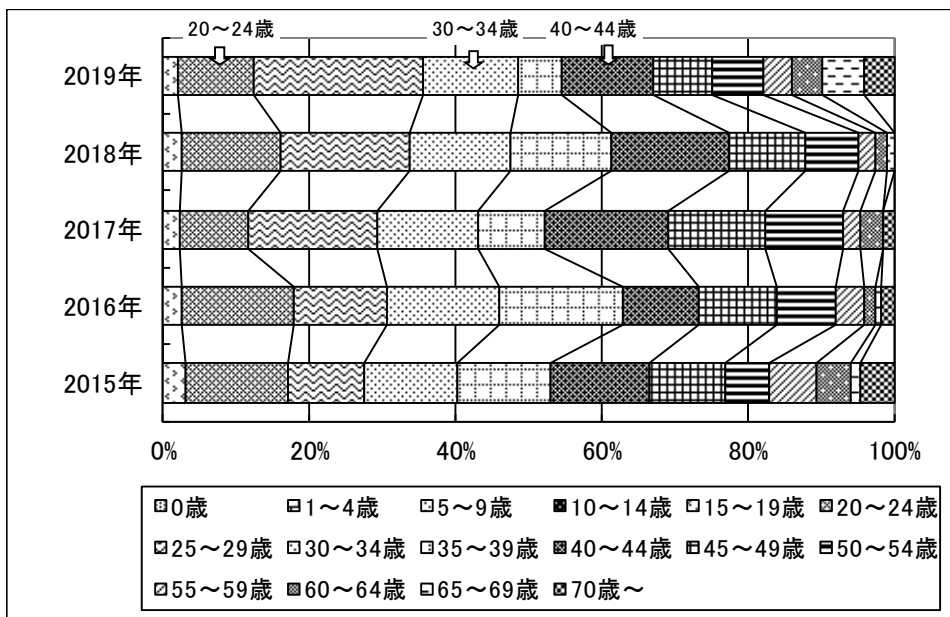
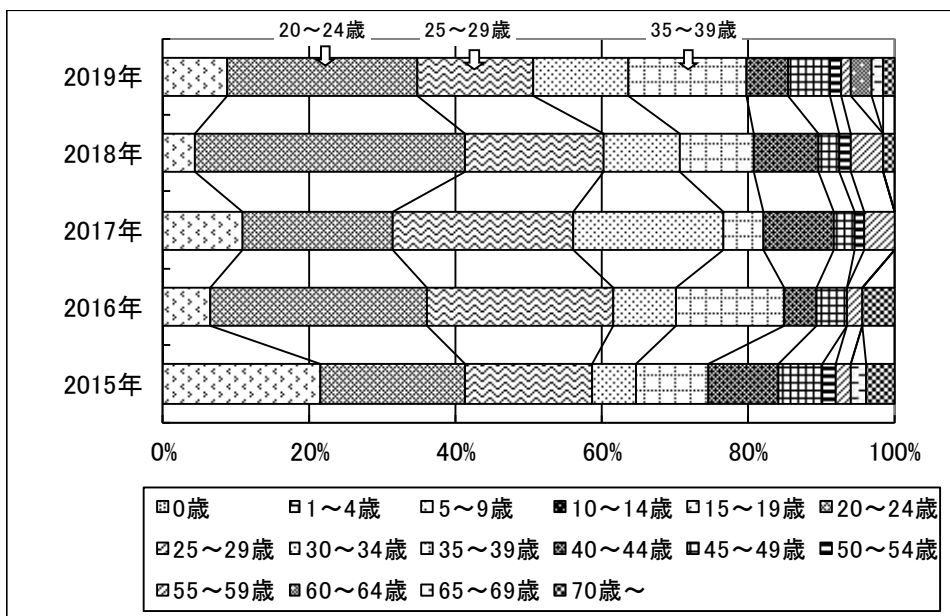


図 28-4 尖圭コンジローマ患者の年齢階級別割合（女性）



(27) 淋菌感染症

年間患者数は299人（定点あたり6.50人）で、2018年の317人（6.90人）よりわずかに減少した。患者の性別割合は、男性78%、女性22%であった。

患者の性別年齢階級別割合では、男性は20～24歳23%、25～29歳16%、40～44歳13%、30～34歳12%の順で多く、20～44歳の患者が男性患者の75%を占めていた。女性は20～24歳41%、15～19歳24%、25～29歳15%の順で多く、15～29歳の患者が女性患者の80%を占めていた。

図 29-1 淋菌感染症の月別定点あたり患者数

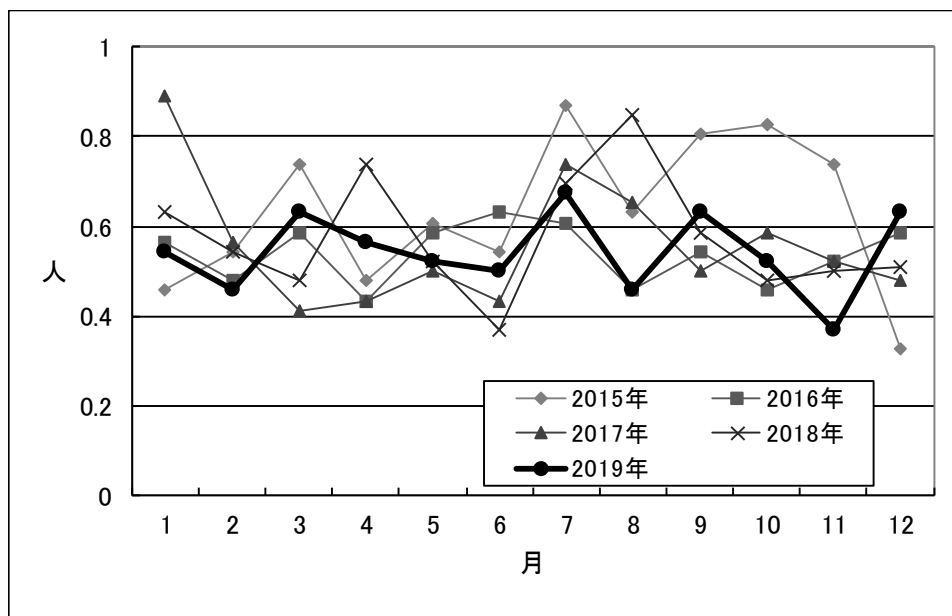


図 29-2 淋菌感染症患者の性別割合

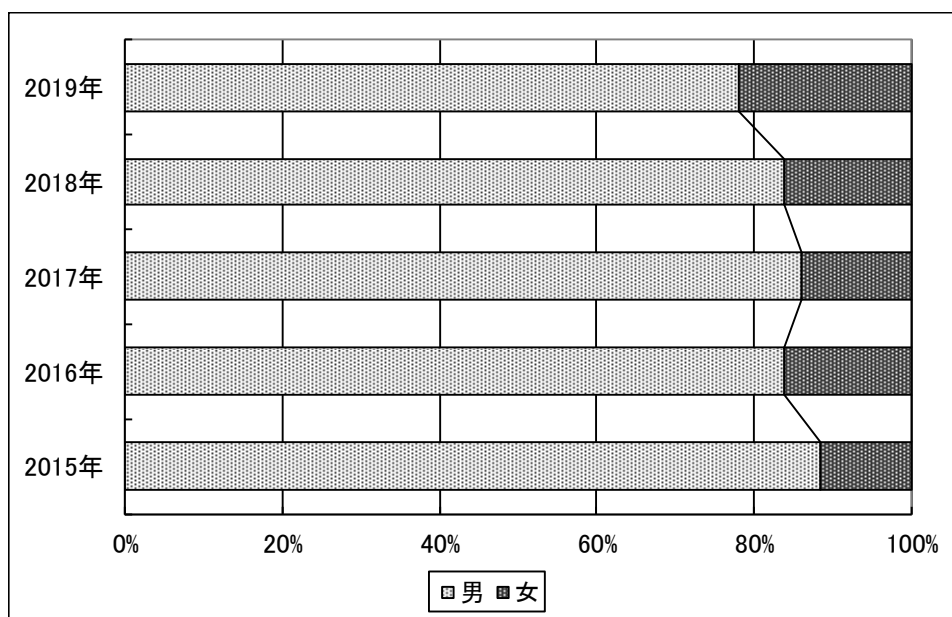


図 29-3 淋菌感染症患者の年齢階級別割合（男性）

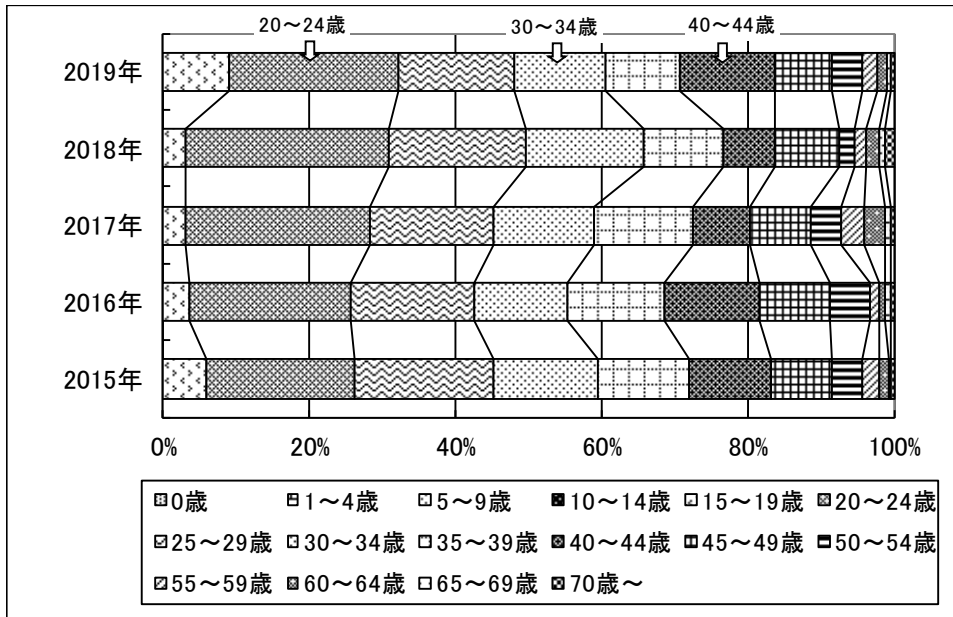
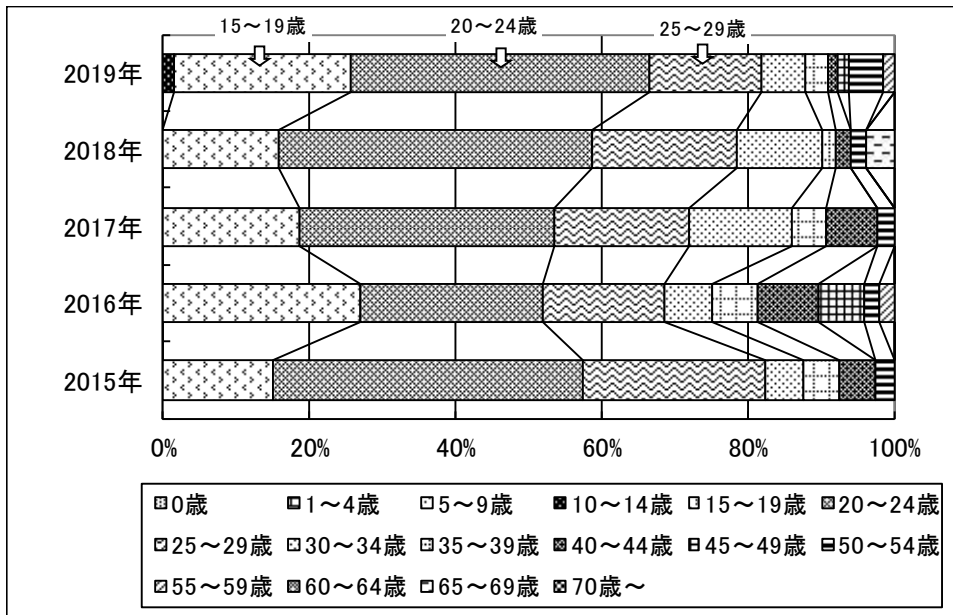


図 29-4 淋菌感染症患者の年齢階級別割合（女性）



(28) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間患者数は556人（定点あたり39.71人）で、2018年の528人（38.73人）よりわずかに増加した。

患者の年齢階級別割合は、70歳以上の患者が全体の63%、60歳以上が全体の75%を占めていた。

図 30-1 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別定点あたり患者数

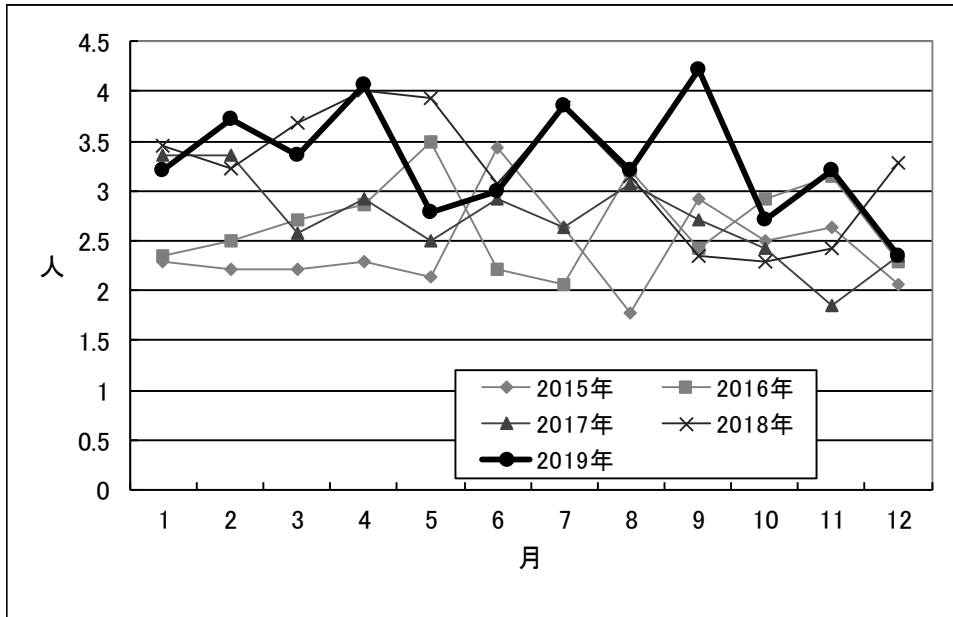
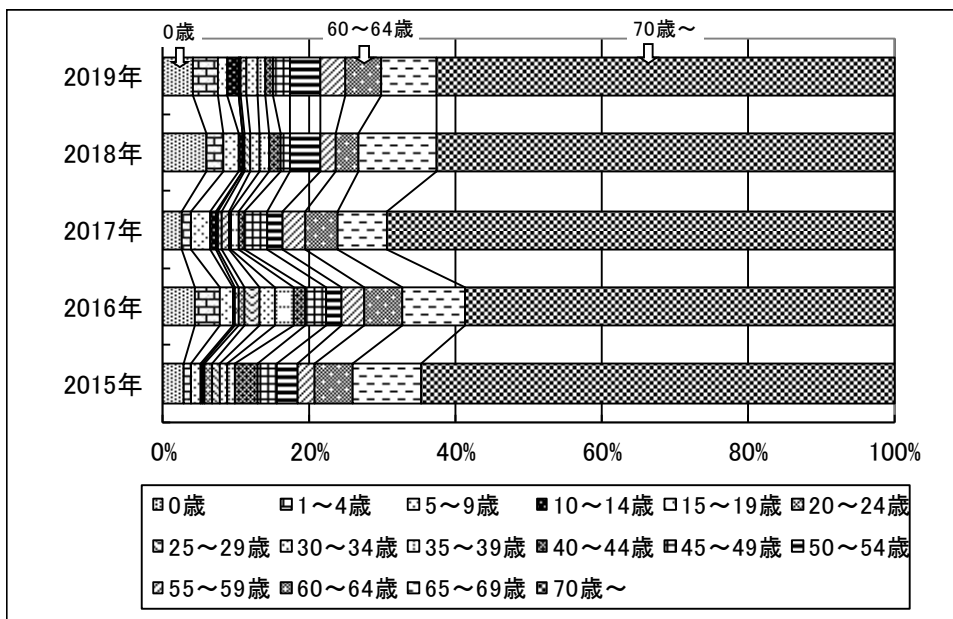


図 30-2 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症患者の年齢階級別割合



(29) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間患者数は36人（定点あたり2.57人）で、2018年の51人（3.74人）より減少した。患者の年齢階級別割合は、70歳以上の患者が全体の72%、60歳以上が全体の85%を占めていた。

図 31-1 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別定点あたり患者数

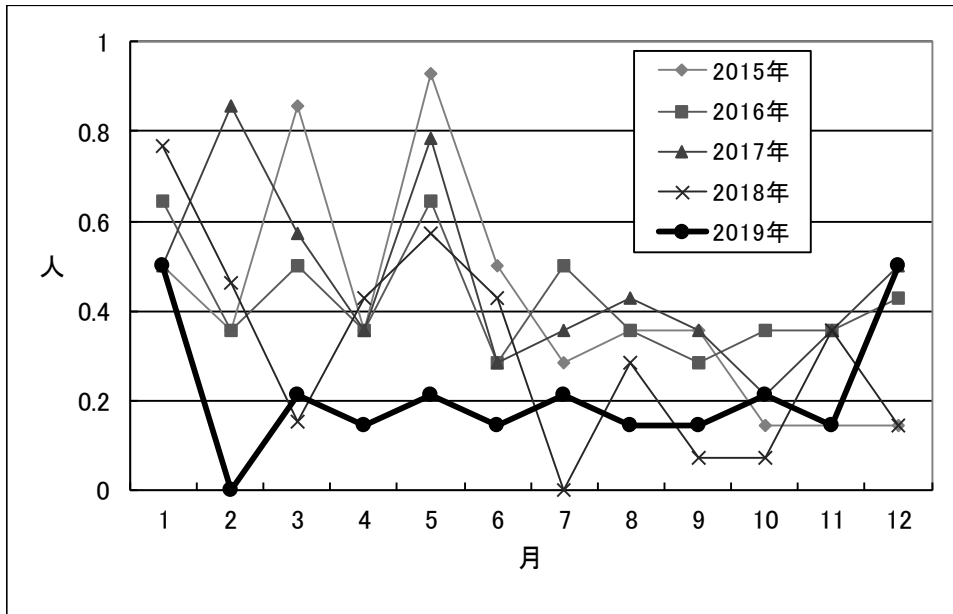
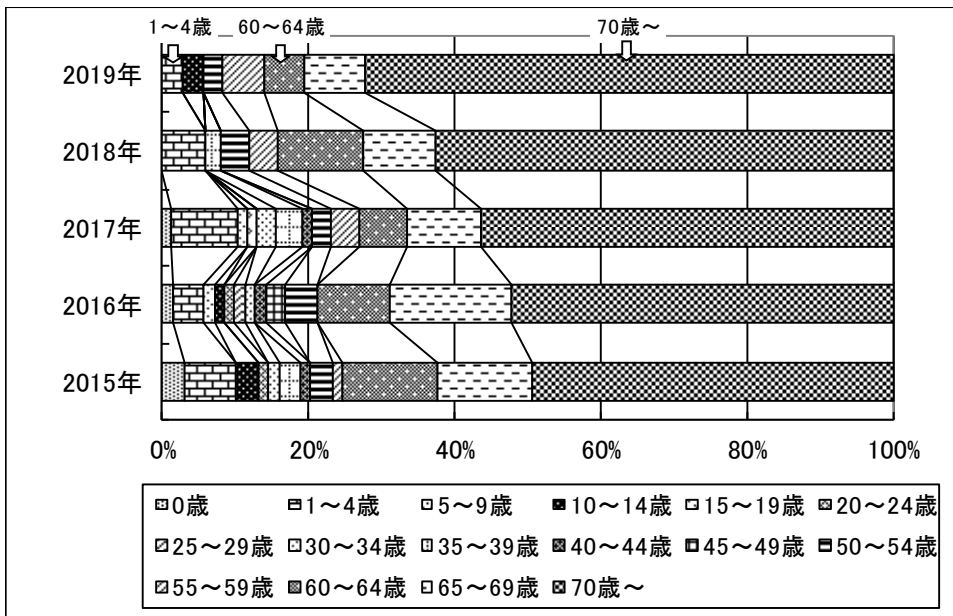


図 31-2 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症患者の年齢階級別割合



(30) 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間患者数は5人（定点あたり0.36人）で、2018年の9人（0.65人）より減少した。患者の年齢分布は、5人全員が70歳以上であった。

図 32-1 薬剤耐性緑膿菌感染症の月別定点あたり患者数

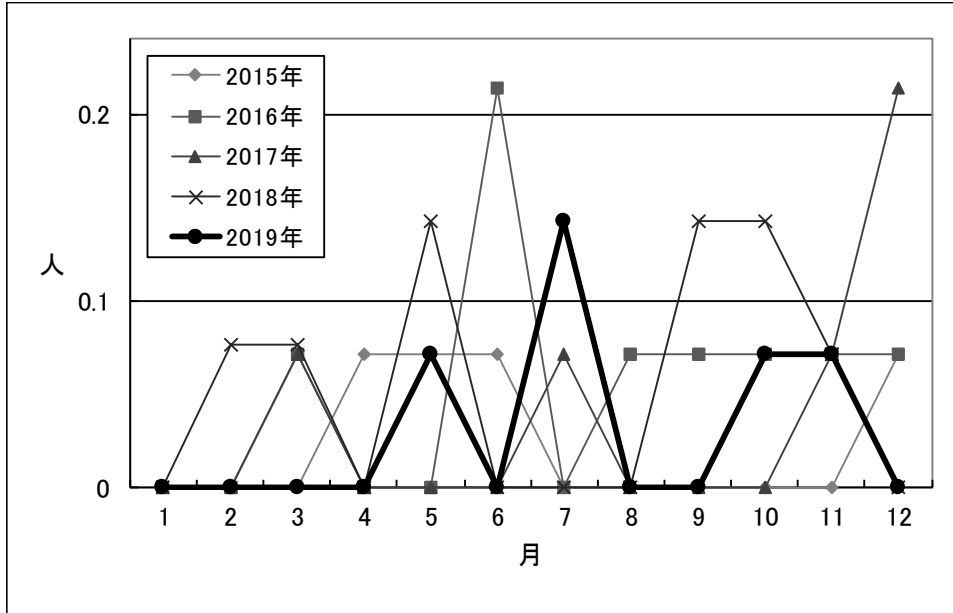
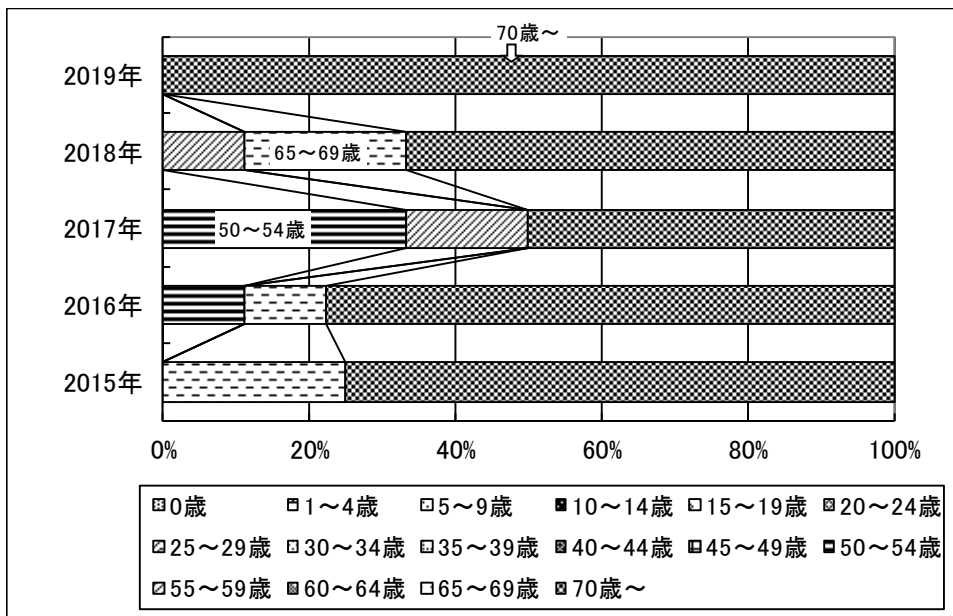


図 32-2 薬剤耐性緑膿菌感染症患者の年齢階級別割合



3. 病原微生物検出状況

(1) 腸管出血性大腸菌感染症事例 (2019年)

年月日	保健所	血清型	毒素型 (VT)	感染者数 (株数)	感染者間の関係等	MLVA型※	
2019.02.22	加古川	O157:H7	1&2	1		18m0098(18c016)	
2019.03.27	加東	Og66:Hg25	2	1		-	
2019.05.16	加東	O157:H7	2	1		19m0046(19c010)	
2019.05.27	加東	O157:H7	2	2		19m0046(19c010)	
2019.05.27	伊丹	O157:H7	2	1		19m0196	
2019.05.28	宝塚	O157:H7	2	1		19m0195	
2019.05.29	加古川	O121:H19	2	1		19m5015	
2019.06.06	加古川	O157:H7	1&2	1		19m0059(19c023)	
2019.06.26	加東	O26:H11	1	1		15m2113	
2019.07.01	洲本	O26:H11	1	1	家族	19m2063	
2019.07.08	洲本	O26:H11	1	1		19m2063	
2019.07.08	洲本	O26:H11	1	1		19m2064	
2019.07.16	赤穂	O157:H7	1&2	3	家族(保菌者2)	19m0075	
2019.07.16	赤穂	O111:H-	1	2	家族(保菌者1)	19m3034	
2019.07.29	洲本	O26:H11	1	1		19m2102	
2019.08.05	洲本	O26:H11	1	2	家族(保菌者1)	19m2102	
2019.08.28	洲本	O26:H11	1	1	8/5と同じ人の菌株 薬剤耐性試験実施		
2019.08.05	洲本	O121:H19	2	2	家族(保菌者1)	19m5020	
2019.08.08	加古川	O157:H-	1&2	1		19m0211	
2019.08.08	加古川	O157:H7	1&2	1		19m0198	
2019.08.08	加古川	O121:H19	2	1		19m5020	
2019.08.08	龍野	O157:H-	1&2	1		19m0040	
2019.09.11	洲本	O26:H-	1	1		19m2124	
2019.09.13	赤穂	O103:H2	1	1		16m4011	
2019.10.16	龍野	O157:H7	2	1		19m0581	
2019.10.18	加古川	O157:H-	1&2	1		17m0418	
2019.10.18	加古川	O145:H-	2	1		17m6008	
2019.10.29	洲本	O157:H-	1&2	1		17m0418	
2019.11.05	加東	O157:H7	2	1		15m0308	
2019.11.05	伊丹	O157:H7	1&2	1		19m0451	
2019.11.05	伊丹	Og177:Hg25	2	1		-	
2019.11.07	加古川	O157:H-	1&2	2	家族(保菌者1)	17m0418	
2019.11.07	加古川	O157:H-	1&2	1		16m0039(19c026)	
2019.11.13	加古川	O157:H7	1&2	1		19m0451	
2019.11.18	加東	O157:H7	1&2	1		19m0451	
2019.11.18	赤穂	O157:H7	1&2	1		19m0459	
2019.12.04	加古川	-	-	2	家族	接触者検診3	-
2019.12.05	加古川	-	-	1			-
2019.12.09	加古川	Og112ab:Hg2	1	1			-
2019.12.16	加古川	Og112ab:Hg2	1	1		陰性確認	-
2019.12.23	加古川	-	-	1			-
2019.12.17	宝塚	O121:H19	2	1		19m5029	
2019.12.18	加東	O157:H7	1&2	1		19m0604	
2019.12.18	加東	O157:H7	2	1		19m0605	
2019.12.24	洲本	O26:H11	1	1	家族(保菌者3)	13m2040(19c214)	
2019.12.24	洲本	O26:H11	1	3		19m2180(19c214)	

※国立感染症研究所で実施

(2) 細菌による食中毒(疑)事例(2019年)

年月日	保健所	検体	件数	当所での検査等
2019.05.31	加東	食品	2	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンの検出
2019.06.03	加東	黄色ブドウ球菌菌株	8	エンテロトキシン産生性及びコアグララーゼ型別
2019.10.02	龍野	サルモネラ属菌菌株	4	血清型別, ゲノム解析*
2019.10.07	朝来	食品	2	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンの検出
		黄色ブドウ球菌菌株	8	エンテロトキシン産生性及びコアグララーゼ型別
2019.10.07	龍野	サルモネラ属菌菌株	1	血清型別, ゲノム解析*

(3) クドア(ヒラメ寄生虫)の検査(2019年)

月日	保健所	病原体	検査件数	陽性検体	陰性検体
2019.02.04	伊丹	<i>Kudoa septempunctata</i>	1	1 患者便	0

(4) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症事例(2019年)

年月日	保健所	菌種	件数	群別※、T型別※、EMM型※
2019.01.30	加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0
2019.01.30	加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0
2019.02.22	加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T型別不能, EMM89.0
2019.04.08	丹波	<i>Streptococcus agalactiae</i>	1	B群, I b
2019.05.21	丹波	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp.equisimilis</i>	1	G群, STG6792.3
2019.05.29	宝塚	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0
2019.06.14	加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T型別不能, EMM44.0
2019.06.14	加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T型別不能, EMM44.0
2019.06.20	宝塚	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0
2019.06.21	加東	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T型別不能, EMM1.0
2019.09.04	加古川	<i>Streptococcus agalactiae</i>	1	B群, III型
2019.09.26	加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0
2019.10.17	伊丹	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp.equisimilis</i>	1	G群, STG2574.3
2019.10.17	伊丹	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp.equisimilis</i>	1	G群, STC6979.0
2019.10.31	宝塚	<i>Streptococcus dysgalactiae subsp.equisimilis</i>	1	G群, STG485.0
2019.11.06	伊丹	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T13, EMM90.2
2019.11.08	丹波	<i>Streptococcus agalactiae</i>	1	B群, I b
2019.11.13	加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0

*国立感染症研究所で実施

(5) 侵襲性肺炎球菌感染症事例(2019年)

<i>Streptococcus pneumoniae</i> の血清型	件数	ワクチンへの含有状況
3	1	13価結合型及び23価多糖体 ワクチンに含有
7F/7A	1	
10A	2	23価多糖体ワクチンに含有
12F/(12A/44/46)	4	
15B/15C	1	
22F/22A	1	
15A/15F	1	
23A	2	
24/(24A/24B/24F)	3	ワクチンに含まれていない
31	1	
34	1	
35B	1	
38/25F/25A	2	
型別不能	1	
合計	22	

(6) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症事例 (2019年)

年月日	保健所	菌種	件数	薬剤耐性β-ラクタマーゼ遺伝子の型別
2019.01.11	明石市	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.01.18	赤穂	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6, CTX-M-2
2019.01.28	加東	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.02.22	加古川	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	CTX-M-15, TEM-1, SHV-11
2019.02.26	明石市	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.03.19	丹波	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.03.29	赤穂	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6, CTX-M-2, CTX-M-14, TEM-1
2019.04.05	芦屋	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6, CTX-M-2, SHV-187
2019.04.05	芦屋	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	IMP-6, CTX-M-2
2019.04.25	豊岡	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.05.09	洲本	<i>Enterobacter cloacae complex</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.05.21	赤穂	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6, CTX-M-2, CTX-M-27
2019.06.17	赤穂	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6, CTX-M-2, TEM-1
2019.07.11	宝塚	<i>Serratia marcescens</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.07.11	宝塚	<i>Escherichia coli</i>	1	CTX-M-15, TEM-1
2019.07.22	加東	<i>Citrobacter freundii</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.09.05	加東	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.09.13	明石市	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.09.18	朝来	<i>Serratia marcescens</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.09.18	朝来	<i>Enterobacter asburiae</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.09.26	加東	<i>Enterobacter cloacae</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.09.26	丹波	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.09.26	丹波	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.10.08	加東	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.10.16	伊丹	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.10.16	伊丹	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	CTX-M-15, TEM-1, SHV-11
2019.10.23	赤穂	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	SHV-1
2019.10.23	龍野	<i>Providencia stuartii</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.10.29	朝来	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.10.29	朝来	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.11.29	加東	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6, CTX-M-2
2019.11.29	加東	<i>Serratia marcescens</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.12.02	丹波	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.12.02	丹波	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.12.09	宝塚	<i>Citrobacter freundii</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.12.18	赤穂	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	IMP-6, CTX-M-2, SHV-11
2019.12.18	赤穂	<i>Escherichia coli</i>	1	IMP-6, CTX-M-2, TEM-1
2019.12.19	加東	<i>Escherichia coli</i>	1	DHA
2019.12.24	洲本	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.12.24	洲本	<i>Klebsiella aerogenes</i>	1	耐性遺伝子不検出
2019.12.25	西宮市	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	IMP-6, CTX-M-2, SHV-28

Klebsiella aerogenes (旧: *Enterobacter aerogenes*)

(7) その他の細菌検査 (2019年)

年月日	保健所、他	検体	件数	当所での検査等
2019.03.14	龍野	薬剤耐性アシネトバクター属菌菌株	1	薬剤耐性遺伝子の検出
2019.03.26	加東	血清	1	レプトスピラ抗体検査*
2019.04.01	豊岡	便	20	<i>Clostridioides difficile</i> の毒素遺伝子の検出*, 遺伝子型別*, 薬剤感受性検査*
2019.05.13	尼崎市	喀痰、血液、咽頭拭い液(6検体)	1	<i>Chlamydomydia psittaci</i> 遺伝子の検出
2019.05.14	豊岡	便	6	<i>Clostridioides difficile</i> の毒素遺伝子の検出*, 遺伝子型別*, 薬剤感受性検査*
2019.06.11	加古川	大腸菌菌株	4	血清型別
2019.06.11	加古川	サルモネラ属菌菌株	3	血清型別
2019.06.25	龍野	サルモネラ属菌菌株	1	血清型別, フェージ型別*
2019.06.25	加古川	カンピロバクター属菌菌株	1	MALDI-TOF MSIによる同定
2019.07.02	豊岡	<i>Clostridioides difficile</i> 菌株	4	毒素遺伝子の検出*, 遺伝子型別*, 薬剤感受性検査*
2019.07.08	洲本	血清(2検体)	1	ライム病抗体検査*, ボレリア遺伝子の検出*
2019.07.18	兵庫医大ささやま医療センター	ESBL保有菌株	1	薬剤耐性遺伝子の検出
2019.07.22	宝塚	血清(2検体)	1	ライム病抗体検査*, ボレリア遺伝子の検出*
2019.07.24	芦屋	血清、痂皮(3検体)	1	ライム病抗体検査*, ボレリア遺伝子の検出*
2019.08.09	加東	便	1	クリプトスポリジウムの遺伝子解析
2019.08.16	赤穂	血液、尿(3検体)	1	レプトスピラ抗体検査*, レプトスピラ遺伝子の検出*
2019.09.19	加古川	大腸菌菌株	1	血清型別
2019.09.19	加古川	サルモネラ属菌菌株	1	血清型別
2019.09.19	加古川	エロモナス属菌菌株	1	菌種の同定
2019.09.27	芦屋	血清(2検体)	1	ライム病抗体検査*, ボレリア遺伝子の検出*
2019.10.08	龍野	カンピロバクター属菌菌株	4	PCR及びMALDI-TOF MSIによる同定
2019.10.23	伊丹	バンコマイシン耐性腸球菌菌株	1	菌種の同定, 薬剤耐性遺伝子の検出
2019.10.28	神戸大学	便(2検体)	1	ボツリヌス毒素遺伝子の検出
2019.11.12	伊丹	バンコマイシン耐性腸球菌菌株	1	菌種の同定, 薬剤耐性遺伝子の検出
2019.11.22	加古川医療センター	ウエルシュ菌菌株	1	毒素遺伝子の検出
2019.12.23	加古川	カンピロバクター属菌菌株	2	MALDI-TOF MSIによる同定
2019.12.25	洲本	カンピロバクター属菌菌株	1	MALDI-TOF MSIによる同定
2019.12.25	洲本	ウエルシュ菌菌株	3	<i>Clodtridium perfringens</i> enterotoxin 遺伝子の検出

*国立感染症研究所で実施

(8) 結核 QFT 検査 (2019年)

年月日	保健所	件数	陽性	陰性	判定不可
2019.10.29	洲本	81	0	81	0

(9) 結核菌の同定試験及び結核の感染源調査 (2019年)

菌株搬入日	保健所等	菌株番号	クラスター番号*	
			JATA(12)	24Beijing
2019.02.21	豊岡	MY18086	098	
2019.02.21	豊岡	MY18087		
2019.02.21	豊岡	MY18088	057	
2019.02.14	朝来	MY18089	126	
2019.02.14	朝来	MY18090	098	
2019.02.28	丹波	MY18091	093	
2019.02.28	丹波	MY18092	039	067
2019.02.28	丹波	MY18093		
2019.02.13	龍野	MY18094		
2019.03.11	福崎	MY18095		
2019.03.11	福崎	MY18096		
2019.03.11	加東	MY18097	018	
2019.03.11	加東	MY18098		
2019.03.11	加東	MY18099		
2019.03.11	加東	MY18100		
2019.03.11	加東	MY18101	015	
2019.03.11	伊丹	MY18102	129	034
2019.03.18	加古川	MY18103	146	052
2019.03.18	加古川	MY18104		
2019.03.18	加古川	MY18105		
2019.03.19	丹波	MY18106	005	
2019.03.19	丹波	MY18107		
2019.03.19	丹波	MY18108	131	
2019.03.19	丹波	MY18109	138	046
2019.03.19	丹波	MY18110	130	
2019.03.19	丹波	MY18111		
2019.03.19	龍野	MY18112		
2019.03.26	加東	MY18113	132	042
2019.03.26	加東	MY18114	131	
2019.03.26	加東	MY18115		
2019.03.26	加東	MY18116		
2019.03.26	加東	MY18117	002	
2019.04.11	加東	MY19001		
2019.04.23	朝来	MY19002	093	040
2019.04.23	朝来	MY19003	133	
2019.04.23	丹波	MY19004	020	
2019.05.13	龍野	MY19005		
2019.05.21	赤穂	MY19006	134	
2019.06.03	赤穂	MY19007	097	041
2019.06.06	加東	MY19008	135	
2019.06.06	加東	MY19009		
2019.06.06	加東	MY19010	132	042
2019.06.07	加東	MY19011	036	
2019.06.18	豊岡	MY19012		
2019.06.17	豊岡	MY19013	099	
2019.06.18	豊岡	MY19014		
2019.06.24	丹波	MY19015		
2019.06.21	丹波	MY19016		
2019.07.08	龍野	MY19017	006	
2019.07.12	加古川	MY19018		
2019.07.12	加古川	MY19019		
2019.07.24	朝来	MY19020		
2019.08.02	赤穂	MY19021	124	043
2019.08.19	龍野	MY19022		
2019.09.04	丹波	MY19023	012	
2019.09.04	丹波	MY19024	136	044

菌株搬入日	保健所等	菌株番号	クラスター番号*	
			JATA(12)	24Beijing
2019.09.25	加東	MY19025		
2019.09.25	加東	MY19026		
2019.09.25	加東	MY19027		
2019.09.25	加東	MY19028	075	
2019.09.25	加東	MY19029	137	045
2019.09.25	加東	MY19030	137	045
2019.09.27	丹波	MY19031	018	
2019.10.03	丹波	MY19032	138	046
2019.10.23	赤穂	MY19033	003	
2019.10.25	朝来	MY19034		
2019.10.29	豊岡	MY19035		
2019.10.29	洲本	MY19036		
2019.10.29	洲本	MY19037	008	047
2019.10.29	洲本	MY19038	008	
2019.10.29	洲本	MY19039		
2019.10.29	洲本	MY19040	139	
2019.10.29	洲本	MY19041	131	
2019.10.29	洲本	MY19042		
2019.10.29	洲本	MY19043	140	048
2019.10.29	洲本	MY19044		
2019.10.29	洲本	MY19045	041	
2019.10.29	洲本	MY19046	030	059
2019.10.29	洲本	MY19047		
2019.10.29	洲本	MY19048	023	
2019.10.29	洲本	MY19049	141	049
2019.10.29	洲本	MY19050		
2019.10.29	洲本	MY19051	125	
2019.10.29	洲本	MY19052	002	
2019.11.08	龍野	MY19053		
2019.11.13	伊丹	MY19054		
2019.11.18	加東	MY19055		
2019.11.18	加東	MY19056	043	
2019.11.19	豊岡	MY19057		
2019.12.17	伊丹	MY19058	142	050
2019.12.17	伊丹	MY19059		
2019.12.17	伊丹	MY19060	142	050
2019.12.17	伊丹	MY19061	142	050
2019.12.17	加東	MY19062		
2019.12.17	加東	MY19063	143	
2019.12.23	福崎	MY19064	144	051
2019.11.29	龍野	MY19065	145	
2019.11.29	龍野	MY19066		
2019.12.24	洲本	MY19067	030	059
2019.05.29	尼崎市	MY19201	129	034
2019.08.09	尼崎市	MY19202	001	062
2019.08.19	尼崎市	MY19203		
2019.08.19	尼崎市	MY19204	031	063
2019.08.19	尼崎市	MY19205	101	
2019.08.19	尼崎市	MY19206	151	
2019.08.19	尼崎市	MY19207	152	
2019.08.19	尼崎市	MY19208	008	
2019.08.19	尼崎市	MY19209	015	031
2019.08.19	尼崎市	MY19210		
2019.08.19	尼崎市	MY19211	03	055
2019.08.19	尼崎市	MY19212		
2019.08.19	尼崎市	MY19213		
2019.08.19	尼崎市	MY19214	008	047
2019.08.19	尼崎市	MY19215	153	

菌株搬入日	保健所等	菌株番号	クラスター番号*	
			JATA(12)	24Beijing
2019.09.02	尼崎市	MY19216	001	
2019.09.02	尼崎市	MY19217		
2019.09.02	尼崎市	MY19218	154	056
2019.09.02	尼崎市	MY19219	030	060
2019.09.02	尼崎市	MY19220		
2019.09.02	尼崎市	MY19221		
2019.10.07	尼崎市	MY19222	008	
2019.10.09	尼崎市	MY19223		
2019.10.09	尼崎市	MY19224	008	
2019.10.09	尼崎市	MY19225		
2019.10.09	尼崎市	MY19226		
2019.10.09	尼崎市	MY19227	155	057
2019.10.09	尼崎市	MY19228	155	057
2019.10.09	尼崎市	MY19229	008	
2019.10.09	尼崎市	MY19230		
2019.10.09	尼崎市	MY19231	144	051
2019.10.09	尼崎市	MY19232	023	
2019.10.09	尼崎市	MY19233	036	
2019.10.09	尼崎市	MY19234	002	
2019.10.09	尼崎市	MY19235		
2019.10.09	尼崎市	MY19236	094	
2019.10.09	尼崎市	MY19237	101	
2019.03.11	西宮市	MY18304		
2019.04.23	西宮市	MY19301	079	064
2019.02.26	明石市	MY18416		
2019.02.26	明石市	MY18417		
2019.02.26	明石市	MY18418		
2019.02.26	明石市	MY18419		
2019.02.26	明石市	MY18420		
2019.02.26	明石市	MY18421		
2019.02.26	明石市	MY18422	012	
2019.02.26	明石市	MY18423		
2019.02.26	明石市	MY18424		
2019.02.26	明石市	MY18425	043	
2019.03.18	明石市	MY18426	041	
2019.03.18	明石市	MY18427		
2019.03.18	明石市	MY18428		
2019.03.18	明石市	MY18429		
2019.03.18	明石市	MY18430		
2019.03.18	明石市	MY18431	013	
2019.03.18	明石市	MY18432	001	
2019.03.18	明石市	MY18433	098	
2019.03.18	明石市	MY18434	035	012
2019.09.13	明石市	MY19401		
2019.09.13	明石市	MY19402		
2019.09.13	明石市	MY19403	144	051
2019.09.13	明石市	MY19404		
2019.09.13	明石市	MY19405		
2019.09.13	明石市	MY19406	038	065
2019.09.13	明石市	MY19407	015	066
2019.09.13	明石市	MY19408		
2019.09.13	明石市	MY19409		
2019.09.13	明石市	MY19410		

*JATA(12)-VNTRプロファイル及び24領域(24Beijing)VNTRプロファイルが一致したものに同一の番号を付した。空白は2012年から当所で蓄積しているデータベース内に一致する菌株がみられなかったことを表す。

(10) インフルエンザウイルスの検出状況 (2019年)

検体採取年月	検体数	ウイルス検出数				
		A(H1N1) pdm09	A香港型	B型 (Victoria系統)	B型 (Yamagata系統)	陰性
2019.01	103	44	54	1	0	5
2019.02	55	14	38	1	0	2
2019.03	34	9	18	4	0	3
2019.04	14	1	5	8	0	0
2019.05	7	0	3	4	0	0
2019.06	1	0	1	0	0	0
2019.07	0	0	0	0	0	0
2019.08	0	0	0	0	0	0
2019.09	3	1	2	0	0	0
2019.10	3	1	1	0	0	1
2019.11	15	10	0	0	0	5
2019.12	52	45	0	1	0	6
合計	287	125	122	19	0	22

(11) 日本脳炎流行予測調査結果：ブタ血清中のHI抗体価 (2019年)

採血 年月日	検査頭数	HI抗体価								陽性率 (%)	2ME 感受性(%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
2019.06.05	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2019.06.26	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2019.07.10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2019.07.24	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2019.08.07	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2019.08.21	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2019.09.11	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2019.09.27	10	9	0	0	0	0	0	0	1	10	100

(12) 蚊媒介感染症の検査 (2019年)

疾患名	検体数 (患者数)	陽性 患者数	ウイルス型	渡航先
デング熱	15 (9)	3	デングウイルス 1型(1), 2型(2)	東南アジア
チクングニア熱		0	—	—
ジカウイルス感染症		0	—	—

(13) ダニ媒介感染症の検査 (2019年)

疾患名	検体数	患者数 (陽性数)	備考
日本紅斑熱	54	23 (6)	遺伝子及び抗体検査
つつが虫病	30	13 (1)	遺伝子及び抗体検査
重症熱性血小板減少症候群	13	9 (1)	遺伝子検査

(14) HIV及び肝炎ウイルスの検査 (2019年)

疾患名	検体数	患者数 (陽性数)	備考
HIV	44	44 (0)	職員特殊健診
	5	5 (2)	確認検査
A型肝炎	3	1 (1)	遺伝子検査
E型肝炎	4	4 (2)	遺伝子検査

(15) 集団嘔吐下痢症事例からのノロウイルス等の検出状況 (2019年)

事例No.	月	日	保健所	原因施設	感染経路	原因食	対象者	患者数	検体	検体数	陽性数	検出ウイルス
1	16		加東	仕出し	食品疑い	不明	66	30	有症者便	10	10	NoV G II
									調理従事者便	9	1	NoV G II
									拭き取り	10	0	-
2	17		加古川	飲食店	食品疑い	不明	287	39	食品	2	0	-
									有症者便	28	28	NoV G II
									調理従事者便	6	2	NoV G II
3	17		洲本	仕出し	食品疑い	不明	20	13	拭き取り	9	0	-
									有症者便	6	5	NoV G II
									調理従事者便	6	2	NoV G II
4	1	24	中播磨	飲食店	食品疑い	不明	31	19	拭き取り	6	0	-
									有症者便	5	3	NoV G II
									調理従事者便	16	3	NoV G II
5	26		洲本	仕出し	食品疑い	不明	27	18	拭き取り	10	0	-
									有症者便	7	7	NoV G II
									調理従事者便	4	0	-
6	30		丹波	仕出し	食品疑い	不明	32	11	有症者便	9	9	NoV G II
									調理従事者便	7	2	NoV G II
									拭き取り	7	1	NoV G II
7	30		洲本	飲食店	食品疑い	不明	26	12	調理従事者便	12	0	-
									拭き取り	9	0	-
									食品	14	0	-
8	2	8	丹波	飲食店	食品疑い	不明	42	23	有症者便	2	2	NoV G II
									有症者便	5	5	NoV G II
									調理従事者便	6	1	NoV G II
9	13		龍野	仕出し	食品疑い	不明	4663	73	拭き取り	6	0	-
									有症者便	12	11	NoV G II
									調理従事者便	24	4	NoV G II
10	27		加東	飲食店	食品疑い	不明	7	7	食品	2	0	-
									有症者便	10	10	NoV G II
									有症者便	4	3	NoV G I
11	1		加古川	飲食店	食品疑い	不明	21	11	有症者便	1	1	NoV G II
12	5		宝塚	飲食店	食品疑い	不明	17	13	有症者便	1	1	NoV G I
13	3	6	豊岡	飲食店	食品疑い	不明	20	13	調理従事者便	6	2	NoV G II
									拭き取り	5	0	-
									有症者便	1	1	NoV G II
14	13		伊丹	飲食店	食品疑い	不明	47	7	有症者便	1	0	-
15	20		加東	飲食店	食品疑い	不明	14	4	有症者便	2	0	-
16	4	10	中播磨	飲食店	食品疑い	不明	24	8	有症者便	5	4	SaV G I
17	11		宝塚	飲食店	食品疑い	不明	20	18	有症者便	2	2	NoV G II
18	5	25	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	不明	7	有症者便	1	1	NoV G II
19	28		伊丹	飲食店	食品疑い	不明	172	18	有症者便	9	9	NoV G II
									調理従事者便	7	2	NoV G II
									有症者便	2	2	NoV G II
20	5		加東	飲食店	食品疑い	不明	86	13	有症者便	6	5	NoV G II
									有症吐物	1	0	-
									調理従事者便	2	2	NoV G II
21	6	6	加古川	飲食店	食品疑い	不明	552	149	施設拭き取り	10	0	-
									有症吐物	3	1	NoV G II
									有症者便	1	1	NoV G II
22	13		芦屋	飲食店	食品疑い	不明	7	2	有症者便	1	0	-
									有症者便	1	0	-
									有症者便	1	1	NoV G II
23	19		加古川	飲食店	食品疑い	不明	17	7	有症者便	4	3	NoV G II
									有症者便	1	0	-
									有症者便	1	0	-
24	21		伊丹	飲食店	食品疑い	不明	72	15	有症者便	1	1	NoV G II
									有症者便	1	1	NoV G II
									有症者便	1	0	-
25	22		芦屋	飲食店	食品疑い	不明	13	10	有症者便	1	0	-
									有症者便	1	0	-
									有症者便	1	0	-
26	10	4	龍野	飲食店	食品疑い	不明	6	5	有症者便	2	0	-
27	11	30	加古川	飲食店	食品疑い	不明	33	18	有症者便	1	1	SaV G I
									有症者便	1	1	SaV G I
28	12	5	加古川	飲食店	食品疑い	不明	83	不明	有症者便	2	1	NoV G II
									有症者便	2	2	NoV G II
29	24		洲本	老健施設	感染症疑い	不明	17	不明	有症者便	3	3	NoV G II
30	26		加東	飲食店	食品疑い	不明	34	20	有症者便	2	2	NoV G II

NoV G I : ノロウイルスG I、NoV G II : ノロウイルスG II、SaV G I : サボウイルスG I

(16) 麻しん及び風しんウイルスの検出状況 (2019年)

保健所	麻しんウイルス				風しんウイルス			
	検査数		陽性数		検査数		陽性数	
	患者数	検体数	患者数	遺伝子型(患者数)	患者数	検体数	患者数	遺伝子型(患者数)
芦屋	3	9	0	-	1	3	1	1E(1)
宝塚	11	33	1	B3(1)	8	20	0	-
伊丹	9	27	1	B3(1)	4	11	0	-
加古川	6	17	0	-	3	9	0	-
加東	3	8	0	-	4	12	1	1E(1)
中播磨	1	3	0	-	0	0	0	-
龍野	2	5	0	-	4	10	1	1E(1)
赤穂	1	3	0	-	1	3	0	-
豊岡	2	7	0	-	1	3	0	-
朝来	0	0	0	-	1	3	0	-
丹波	0	0	0	-	2	6	1	1a(1)
洲本	8	22	2	D8(2)	2	6	0	-
西宮市	17	51	2	D8(2)	17	50	2	1E(1), 2B(1)
明石市	6	17	1	B3(1)	6	18	0	-
合計	69	202	7		54	154	6	

(17) 感染症発生動向調査における月別病原体検出件数 (2019年)

(インフルエンザの検体を除く)

(検体数)

検体採取月	2019年												合計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
検体数	54	50	33	49	68	80	97	71	51	38	64	52	707	
患者数	37	34	24	22	39	48	50	39	35	20	32	29	409	
検査材料	咽頭ぬぐい液	10	5	6	13	25	33	37	20	16	9	21	15	210
	鼻腔ぬぐい液	16	21	12	10	4	9	6	14	18	11	9	13	143
	髄液	8	3	2	7	5	4	11	9	1	3	1	5	59
	便	8	11	6	7	11	14	16	8	2	4	9	5	101
	尿	4	3	1	7	8	8	10	8	3	5	9	6	72
	血液	7	6	5	5	11	9	16	12	10	6	14	8	109
	気管吸引液	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	4
その他	0	1	1	0	4	1	1	0	0	0	1	0	9	

(検出件数)

疾患名	検出病原体	2019年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
咽頭結膜熱	アデノウイルス 1型	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	5
	アデノウイルス 2型	1	0	0	0	3	0	0	0	0	1	1	2	8
	アデノウイルス 3型	0	0	1	1	0	5	1	2	0	1	3	0	14
	アデノウイルス 5型	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	パレコウイルス 3型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
手足口病	コクサッキーウイルス A5型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	コクサッキーウイルス A6型	0	0	1	0	1	19	18	0	0	0	0	0	39
	コクサッキーウイルス A16型	0	0	0	2	0	1	2	1	1	1	0	0	8
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	1	5
	アデノウイルス 3型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	バルボウイルスB19	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	2	7
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	1	0	3	1	1	1	0	0	1	8	
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス B3型	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	エコーウイルス 6型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	エコーウイルス 18型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	エコーウイルス 30型	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	2	6
	パレコウイルス 3型	0	0	0	0	0	0	2	4	1	0	0	0	7
	ライノウイルス	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	4
	バルボウイルスB19	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	4
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	1	0	3	1	0	0	1	1	7

疾患名	検出病原体	2019年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	コクサッキーウイルス A9型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	パレコウイルス 3型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎	ノロウイルス GⅡ.2	1	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	ノロウイルス GⅡ.4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	A群ロタウイルスG8	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	4
	A群ロタウイルスG9	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	アストロウイルス 1型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	アストロウイルス 4型	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	サボウイルス	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	5
	アデノウイルス 3型	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 5型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 41型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス A9型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ライノウイルス	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5	
RSウイルス感染症	RSウイルス	7	15	7	6	1	1	1	10	13	4	5	10	80
	ライノウイルス	2	3	2	1	0	0	0	4	1	3	0	4	20
	アデノウイルス 2型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	アデノウイルス 3型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス B4型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	A群溶血性レンサ球菌	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	2	0	6
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
水痘	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
伝染性紅斑	バルボウイルスB19	1	0	0	0	2	0	1	1	1	1	0	0	7
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
流行性耳下腺炎	ライノウイルス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 1型	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
発疹症	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3
	エコーウイルス 18型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	エコーウイルス 30型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	パレコウイルス 3型	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	6
	ライノウイルス	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	3	0	7
	バルボウイルスB19	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	4
急性脳炎・脳症	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	バルボウイルスB19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	RSウイルス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ノロウイルス GⅡ.2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
呼吸器疾患 (上気道炎・下気道炎)	ライノウイルス	3	0	0	0	1	3	1	0	5	1	1	1	16
	RSウイルス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	ヒトボカウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	コクサッキーウイルス A5型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	4
	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	コクサッキーウイルス A10型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	パレコウイルス 1型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	バルボウイルスB19	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	5
	A群溶血性レンサ球菌	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	肺炎球菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	肺炎マイコプラズマ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	その他 (不明熱・けいれん等)	エコーウイルス 18型	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
エコーウイルス 30型		0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	4
パレコウイルス 1型		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
パレコウイルス 3型		0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
ライノウイルス		0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	4	0	7
RSウイルス		0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)		0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3
EBウイルス		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
バルボウイルスB19		0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	5
ノロウイルス GⅡ.4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
サボウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
検出数(合計)	26	37	19	21	34	48	66	42	35	27	31	31	417	

4. 資 料

(1) 全数把握対象疾病の患者数	
付表1-1：全数把握対象疾病の年間患者数（2019年）	56
付表1-2：全数把握対象疾病の週別患者数（届出のあった疾病）（2019年）	57
付表1-3：全数把握対象疾病の保健所別患者数（届出のあった疾病）（2019年）	58
付表1-4：全数把握対象疾病の年齢階級別患者数（届出のあった疾病）（2019年）	59
(2) 定点把握対象疾病の週（月）別患者数	
付表2-1：週報対象疾病の週別患者数（2019年）	60
付表2-2：週報対象疾病の週別定点あたり患者数（2019年）	61
付表2-3：月報対象疾病の月別患者数（2019年）	62
付表2-4：月報対象疾病の月別定点あたり患者数（2019年）	62
(3) 定点把握対象疾病の保健所別患者数	
付表3-1：週報対象疾病の保健所別患者数（2019年）	63
付表3-2：週報対象疾病の保健所別定点あたり患者数（2019年）	64
付表3-3：月報対象疾病の保健所別患者数（2019年）	65
付表3-4：月報対象疾病の保健所別定点あたり患者数（2019年）	65
(4) 定点把握対象疾病の年齢階級別患者数	
付表4-1：週報対象疾病の年齢階級別患者数（2019年）	66
付表4-2：週報対象疾病患者の年齢階級別割合（2019年）	67
付表4-3：月報対象疾病の年齢階級別患者数（2019年）	68
付表4-4：月報対象疾病患者の年齢階級別割合（2019年）	68
(5) 定点把握対象疾病（月報）の性別患者数	
付表5：月報対象疾病の性別患者数と割合（2019年）	68

付表1-1 全数把握対象疾病の年間累積患者数（2019年）

疾 病 名		計	疾 病 名		計	
一類感染症	エボラ出血熱	0	四類感染症（2）	日本紅斑熱	19	
	クリミア・コンゴ出血熱	0		日本脳炎	0	
	痘そう	0		ハンタウイルス肺症候群	0	
	南米出血熱	0		Bウイルス病	0	
	ペスト	0		鼻疽	0	
	マールブルグ病	0		ブルセラ症	0	
	ラッサ熱	0		ベネズエラウマ脳炎	0	
二類感染症	急性灰白髄炎	0		ヘンドラウイルス感染症	0	
	結核	1112		発しんチフス	0	
	ジフテリア	0		ボツリヌス症	0	
	重症急性呼吸器症候群* ^A	0		マラリア	2	
	中東呼吸器症候群* ^B	0		野兔病	0	
	鳥インフルエンザ（H5N1）	0		ライム病	0	
	鳥インフルエンザ（H7N9）	0		リッサウイルス感染症	0	
三類感染症	コレラ	0		リフトバレー熱	0	
	細菌性赤痢	2		類鼻疽	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	154		レジオネラ症	92	
	腸チフス	2		レプトスピラ症	0	
	パラチフス	0		ロッキー山紅斑熱	0	
四類感染症（1）	E型肝炎	11		五類感染症	アメーバ赤痢	33
	ウエストナイル熱* ^C	0			ウイルス性肝炎* ^F	10
	A型肝炎	9			カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	103
	エキノкокクス症	0			急性弛緩性麻痺* ^G	1
	黄熱	0			急性脳炎* ^H	40
	オウム病	0			クリプトスポリジウム症	2
	オムスク出血熱	0			クロイツフェルト・ヤコブ病	8
	回帰熱	0			劇症型溶血性レンサ球菌感染症	56
	キャサヌル森林病	0			後天性免疫不全症候群	25
	Q熱	0	ジアルジア症		0	
	狂犬病	0	侵襲性インフルエンザ菌感染症		19	
	コクシジオイデス症	0	侵襲性髄膜炎菌感染症		3	
	サル痘	0	侵襲性肺炎球菌感染症		189	
	ジカウイルス感染症	0	水痘（入院例）		17	
	重症熱性血小板減少症候群* ^D	1	先天性風しん症候群		0	
	腎症候性出血熱	0	梅毒		287	
	西部ウマ脳炎	0	播種性クリプトコックス症		5	
	ダニ媒介脳炎	0	破傷風		2	
	炭疽	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		0	
	チクングニア熱	2	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		3	
	つつが虫病	8	百日咳		714	
	デング熱	14	風しん		49	
	東部ウマ脳炎	0	麻しん		51	
鳥インフルエンザ* ^E	0	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1			
ニパウイルス感染症	0					

^A病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。^B病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

^Cウエストナイル脳炎を含む。^D病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。*^EH5N1及びH7N9を除く。*^FE型肝炎及びA型肝炎を除く。

^G急性灰白髄炎を除く。^Hウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表1-2 全数把握対象疾病の週別患者数(届出のあった疾病)(2019年)

疾病名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		
二類 結核	6	25	12	29	18	24	21	21	22	23	18	24	25	29	22	32	25	4	9	20	21	22	20	32	19	22	26		
三類 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
四類 E型肝炎 A型肝炎 重症熱性血小板減少症候群* ^A チクングニア熱 つづが虫病 デング熱 日本紅斑熱 マラリア レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	
五類 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^B カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性弛緩性麻痺* ^C 急性脳炎* ^D クリプトスポリジウム症 クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 百日咳 風しん 麻しん 薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	2	4	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	2	0
計	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	計			
二類 結核	26	13	22	28	27	18	27	25	23	14	22	21	15	22	15	17	32	21	21	27	27	16	18	13	31	1112			
三類 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2		
四類 E型肝炎 A型肝炎 重症熱性血小板減少症候群* ^A チクングニア熱 つづが虫病 デング熱 日本紅斑熱 マラリア レジオネラ症	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	11		
五類 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^B カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性弛緩性麻痺* ^C 急性脳炎* ^D クリプトスポリジウム症 クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 百日咳 風しん 麻しん 薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33		
計	16	13	27	15	17	11	16	21	15	19	10	8	11	8	12	11	9	3	15	10	11	9	4	5	5	714			

*^A病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。^BE型肝炎及びA型肝炎を除く。^C急性灰白髄炎を除く。^Dウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表1-3 全数把握対象疾病の保健所別患者数(届出のあった疾病)(2019年)

疾病名		神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	明石市	芦屋	伊丹	宝塚	加古川	加東
二類	結核	359	129	79	75	50	19	76	69	95	51
三類	細菌性赤痢	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
感染症	腸管出血性大腸菌感染症	64	13	9	6	9	1	4	3	12	9
症	腸チフス	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四類	E型肝炎	5	0	0	1	0	0	1	0	0	0
感染症	A型肝炎	2	1	1	4	0	0	0	0	0	0
症	重症熱性血小板減少症候群 ^{*A}	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	つつが虫病	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	デング熱	4	5	0	1	0	0	0	0	3	0
	日本紅斑熱	6	1	0	0	0	2	0	1	3	0
	マラリア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	レジオネラ症	23	5	14	10	5	1	8	3	6	2
五類	アメーバ赤痢	8	4	2	4	0	1	2	1	6	1
感染症	ウイルス性肝炎 ^{*B}	3	0	4	0	0	0	0	0	2	0
症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	16	22	10	17	3	1	2	4	2	7
	急性弛緩性麻痺 ^{*C}	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	急性脳炎 ^{*D}	20	8	1	1	0	0	1	0	8	0
	クリプトスポリジウム症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	0	4	0	0	0	1	0	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	18	13	5	1	3	0	3	3	6	1
	後天性免疫不全症候群	11	3	2	3	1	0	1	0	3	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4	1	3	0	6	0	0	0	2	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	58	19	16	12	17	0	9	4	23	16
	水痘(入院例)	9	1	0	3	1	0	0	1	1	0
	梅毒	96	49	30	32	16	1	8	12	20	6
	播種性クリプトコックス症	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0
	破傷風	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0
	百日咳	175	41	145	58	12	5	23	14	107	7
	風しん	12	18	2	5	2	1	2	1	2	1
	麻しん	41	2	1	2	1	0	1	1	0	0
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

疾病名		龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
二類	結核	15	24	7	7	7	21	29	1112
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	2
感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3	8	0	0	0	0	13	154
症	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	2
四類	E型肝炎	0	2	0	1	1	0	0	11
感染症	A型肝炎	0	0	0	1	0	0	0	9
症	重症熱性血小板減少症候群 ^{*A}	0	1	0	0	0	0	0	1
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	2
	つつが虫病	0	0	1	0	0	0	1	8
	デング熱	0	0	0	0	0	1	0	14
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	6	19
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	2
	レジオネラ症	7	0	3	2	0	2	1	92
五類	アメーバ赤痢	0	1	1	0	0	2	0	33
感染症	ウイルス性肝炎 ^{*B}	0	0	0	0	0	1	0	10
症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	6	0	1	4	4	3	103
	急性弛緩性麻痺 ^{*C}	0	0	0	0	0	0	0	1
	急性脳炎 ^{*D}	0	1	0	0	0	0	0	40
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	1	0	0	0	8
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	3	0	56
	後天性免疫不全症候群	0	1	0	0	0	0	0	25
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	2	0	19
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	1	1	7	0	4	1	189
	水痘(入院例)	0	0	0	1	0	0	0	17
	梅毒	4	7	0	1	1	2	2	287
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	1	0	0	0	5
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	3
	百日咳	39	61	0	7	1	8	11	714
	風しん	1	1	0	1	0	0	0	49
	麻しん	0	0	0	0	0	0	2	51
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	0	0	0	0	0	0	1

^{*A}病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。^{*B}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*C}急性灰白髄炎を除く。^{*D}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表1-4 全数把握対象疾病の年齢階級別患者数(届出のあった疾病)(2019年)

疾 病 名		0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
二類	結核	14	7	4	2	10	36	35	25	19	30	43
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染	腸管出血性大腸菌感染症	0	23	16	17	14	16	11	14	8	7	7
症	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四類	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
感染	A型肝炎	0	0	0	0	0	3	2	0	1	0	0
症	重症熱性血小板減少症候群* ^A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	デング熱	0	0	0	0	1	2	2	4	1	1	2
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	マラリア	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
	レジオネラ症	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
五類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	1	0	1	3	1	2	2
感染	ウイルス性肝炎* ^B	0	0	0	0	1	2	2	1	1	0	0
症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1
	急性弛緩性麻痺* ^C	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	急性脳炎* ^D	3	9	8	7	1	0	1	4	3	0	0
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	1	1	1	5	6	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	8	25	5	1	0	0	1	1	2	2	1
	水痘(入院例)	1	1	0	2	1	3	1	2	3	1	0
	梅毒	1	0	0	1	39	60	32	29	21	25	30
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	百日咳	47	44	298	161	21	8	13	14	19	21	27
	風しん	0	0	0	0	4	7	7	4	7	5	7
	麻しん	3	7	5	2	1	0	6	10	9	4	3
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

疾 病 名		50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90歳以上	不明	計
二類	結核	50	53	54	84	97	134	155	148	112		1112
三類	細菌性赤痢	0	1	0	1	0	0	0	0	0		2
感染	腸管出血性大腸菌感染症	3	5	1	4	3	3	0	2	0		154
症	腸チフス	0	0	0	0	0	1	1	0	0		2
四類	E型肝炎	2	0	3	1	1	1	1	0	0		11
感染	A型肝炎	0	0	1	0	1	0	1	0	0		9
症	重症熱性血小板減少症候群* ^A	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2
	つつが虫病	0	0	0	1	1	3	0	2	0		8
	デング熱	0	0	0	0	0	1	0	0	0		14
	日本紅斑熱	0	1	0	2	6	4	2	0	0		19
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2
	レジオネラ症	7	11	7	13	10	22	7	7	4		92
五類	アメーバ赤痢	4	2	4	4	3	4	1	1	0		33
感染	ウイルス性肝炎* ^B	2	1	0	0	0	0	0	0	0		10
症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	0	4	8	12	22	16	21	14		103
	急性弛緩性麻痺* ^C	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1
	急性脳炎* ^D	0	1	0	0	1	2	0	0	0		40
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	1	0	0	1	3	2	0		8
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	4	5	2	6	10	6	8	4		56
	後天性免疫不全症候群	1	1	3	0	0	0	0	0	0	1	25
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	1	3	3	2	3	1	3		19
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	1	0		3
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	11	11	15	20	21	19	26	16		189
	水痘(入院例)	0	0	1	1	0	0	0	0	0		17
	梅毒	17	10	8	3	3	3	2	2	1		287
	播種性クリプトコックス症	0	0	1	0	0	1	1	0	0		5
	破傷風	0	0	0	1	0	1	0	0	0		2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	1	1		3
	百日咳	11	5	3	9	3	5	4	1	0		714
	風しん	4	3	0	1	0	0	0	0	0		49
	麻しん	1	0	0	0	0	0	0	0	0		51
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1

^A病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。^BE型肝炎及びA型肝炎を除く。*^C急性灰白髄炎を除く。*^Dウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表2-1 週報対象疾病の週別患者数(2019年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
インフルエンザ ^{*A}	1961	7036	10376	10529	7081	4280	1726	1290	806	582	377	355	186	167	207	338	388	95
RSウイルス感染症	48	74	64	75	102	119	102	99	117	87	87	67	100	75	75	66	72	28
咽頭結膜熱	20	74	47	46	33	47	50	59	64	66	71	58	47	51	62	54	62	33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	190	158	211	194	211	155	234	187	218	270	238	190	183	183	221	261	57
感染性胃腸炎	280	1061	1029	1060	991	971	838	973	998	1003	1078	965	1000	946	1135	1377	1400	256
水痘	32	64	42	40	20	39	27	47	29	53	55	56	56	33	54	58	40	12
手足口病	8	19	22	18	21	37	16	18	16	19	25	29	29	25	44	49	54	17
伝染性紅斑	20	84	83	88	83	67	44	66	64	60	63	56	59	72	79	110	103	16
突発性発しん	8	38	28	26	29	29	19	39	38	33	46	33	38	42	45	66	53	12
ヘルパンギーナ	2	3	1	1	1	1	2	0	3	3	2	0	5	1	3	5	11	0
流行性耳下腺炎	4	9	4	5	3	10	4	8	7	5	1	3	6	3	3	5	9	0
急性出血性結膜炎	0	1	0	2	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0
流行性角結膜炎	15	39	18	15	19	21	15	13	14	15	20	13	22	34	16	31	16	2
細菌性髄膜炎 ^{*B}	1	1	1	1	1	3	0	0	2	2	0	0	0	1	3	0	1	0
無菌性髄膜炎	0	1	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0
マイコプラズマ肺炎	3	2	4	3	1	1	1	1	1	0	3	0	4	0	0	2	1	3
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	3	3	2	5	2	3	3	2	11	2	13	6	12	20	20	35	20	20

疾 病 名	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
インフルエンザ ^{*A}	161	177	118	99	65	47	27	12	20	14	19	2	2	9	6	7	13	62
RSウイルス感染症	25	36	30	26	20	13	20	19	31	41	53	105	147	170	112	167	305	496
咽頭結膜熱	82	66	105	95	79	110	84	76	58	70	54	76	87	83	44	57	79	75
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	191	278	244	327	230	283	294	219	176	172	105	129	115	125	84	88	104	130
感染性胃腸炎	848	1054	905	881	810	725	718	676	639	553	446	450	490	489	228	485	539	570
水痘	48	53	46	47	35	40	28	52	27	32	33	24	30	31	27	50	26	35
手足口病	53	110	210	338	485	867	1269	1616	1959	2307	1593	1378	1132	763	323	318	350	326
伝染性紅斑	85	133	114	92	113	108	150	153	147	131	115	151	132	101	40	105	113	163
突発性発しん	52	48	61	46	59	47	65	43	49	50	44	42	44	51	27	52	51	43
ヘルパンギーナ	9	22	27	34	49	165	205	219	278	312	237	172	136	140	61	62	64	61
流行性耳下腺炎	6	6	2	14	16	16	8	16	26	9	8	8	9	5	3	3	7	11
急性出血性結膜炎	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	28	22	21	27	27	25	29	25	22	26	23	24	26	17	4	27	24	29
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0	1	4	3	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0
無菌性髄膜炎	0	0	0	4	0	0	0	2	1	0	2	0	1	2	2	2	0	3
マイコプラズマ肺炎	2	3	1	3	2	4	2	3	4	0	3	5	5	1	4	6	3	2
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	14	9	10	3	9	3	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0

疾 病 名	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	計
インフルエンザ ^{*A}	98	54	38	27	52	31	33	48	49	84	312	637	946	2008	3237	4496	60790
RSウイルス感染症	602	455	442	324	293	189	168	128	127	99	88	73	77	63	62	89	6552
咽頭結膜熱	67	50	54	53	62	63	61	68	87	104	97	91	88	116	94	110	3589
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	141	124	113	154	145	120	148	192	134	199	185	218	233	253	242	223	9528
感染性胃腸炎	568	477	465	483	539	454	488	587	527	691	823	944	1118	1177	1193	1184	40585
水痘	23	29	32	25	37	21	35	31	26	39	37	73	46	87	55	67	2084
手足口病	304	214	143	124	108	75	59	52	64	56	35	34	25	25	34	16	17231
伝染性紅斑	146	73	122	145	114	84	115	129	99	99	80	98	80	98	78	54	4977
突発性発しん	47	36	34	35	35	40	30	40	47	40	35	35	46	41	35	24	2096
ヘルパンギーナ	71	42	34	34	38	20	25	17	5	7	9	7	10	5	1	2	2624
流行性耳下腺炎	6	6	13	6	16	10	13	8	4	8	9	3	5	11	3	2	385
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	14
流行性角結膜炎	28	25	29	28	33	25	23	28	27	28	16	19	20	18	17	25	1153
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	36
無菌性髄膜炎	4	1	4	0	6	2	0	4	2	2	3	6	2	3	3	0	70
マイコプラズマ肺炎	4	2	1	1	5	1	5	8	4	12	10	4	10	4	6	7	167
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	236

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表2-2 週報対象疾病の週別定点あたり患者数(2019年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
インフルエンザ ^{*A}	9.90	35.36	52.14	52.91	35.58	21.51	8.67	6.48	4.05	2.92	1.89	1.78	0.94	0.84	1.04	1.70	1.95	0.49
RSウイルス感染症	0.37	0.57	0.50	0.58	0.79	0.92	0.79	0.77	0.91	0.67	0.67	0.52	0.78	0.58	0.58	0.51	0.56	0.23
咽頭結膜熱	0.16	0.57	0.36	0.36	0.26	0.36	0.39	0.46	0.50	0.51	0.55	0.45	0.37	0.40	0.48	0.42	0.48	0.27
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.38	1.47	1.22	1.64	1.50	1.64	1.20	1.81	1.45	1.69	2.09	1.84	1.48	1.42	1.42	1.71	2.02	0.46
感染性胃腸炎	2.17	8.22	7.98	8.22	7.68	7.53	6.50	7.54	7.74	7.78	8.36	7.48	7.81	7.33	8.80	10.67	10.85	2.06
水痘	0.25	0.50	0.33	0.31	0.16	0.30	0.21	0.36	0.22	0.41	0.43	0.43	0.44	0.26	0.42	0.45	0.31	0.10
手足口病	0.06	0.15	0.17	0.14	0.16	0.29	0.12	0.14	0.12	0.15	0.19	0.22	0.23	0.19	0.34	0.38	0.42	0.14
伝染性紅斑	0.16	0.65	0.64	0.68	0.64	0.52	0.34	0.51	0.50	0.47	0.49	0.43	0.46	0.56	0.61	0.85	0.80	0.13
突発性発しん	0.06	0.29	0.22	0.20	0.22	0.22	0.15	0.30	0.29	0.26	0.36	0.26	0.30	0.33	0.35	0.51	0.41	0.10
ヘルパンギーナ	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.00	0.02	0.02	0.02	0.00	0.04	0.01	0.02	0.04	0.09	0.00
流行性耳下腺炎	0.03	0.07	0.03	0.04	0.02	0.08	0.03	0.06	0.05	0.04	0.01	0.02	0.05	0.02	0.02	0.04	0.07	0.00
急性出血性結膜炎	0.00	0.03	0.00	0.06	0.06	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00
流行性角結膜炎	0.44	1.11	0.51	0.43	0.54	0.60	0.43	0.37	0.40	0.43	0.59	0.37	0.63	0.97	0.46	0.89	0.46	0.06
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.21	0.00	0.00	0.14	0.14	0.00	0.00	0.00	0.07	0.21	0.00	0.07	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.21	0.14	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.21	0.14	0.29	0.21	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.00	0.21	0.00	0.29	0.00	0.00	0.14	0.07	0.21
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.21	0.21	0.14	0.36	0.14	0.21	0.21	0.14	0.79	0.14	0.93	0.43	0.86	1.43	1.43	2.50	1.43	1.43

疾 病 名	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
インフルエンザ ^{*A}	0.81	0.89	0.59	0.50	0.33	0.24	0.14	0.06	0.10	0.07	0.10	0.01	0.01	0.05	0.03	0.04	0.07	0.31
RSウイルス感染症	0.19	0.28	0.23	0.20	0.16	0.10	0.16	0.15	0.24	0.32	0.41	0.81	1.13	1.32	0.90	1.29	2.38	3.84
咽頭結膜熱	0.64	0.51	0.81	0.74	0.61	0.85	0.65	0.59	0.45	0.54	0.42	0.59	0.67	0.64	0.35	0.44	0.62	0.58
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.48	2.16	1.89	2.53	1.78	2.19	2.28	1.70	1.36	1.33	0.81	1.00	0.88	0.97	0.68	0.68	0.81	1.01
感染性胃腸炎	6.57	8.17	7.02	6.83	6.28	5.62	5.57	5.24	4.95	4.29	3.46	3.49	3.77	3.79	1.84	3.76	4.21	4.42
水痘	0.37	0.41	0.36	0.36	0.27	0.31	0.22	0.40	0.21	0.25	0.26	0.19	0.23	0.24	0.22	0.39	0.20	0.27
手足口病	0.41	0.85	1.63	2.62	3.76	6.72	9.84	12.53	15.19	17.88	12.35	10.68	8.71	5.91	2.60	2.47	2.73	2.53
伝染性紅斑	0.66	1.03	0.88	0.71	0.88	0.84	1.16	1.19	1.14	1.02	0.89	1.17	1.02	0.78	0.32	0.81	0.88	1.26
突発性発しん	0.40	0.37	0.47	0.36	0.46	0.36	0.50	0.33	0.38	0.39	0.34	0.33	0.34	0.40	0.22	0.40	0.40	0.33
ヘルパンギーナ	0.07	0.17	0.21	0.26	0.38	1.28	1.59	1.70	2.16	2.42	1.84	1.33	1.05	1.09	0.49	0.48	0.50	0.47
流行性耳下腺炎	0.05	0.05	0.02	0.11	0.12	0.12	0.06	0.12	0.20	0.07	0.06	0.06	0.07	0.04	0.02	0.02	0.05	0.09
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.80	0.63	0.60	0.77	0.77	0.71	0.83	0.71	0.63	0.74	0.66	0.69	0.74	0.49	0.12	0.77	0.67	0.83
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.00	0.07	0.29	0.21	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.14	0.07	0.00	0.14	0.00	0.07	0.14	0.14	0.14	0.00	0.21
マイコプラズマ肺炎	0.14	0.21	0.07	0.21	0.14	0.29	0.14	0.21	0.29	0.00	0.21	0.36	0.36	0.07	0.29	0.43	0.21	0.14
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	1.00	0.64	0.71	0.21	0.64	0.21	0.14	0.14	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

疾 病 名	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	週平均
インフルエンザ ^{*A}	0.49	0.27	0.19	0.14	0.26	0.16	0.17	0.24	0.25	0.42	1.57	3.20	4.75	10.09	16.27	22.59	5.88
RSウイルス感染症	4.67	3.53	3.43	2.51	2.27	1.47	1.30	0.99	0.98	0.77	0.68	0.57	0.60	0.49	0.48	0.69	0.98
咽頭結膜熱	0.52	0.39	0.42	0.41	0.48	0.49	0.47	0.53	0.67	0.81	0.75	0.71	0.68	0.90	0.73	0.85	0.54
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.09	0.96	0.88	1.19	1.12	0.93	1.15	1.49	1.04	1.54	1.43	1.69	1.81	1.96	1.88	1.73	1.42
感染性胃腸炎	4.40	3.70	3.60	3.74	4.18	3.52	3.78	4.55	4.09	5.36	6.38	7.32	8.67	9.12	9.25	9.18	6.06
水痘	0.18	0.22	0.25	0.19	0.29	0.16	0.27	0.24	0.20	0.30	0.29	0.57	0.36	0.67	0.43	0.52	0.31
手足口病	2.36	1.66	1.11	0.96	0.84	0.58	0.46	0.40	0.50	0.43	0.27	0.26	0.19	0.19	0.26	0.12	2.57
伝染性紅斑	1.13	0.57	0.95	1.12	0.88	0.65	0.89	1.00	0.77	0.77	0.62	0.76	0.62	0.76	0.60	0.42	0.74
突発性発しん	0.36	0.28	0.26	0.27	0.27	0.31	0.23	0.31	0.36	0.31	0.27	0.27	0.36	0.32	0.27	0.19	0.31
ヘルパンギーナ	0.55	0.33	0.26	0.26	0.29	0.16	0.19	0.13	0.04	0.05	0.07	0.05	0.08	0.04	0.01	0.02	0.39
流行性耳下腺炎	0.05	0.05	0.10	0.05	0.12	0.08	0.10	0.06	0.03	0.06	0.07	0.02	0.04	0.09	0.02	0.02	0.06
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
流行性角結膜炎	0.80	0.71	0.83	0.80	0.94	0.74	0.66	0.80	0.77	0.80	0.46	0.54	0.57	0.51	0.49	0.71	0.64
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.07	0.05
無菌性髄膜炎	0.29	0.07	0.29	0.00	0.43	0.14	0.00	0.29	0.14	0.14	0.21	0.43	0.14	0.21	0.21	0.00	0.10
マイコプラズマ肺炎	0.29	0.14	0.07	0.07	0.36	0.07	0.36	0.57	0.29	0.86	0.71	0.29	0.71	0.29	0.43	0.50	0.23
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.32

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表2-3 月報対象疾病の月別患者数(2019年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
性器クラミジア感染症	86	100	86	111	84	100	100	83	87	132	81	80	1130
性器ヘルペスウイルス感染症	23	33	28	27	37	26	31	32	38	27	24	38	364
尖圭コンジローマ	18	11	18	16	15	27	17	22	19	27	13	18	221
淋菌感染症	25	21	29	26	24	23	31	21	29	24	17	29	299
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	45	52	47	57	39	42	54	45	59	38	45	33	556
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7	0	3	2	3	2	3	2	2	3	2	7	36
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	1	0	5

付表2-4 月報対象疾病の月別定点あたり患者数(2019年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月平均
性器クラミジア感染症	1.87	2.17	1.87	2.41	1.83	2.17	2.17	1.80	1.89	2.87	1.76	1.74	2.05
性器ヘルペスウイルス感染症	0.50	0.72	0.61	0.59	0.80	0.57	0.67	0.70	0.83	0.59	0.52	0.83	0.66
尖圭コンジローマ	0.39	0.24	0.39	0.35	0.33	0.59	0.37	0.48	0.41	0.59	0.28	0.39	0.40
淋菌感染症	0.54	0.46	0.63	0.57	0.52	0.50	0.67	0.46	0.63	0.52	0.37	0.63	0.54
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3.21	3.71	3.36	4.07	2.79	3.00	3.86	3.21	4.21	2.71	3.21	2.36	3.31
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.50	0.00	0.21	0.14	0.21	0.14	0.21	0.14	0.14	0.21	0.14	0.50	0.21
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.14	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00	0.03

付表3-1 週報対象疾病の保健所別患者数(2019年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	明石市	芦屋	伊丹	宝塚	加古川	加東
インフルエンザ**A	13177	3705	9182	2639	3129	758	4011	2506	4931	5129
RSウイルス感染症	1135	421	1093	207	412	34	224	200	1019	636
咽頭結膜熱	535	204	428	239	150	39	252	325	348	487
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1662	480	1593	495	368	124	615	415	805	461
感染性胃腸炎	7662	1951	7138	2148	2331	451	2179	1233	2015	4149
水痘	371	160	344	102	111	30	217	188	57	192
手足口病	3329	849	3169	841	1197	94	928	774	1281	1716
伝染性紅斑	1005	217	783	372	289	88	323	196	327	328
突発性発しん	436	129	290	127	122	17	110	125	173	198
ヘルパンギーナ	571	107	390	152	70	30	138	84	234	125
流行性耳下腺炎	74	49	60	5	26	4	44	23	22	29
急性出血性結膜炎	8	0	0	0	0	2	1	1	0	0
流行性角結膜炎	278	106	61	52	42	22	166	120	202	53
細菌性髄膜炎*B	14	0	2	0	—	—	—	—	6	0
無菌性髄膜炎	42	0	0	1	—	—	—	—	17	0
マイコプラズマ肺炎	29	11	2	5	—	—	—	—	79	10
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0	0	0	—	—	—	—	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	37	19	42	3	—	—	—	—	90	2

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
インフルエンザ**A	2146	1621	856	2632	1658	603	2107	60790
RSウイルス感染症	131	268	1	159	35	163	414	6552
咽頭結膜熱	42	174	13	133	14	113	93	3589
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	437	672	69	534	100	171	527	9528
感染性胃腸炎	1682	1907	337	2322	428	787	1865	40585
水痘	42	63	12	80	9	31	75	2084
手足口病	606	530	218	465	198	202	834	17231
伝染性紅斑	191	188	28	343	128	135	36	4977
突発性発しん	67	71	11	101	39	29	51	2096
ヘルパンギーナ	161	84	11	87	62	122	196	2624
流行性耳下腺炎	14	14	1	2	8	2	8	385
急性出血性結膜炎	0	—	0	0	—	—	2	14
流行性角結膜炎	24	—	15	7	—	—	5	1153
細菌性髄膜炎*B	0	1	—	11	2	0	0	36
無菌性髄膜炎	0	0	—	9	0	1	0	70
マイコプラズマ肺炎	1	11	—	3	13	3	0	167
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	—	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	13	—	0	15	14	1	236

*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表3-2 週報対象疾病の保健所別定点あたり患者数(2019年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	明石市	芦屋	伊丹	宝塚	加古川	加東
インフルエンザ**A	274.52	247.00	483.26	188.50	284.45	252.67	334.25	278.44	352.21	394.54
RSウイルス感染症	36.61	42.10	84.08	23.00	58.86	17.00	28.00	33.33	113.22	79.50
咽頭結膜熱	17.26	20.40	32.92	26.56	21.43	19.50	31.50	54.17	38.67	60.88
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53.61	48.00	122.54	55.00	52.57	62.00	76.88	69.17	89.44	57.63
感染性胃腸炎	247.16	195.10	549.08	238.67	333.00	225.50	272.38	205.50	223.89	518.63
水痘	11.97	16.00	26.46	11.33	15.86	15.00	27.13	31.33	6.33	24.00
手足口病	107.39	84.90	243.77	93.44	171.00	47.00	116.00	129.00	142.33	214.50
伝染性紅斑	32.42	21.70	60.23	41.33	41.29	44.00	40.38	32.67	36.33	41.00
突発性発しん	14.06	12.90	22.31	14.11	17.43	8.50	13.75	20.83	19.22	24.75
ヘルパンギーナ	18.42	10.70	30.00	16.89	10.00	15.00	17.25	14.00	26.00	15.63
流行性耳下腺炎	2.39	4.90	4.62	0.56	3.71	2.00	5.50	3.83	2.44	3.63
急性出血性結膜炎	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00	0.50	0.50	0.00	0.00
流行性角結膜炎	27.80	35.33	20.33	17.33	21.00	22.00	83.00	60.00	67.33	26.50
細菌性髄膜炎*B	4.67	0.00	2.00	0.00	—	—	—	—	6.00	0.00
無菌性髄膜炎	14.00	0.00	0.00	1.00	—	—	—	—	17.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	9.67	11.00	2.00	5.00	—	—	—	—	79.00	10.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.33	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	12.33	19.00	42.00	3.00	—	—	—	—	90.00	2.00

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	全県
インフルエンザ**A	268.25	270.17	428.00	329.00	552.67	100.50	263.38	305.54
RSウイルス感染症	26.20	67.00	1.00	31.80	17.50	40.75	82.80	50.85
咽頭結膜熱	8.40	43.50	13.00	26.60	7.00	28.25	18.60	27.85
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87.40	168.00	69.00	106.80	50.00	42.75	105.40	73.92
感染性胃腸炎	336.40	476.75	337.00	464.40	214.00	196.75	373.00	314.83
水痘	8.40	15.75	12.00	16.00	4.50	7.75	15.00	16.17
手足口病	121.20	132.50	218.00	93.00	99.00	50.50	166.80	133.64
伝染性紅斑	38.20	47.00	28.00	68.60	64.00	33.75	7.20	38.60
突発性発しん	13.40	17.75	11.00	20.20	19.50	7.25	10.20	16.26
ヘルパンギーナ	32.20	21.00	11.00	17.40	31.00	30.50	39.20	20.36
流行性耳下腺炎	2.80	3.50	1.00	0.40	4.00	0.50	1.60	2.99
急性出血性結膜炎	0.00	—	0.00	0.00	—	—	2.00	0.40
流行性角結膜炎	24.00	—	15.00	7.00	—	—	5.00	32.98
細菌性髄膜炎*B	0.00	1.00	—	11.00	2.00	0.00	0.00	2.57
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	—	9.00	0.00	1.00	0.00	5.00
マイコプラズマ肺炎	1.00	11.00	—	3.00	13.00	3.00	0.00	11.93
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	13.00	—	0.00	15.00	14.00	1.00	16.86

*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表3-3 月報対象疾病の保健所別患者数(2019年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	明石市	芦屋	伊丹	宝塚	加古川	加東
性器クラミジア感染症	346	216	174	91	35	36	14	45	71	22
性器ヘルペスウイルス感染症	155	48	38	12	18	11	1	28	14	5
尖圭コンジローマ	78	26	46	25	7	11	3	10	1	2
淋菌感染症	90	51	43	40	0	12	4	5	38	2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	122	65	62	88	—	—	—	—	12	5
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	0	0	0	—	—	—	—	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	0	0	—	—	—	—	0	0

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
性器クラミジア感染症	30	3	1	22	7	6	11	1130
性器ヘルペスウイルス感染症	6	0	11	11	0	1	5	364
尖圭コンジローマ	0	1	2	6	0	2	1	221
淋菌感染症	1	0	0	3	5	1	4	299
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	45	8	—	22	4	49	29	556
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	0	—	11	0	0	15	36
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	—	2	0	2	1	5

付表3-4 月報対象疾病の保健所別定点あたり患者数(2019年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	明石市	芦屋	伊丹	宝塚	加古川	加東
性器クラミジア感染症	28.83	54.00	43.50	30.33	17.50	36.00	7.00	15.00	17.75	7.33
性器ヘルペスウイルス感染症	12.92	12.00	9.50	4.00	9.00	11.00	0.50	9.33	3.50	1.67
尖圭コンジローマ	6.50	6.50	11.50	8.33	3.50	11.00	1.50	3.33	0.25	0.67
淋菌感染症	7.50	12.75	10.75	13.33	0.00	12.00	2.00	1.67	9.50	0.67
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	40.67	65.00	62.00	88.00	—	—	—	—	12.00	5.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.33	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.33	1.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	全県
性器クラミジア感染症	30.00	3.00	1.00	22.00	7.00	6.00	5.50	24.57
性器ヘルペスウイルス感染症	6.00	0.00	11.00	11.00	0.00	1.00	2.50	7.91
尖圭コンジローマ	0.00	1.00	2.00	6.00	0.00	2.00	0.50	4.80
淋菌感染症	1.00	0.00	0.00	3.00	5.00	1.00	2.00	6.50
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	45.00	8.00	—	22.00	4.00	49.00	29.00	39.71
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10.00	0.00	—	11.00	0.00	0.00	15.00	2.57
薬剤耐性緑膿菌感染症	1.00	0.00	—	2.00	0.00	2.00	1.00	0.36

付表4-1 週報対象疾病の年齢階級別患者数(2019年)

	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
インフルエンザ ^{※A}	225	775	2417	2567	2924	3546	4004	3997	3870	3592	3104
RSウイルス感染症	837	1116	2259	1199	618	306	96	41	18	11	9
咽頭結膜熱	15	202	894	550	542	493	348	198	125	73	44
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	56	324	545	930	1216	1350	1262	1039	734	584
感染性胃腸炎	308	2100	5799	4707	4282	4112	3497	2796	2178	1815	1441
水痘	14	50	123	108	126	169	231	271	287	196	168
手足口病	146	1295	5226	3702	2456	1828	1015	533	288	206	133
伝染性紅斑	2	43	205	369	571	799	841	669	504	360	259
突発性発しん	36	669	1055	220	69	17	14	3	3	1	4
ヘルパンギーナ	26	234	718	525	361	280	181	113	64	35	25
流行性耳下腺炎	0	0	11	17	35	42	57	48	40	48	26
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	7	15	57	58	61	51	44	30	16	16	16
	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
細菌性髄膜炎 ^{※B}	5	3	4	1	0	1	0	0	0	2	0
無菌性髄膜炎	26	7	8	8	3	2	3	2	2	0	2
マイコプラズマ肺炎	0	33	52	44	5	7	4	2	3	4	3
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	26	138	64	4	0	1	0	1	0	0	0
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計	
インフルエンザ ^{※A}	10525	2532	2875	3502	3768	2329	1810	1374	1054	60790	
	10-14歳	15-19歳	20歳以上								
RSウイルス感染症	18	5	19							6552	
咽頭結膜熱	71	7	27							3589	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1071	96	316							9528	
感染性胃腸炎	3721	899	2930							40585	
水痘	315	16	10							2084	
手足口病	260	25	118							17231	
伝染性紅斑	295	11	49							4977	
突発性発しん	4	0	1							2096	
ヘルパンギーナ	39	8	15							2624	
流行性耳下腺炎	36	7	18							385	
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上			
急性出血性結膜炎	1	0	3	2	3	4	0	1		14	
流行性角結膜炎	54	25	119	262	139	84	55	44		1153	
	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上						
細菌性髄膜炎 ^{※B}	1	2	4	3	10					36	
無菌性髄膜炎	1	0	0	1	5					70	
マイコプラズマ肺炎	1	0	2	0	7					167	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0					1	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	0	0	0	2					236	

※A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 ※Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表4-2 週報対象疾病患者の年齢階級別割合(%) (2019年)

	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
インフルエンザ ^{*A}	0.37	1.27	3.98	4.22	4.81	5.83	6.59	6.58	6.37	5.91	5.11
RSウイルス感染症	12.77	17.03	34.48	18.30	9.43	4.67	1.47	0.63	0.27	0.17	0.14
咽頭結膜熱	0.42	5.63	24.91	15.32	15.10	13.74	9.70	5.52	3.48	2.03	1.23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.05	0.59	3.40	5.72	9.76	12.76	14.17	13.25	10.90	7.70	6.13
感染性胃腸炎	0.76	5.17	14.29	11.60	10.55	10.13	8.62	6.89	5.37	4.47	3.55
水痘	0.67	2.40	5.90	5.18	6.05	8.11	11.08	13.00	13.77	9.40	8.06
手足口病	0.85	7.52	30.33	21.48	14.25	10.61	5.89	3.09	1.67	1.20	0.77
伝染性紅斑	0.04	0.86	4.12	7.41	11.47	16.05	16.90	13.44	10.13	7.23	5.20
突発性発しん	1.72	31.92	50.33	10.50	3.29	0.81	0.67	0.14	0.14	0.05	0.19
ヘルパンギーナ	0.99	8.92	27.36	20.01	13.76	10.67	6.90	4.31	2.44	1.33	0.95
流行性耳下腺炎	0.00	0.00	2.86	4.42	9.09	10.91	14.81	12.47	10.39	12.47	6.75
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.61	1.30	4.94	5.03	5.29	4.42	3.82	2.60	1.39	1.39	1.39
	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
細菌性髄膜炎 ^{*B}	13.89	8.33	11.11	2.78	0.00	2.78	0.00	0.00	0.00	5.56	0.00
無菌性髄膜炎	37.14	10.00	11.43	11.43	4.29	2.86	4.29	2.86	2.86	0.00	2.86
マイコプラズマ肺炎	0.00	19.76	31.14	26.35	2.99	4.19	2.40	1.20	1.80	2.40	1.80
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	11.02	58.47	27.12	1.69	0.00	0.42	0.00	0.42	0.00	0.00	0.00
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計	
インフルエンザ ^{*A}	17.31	4.17	4.73	5.76	6.20	3.83	2.98	2.26	1.73	100.00	
	10-14歳	15-19歳	20歳以上								
RSウイルス感染症	0.27	0.08	0.29								100.00
咽頭結膜熱	1.98	0.20	0.75								100.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11.24	1.01	3.32								100.00
感染性胃腸炎	9.17	2.22	7.22								100.00
水痘	15.12	0.77	0.48								100.00
手足口病	1.51	0.15	0.68								100.00
伝染性紅斑	5.93	0.22	0.98								100.00
突発性発しん	0.19	0.00	0.05								100.00
ヘルパンギーナ	1.49	0.30	0.57								100.00
流行性耳下腺炎	9.35	1.82	4.68								100.00
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上			
急性出血性結膜炎	7.14	0.00	21.43	14.29	21.43	28.57	0.00	7.14	100.00		
流行性角結膜炎	4.68	2.17	10.32	22.72	12.06	7.29	4.77	3.82	100.00		
	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上						
細菌性髄膜炎 ^{*B}	2.78	5.56	11.11	8.33	27.78	100.00					
無菌性髄膜炎	1.43	0.00	0.00	1.43	7.14	100.00					
マイコプラズマ肺炎	0.60	0.00	1.20	0.00	4.19	100.00					
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00					
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.85	100.00					

*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表4-3 月報対象疾病の年齢階級別患者数(2019年)

疾 病 名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
性器クラミジア感染症	0	0	0	1	97	336	241	152	100
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	0	17	35	48	39	49
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	9	34	46	29	20
淋菌感染症	0	0	0	1	37	81	47	33	26
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	23	19	7	8	1	1	4	9	6
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	1	0	1	0	0	0	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0

疾 病 名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	81	53	35	18	11	4	1	1130
性器ヘルペスウイルス感染症	40	26	24	22	20	21	23	364
尖圭コンジローマ	23	16	12	7	8	10	7	221
淋菌感染症	31	19	13	6	3	1	1	299
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6	13	22	19	28	42	348	556
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	1	2	2	3	26	36
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	5	5

付表4-4 月報対象疾病患者の年齢階級別割合(%) (2019年)

疾 病 名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
性器クラミジア感染症	0.00	0.00	0.00	0.09	8.58	29.73	21.33	13.45	8.85
性器ヘルペスウイルス感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	4.67	9.62	13.19	10.71	13.46
尖圭コンジローマ	0.00	0.00	0.00	0.00	4.07	15.38	20.81	13.12	9.05
淋菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.33	12.37	27.09	15.72	11.04	8.70
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4.14	3.42	1.26	1.44	0.18	0.18	0.72	1.62	1.08
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

疾 病 名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	7.17	4.69	3.10	1.59	0.97	0.35	0.09	100.00
性器ヘルペスウイルス感染症	10.99	7.14	6.59	6.04	5.49	5.77	6.32	100.00
尖圭コンジローマ	10.41	7.24	5.43	3.17	3.62	4.52	3.17	100.00
淋菌感染症	10.37	6.35	4.35	2.01	1.00	0.33	0.33	100.00
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1.08	2.34	3.96	3.42	5.04	7.55	62.59	100.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	0.00	2.78	5.56	5.56	8.33	72.22	100.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	100.00

付表5 月報対象疾病の性別患者数と割合(%) (2019年)

疾 病 名	男 (%)	女 (%)	計 (%)
性器クラミジア感染症	597 (52.83)	533 (47.17)	1130 (100.00)
性器ヘルペスウイルス感染症	151 (41.48)	213 (58.52)	364 (100.00)
尖圭コンジローマ	152 (68.78)	69 (31.22)	221 (100.00)
淋菌感染症	233 (77.93)	66 (22.07)	299 (100.00)
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	338 (60.79)	218 (39.21)	556 (100.00)
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	19 (52.78)	17 (47.22)	36 (100.00)
薬剤耐性緑膿菌感染症	3 (60.00)	2 (40.00)	5 (100.00)

兵庫県感染症発生動向調査事業実施要領

第1 目的

感染症対策については、近年の新たな感染症の出現とともに、これまで制圧されてきた感染症の再興など感染症の脅威と感染症を取り巻く状況の変化に対応するため、健康危機管理の観点から、迅速かつ的確な対応、感染症の発生、拡大に備えた事前対応型の行政の構築などを柱として、平成11年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が施行された。

感染症発生動向調査事業は、県内の感染症の発生情報を正確に把握・分析、その情報を速やかに地域に公表することにより、地域住民の感染症に対する理解と協力を促し、医療機関における適切な初期診療や予防接種・衛生教育等の適切な予防措置を進め、感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報（検査情報も含む。以下同じ。）を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として実施する。

第2 法令等の遵守

本事業の実施にあたっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱（以下、「国要綱」という。）を遵守する。

第3 対象感染症

本事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施主体

実施主体は、兵庫県（以下、「県」という。）及び神戸市、姫路市、尼崎市及び西宮市（以下「保健所設置市」という。）とする。

第5 実施体制

1 基幹地方感染症情報センター及び地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、県又は保健所設置市の管轄区域内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、県又は保健所設置市の感染症所管課に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、県又は保健所設置市ごとに、原則として、地方衛生研究所内に地方感染症情報センターを設置する。

また、基幹地方感染症情報センターを県の感染症情報センター内に設置し、保健所設置市の地方感染症情報センター等と連携のうえ県全域にわたる患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を地方感染症情報センター、県健康福祉部健康局疾病対策課（以下、「県疾病対策課」という。）に報告するとともに、全国情報と併せて、これらをインターネット等により速やかに情報公開する。

なお、基幹地方感染症情報センターは情報の収集、分析の効果的、効率的な運

用を図るため、必要に応じて兵庫県健康づくり審議会感染症対策専門委員会の助言を求める。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1) 県は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、感染症法第14条第1項に規定する指定届出機関として患者定点及び疑似症定点をあらかじめ指定する。

なお、保健所設置市内の定点については、保健所設置市の推薦に基づき指定する。

(2) 県は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ指定する。

また、感染症法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を指定する。

なお、保健所設置市内の定点については、保健所設置市の推薦に基づき指定する。

3 検査施設

県及び保健所設置市の管轄区域内における本事業に係る検体等の検査については、地方衛生研究所若しくは県健康福祉事務所（以下、「健康福祉事務所」という。）又は保健所設置市の検査施設において実施する。

地方衛生研究所若しくは健康福祉事務所又は保健所設置市の検査施設（以下、「地方衛生研究所等」という。）は、県又は保健所設置市がそれぞれ別に定める検査施設における病原体検査の業務管理要領（以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、所管する地方衛生研究所等において実施できない検査について、保健所設置市は県立健康科学研究所に協力を依頼し、県立健康科学研究所において実施できない検査については、県又は保健所設置市は国立感染症研究所等に協力を依頼するなど検査実施体制を確保する。

第6 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び全数把握対象の五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 健康福祉事務所・保健所

(ア) 感染症法第12条に基づく医師からの届出、または感染症法第13条に基づく獣医師からの届出を受けた健康福祉事務所又は保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、健康福祉事務所又は保健所は、病原体検査が必要と判断した場合には、検体等を所持する医療機関に対して、病原体検査のための検体等の提供

について、県又は保健所設置市がそれぞれ別に定める様式の検査票（以下「検査票」という。）を添付して依頼等を行うものとする。

なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じてそれぞれの感染症所管課及び地方衛生研究所と協議する。

(イ) 健康福祉事務所又は保健所は、検体等の提供を受けた場合には、検査票を添付して地方衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。

(ウ) 健康福祉事務所又は保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町、医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

イ 地方衛生研究所等

(ア) 地方衛生研究所等は、検査票及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を健康福祉事務所又は保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課並びに地方感染症情報センターに送付する。

また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センター（国立感染症研究所感染症疫学センター。以下同じ。）に送付する。

(イ) 保健所設置市の地方衛生研究所等において実施することが困難な検査については、必要に応じて県立研究所に依頼する。

なお、県立健康科学研究所においても実施することが困難な検査については、必要に応じて国立感染症研究所に依頼する。

(ウ) 患者が一類感染症と診断されている場合、県域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急的な場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

ウ 地方感染症情報センター

(ア) 地方感染症情報センターは、管轄区域の患者情報について、健康福祉事務所又は保健所から情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 地方感染症情報センターは、管轄区域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報。以下同じ。）等として公表される県情報、全国情報と併せて、健康福祉事務所や保健所等の関係機関に提供・公開する。

エ 基幹地方感染症情報センター

基幹地方感染症情報センターは、県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集し、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

オ 県疾病対策課・保健所設置市感染症所管課

県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課は、基幹地方感染症情報センター及び地方感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

なお、緊急の場合や国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

2 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の指定

ア 患者定点

感染症法第14条に定める定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、県は次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を指定する。

また、定点の指定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

なお、保健所設置市内の患者定点の指定にあたっては、保健所設置市の推薦に基づき指定する。

(ア) 小児科定点

別表2の小児科定点の対象感染症については、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。小児科定点の数は国要綱に基づき算定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努める。

(イ) インフルエンザ定点

別表2のインフルエンザ定点の対象感染症については、前記（ア）で指定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。内科定点の数は国要綱に基づき算定する。

(ウ) 眼科定点

別表2の眼科定点の対象疾患については、眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定すること。眼科定点の数は国要綱に基づき算定する。

(エ) 性感染症定点

別表2の性感染症定点の対象疾患については、産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号ハ及び二（2）の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。性感染症定点の数は国要綱に基づき算定する。

(オ) 基幹定点

別表2の基幹定点の対象疾患については、対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を2次医

療圏域毎に1カ所以上、基幹定点として指定する。

なお、基幹定点においては、別表2のインフルエンザ定点の対象感染症のうち、入院患者も届出対象とする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、県は、次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、原則、患者定点として指定された医療機関の中から病原体定点を指定する。

また、定点の指定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の発生状況を把握できるよう考慮する。

同様に感染症法第14条の2に規定されている別表1の(98)に掲げるインフルエンザの病原体の分離等検査情報を収集するために、次の(エ)のインフルエンザ病原体定点を指定提出機関として指定する。

なお、病原体定点の数等については、次の基準の範囲内で、県が保健所設置市と協議して決定する。

(ア) 小児科病原体定点

アの(ア)により指定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。

(イ) 眼科病原体定点

アの(ウ)により指定された患者定点の概ね10%を眼科病原体定点として指定する。

(ウ) 基幹病原体定点

アの(オ)により指定された患者定点の全てを基幹病原体定点として指定する。

(エ) インフルエンザ病原体定点・指定提出機関

アの(ア)及び(イ)により指定された患者定点の概ね10%とし、それぞれ3定点と2定点を下回らないよう指定する。

(3) 調査単位等

(ア) 患者定点に係る調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

(イ) 小児科病原体定点に係る調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として指定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準（平成18年3月8日健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下同じ。）により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2)の(ア)により指定された定点把握対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として指定された医療機関は、県又は保健所設置市が別に定めるところにより病原体検査のために検体等を採取する。

- (イ) 小児科病原体定点においては、患者発生状況を踏まえ、県又は保健所設置市が別に定めるところにより、別表3の対象感染症のうち複数の感染症について、毎月、原則として概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体を、検査票を添えて、梱包のうえ、地方衛生研究所等に提出するものとする。
- (ウ) インフルエンザ病原体定点として指定された医療機関は、インフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む。）について、調査単位ごとに1検体程度を梱包のうえ、地方衛生研究所等に提出する。
- (エ) その他の病原体定点として指定された医療機関は、県又は保健所設置市が別に定めるところにより、検体等について、検査票を添えて、梱包のうえ、速やかに地方衛生研究所等に提出する。

ウ 検体等を所持している医療機関等

健康福祉事務所又は保健所から当該患者の病原体検査のための検体等を提供の依頼を受けた場合にあっては、健康福祉事務所又は保健所に協力し、検体等を提供する。

エ 健康福祉事務所・保健所

- (ア) 健康福祉事務所又は保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課並びに地方感染症情報センターに報告する。

なお、健康福祉事務所又は保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、検査票を添付して病原体検査のための検体等の提供の依頼等を行い、地方衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。病原体検査の必要性の判断及び実施等については、必要に応じて県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課及び地方衛生研究所等と協議する。

- (イ) 健康福祉事務所又は保健所は、検体等の提供を受けた場合には、検査票を添付して地方衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 健康福祉事務所又は保健所は、定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握し、市町、医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

オ 地方衛生研究所等

- (ア) 地方衛生研究所等は、検査票及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体を検査し、その結果を病原体情報として健康福祉事務所又は保健所を経由して病原体定点に通知するとともに、県疾病対策課及び保健所設置市感染症所管課並びに地方感染症情報センターに送付する。

また、病原体情報については、速やかに中央感染症情報センター（国立感染症研究所感染症疫学センター。以下同じ。）に報告する。

- (イ) 保健所設置市の地方衛生研究所等において実施することが困難な検査につ

いては、必要に応じて県立健康科学研究所に検査を依頼する。

なお、県立健康科学研究所においても検査が困難な場合は、必要に応じて国立感染症研究所に協力を依頼するものとする。

- (ウ) 地方衛生研究所等は、県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められ場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

カ 地方感染症情報センター

(ア) 地方感染症情報センターは、県又は保健所設置市の管轄区域の患者情報について、健康福祉事務所又は保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 地方感染症情報センターは、県又は保健所設置市の管轄区域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される県情報、全国情報と併せて、健康福祉事務所又は保健所等の関係機関に提供・公開する。

キ 基幹地方感染症情報センター

基幹感染症情報センターは、県内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、県疾病対策課、保健所設置市感染症所管課及び健康福祉事務所、保健所、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

ク 県疾病対策課・保健所設置市感染症所管課

県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課は、基幹地方感染症情報センター及び地方感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

3 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 疑似症定点の指定

県は次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て疑似症定点を指定する。また、定点の指定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮すること。

具体的な疑似症定点の届出医療機関は、以下の医療機関のうちから、アからウの順に優先順位をつけ、感染症法施行規則第6条第2項に定められる基準を踏まえ選定すること。

なお、保健所設置市内の疑似症定点の指定にあたっては、保健所設置市の推薦に基づき指定すること。

ア 診療報酬に基づく特定集中治療室管理料(1~4)、小児特定集中治療室管理料及びハイケアユニット入院医療管理料(1~2)の届出をしている医療機関。

イ 法に基づく感染症指定医療機関

- ・法に基づく特定感染症指定医療機関
- ・法に基づく第一種感染症指定医療機関
- ・法に基づく第二種感染症指定医療機関

ウ マスギャザリング（一定期間に限られた地域において同一目的で集合した多人数の集団）において、疑似症定点として選定することが疑似症発生状況の把握に有用な医療機関（例：大規模なスポーツ競技会等において、観客や大会運営関係者が受診する可能性がある医療機関）

県は疑似症定点と疑似症定点以外の医療機関との連携体制をあらかじめ構築するよう取組むこととし、疑似症定点以外の医療機関においても、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準について」（平成18年3月8日健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知）の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」（以下、「届出基準」という。）に該当すると判断される患者については、疑似症定点や健康福祉事務所又は保健所に相談できるよう予め疑似症定点に指定されている医療機関名や相談先を示すなどの配慮を行い、疑似症の迅速かつ適切な把握に努める。

（3）実施方法

ア 疑似症定点

- （ア）疑似症定点として指定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行うものとする。
- （イ）（2）により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として汎用サーベイランスシステムへの入力により実施することとする。
- （ウ）（イ）の届出に当たっては感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 健康福祉事務所・保健所

- （ア）健康福祉事務所又は保健所は、疑似症定点における汎用サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、汎用サーベイランスシステムに入力するものとし、また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課及び地方感染症情報センター並びに地方感染症情報センターに報告する。
- （イ）健康福祉事務所・保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町、医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 地方感染症情報センター

- （ア）地方感染症情報センターは管轄区域の疑似症情報について、健康福祉事務所又は保健所からの情報の入力済み報告があり次第、登録情報の確認を行う。
- （イ）地方感染症情報センターは管轄区域内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される県情報、全国情報と併せて、健康福祉事務所又は保健所等の関係機関に提供・公開する。

エ 基幹地方感染症情報センター

基幹地方感染症情報センターは、県内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、県疾病対策課、保健所設置市感染症所管課及び健康福祉事務所、保健所、地方感染症情報センター等の関係機関に情報提供する。

オ 県疾病対策課・保健所設置市感染症所管課

地方感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県と連携の上、迅速な対応を行う。

4 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、県の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査を構築していくこととする。
- (2) 本実施要領に定める事項以外の内容については、保健所設置市の意見を聴取したうえで、必要に応じて県健康福祉部健康局長が定めることとする。

5 保健所設置市との関係

兵庫県は、本事業を実施するため保健所設置市と協議し、連携を図る。

なお、本要領に定める保健所設置市内の保健所設置市感染症所管課、保健所、地方衛生研究所等及び地方感染症情報センターの機能及び役割分担等については、実情に応じて保健所設置市が別に定めることができる。

附 則

- 1 この実施要領は、平成 22 年 9 月 1 日から施行する。
- 2 兵庫県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱（昭和 62 年 1 月 1 日施行）は廃止する。
- 3 この実施要領の一部改正は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。
- 4 この実施要領の一部改正は、平成 23 年 9 月 5 日から施行する。
- 5 この実施要領の一部改正は、平成 25 年 3 月 4 日から施行する。
- 6 この実施要領の一部改正は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 7 この実施要領の一部改正は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。
- 8 この実施要領の一部改正は、平成 26 年 7 月 26 日から施行する。
- 9 この実施要領の一部改正は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。
- 10 この実施要領の一部改正は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。
- 11 この実施要領の一部改正は、平成 28 年 2 月 15 日から施行する。
- 12 この実施要領の一部改正は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

なお、第 6 の 2 (4) イ (イ) 及び (エ) の規程にかかわらず、姫路市内、尼崎市内、西宮市内の病原体定点（インフルエンザ定点を除く）として指定された医療機関は、当面の間、検体等を県立研究所に送付するものとする。

- 13 この実施要領の一部改正は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。
また、第 6 の 3 (3) のア (イ) 及びイ (ア) の改正は平成 30 年 3 月 1 日から施行する。さらに第 4 及び第 6 の 1 (1) のイ (イ) 及び第 6 の 2 (4) のオ (イ) の改正は、平成 30 年 4 月 1 日から施行することとし、第 6 の 2 (4) のイ (イ) 及び (エ) の規程にかかわらず、明石市内の病原体定点 (インフルエンザ定点を除く) として指定された医療機関は、当面の間、検体等を県立健康科学研究所に送付するものとする。
- 14 この実施要領の一部改正は、平成 30 年 5 月 1 日から施行する。
- 15 この実施要領の一部改正は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

別表1 兵庫県感染症発生動向調査事業の対象感染症

類型	疾患名	届出
一類	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱	全数
二類	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）、(12)中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9)	全数
三類	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス	全数
四類	(20)E 型肝炎、(21)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22)A 型肝炎、(23)エキノкокクス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサナル森林病、(29)Q 熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)ジカウイルス感染症、(34)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)B ウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兎病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱	全数
五類	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）、(68)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群、(73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数
	(88)RS ウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパンギーナ、(97)流行性耳下腺炎、(98)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜炎、(101)性器クラミジア感染症、(102)性器ヘルペスウイルス感染症、(103)尖圭コンジローマ、(104)淋菌感染症、(105)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(106)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(108)マイコプラズマ肺炎、(109)無菌性髄膜炎、(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(111)薬剤耐性緑膿菌感染症	定点
疑似症	法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 (114)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。	定点
新型インフルエンザ等感染症	(112)新型インフルエンザ、(113)再興型インフルエンザ	全数

別表2 定点把握対象の五類感染症の調査単位

定点種類	対象疾患	調査単位
小児科定点	(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパンギーナ、(97)流行性耳下腺炎	1週間(月曜日から日曜日)
インフルエンザ定点	(98)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	1週間(月曜日から日曜日)
眼科定点	(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜炎	1週間(月曜日から日曜日)
性感染症定点	(101)性器クラミジア感染症、(102)性器ヘルペスウイルス感染症、(103)尖圭コンジローマ、(104)淋菌感染症	各月
基幹定点	(98)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。) ※ただし、入院患者に限定する。 (91)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(105)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、(106)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(108)マイコプラズマ肺炎、(109)無菌性髄膜炎	1週間(月曜日から日曜日)
	(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (111)薬剤耐性緑膿菌感染症	各月

別表3 病原体定点把握対象の五類感染症の調査単位

定点種類	対象疾患	調査単位
小児科病原体 定点	(88)RS ウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、 (90)A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染 性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝 染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパ ンギーナ、(97)流行性耳下腺炎	各月
インフルエン ザ病原体定点	(98)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症を除く。）	流行期（兵庫県におけるインフ ルエンザ定点の1定点あたりの 患者数が1を超えた時点から1 を下回るまでの期間には1週間 （月曜日から日曜日） 非流行期（流行期以外の期間） には各月
眼科病原体 定点	(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜 炎	各月
基幹病原体 定点	(91)のうち病原体がロタウイルスであるも の、(106)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、 髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された 場合を除く。）、(109)無菌性髄膜炎	各月

2019年 兵庫県感染症発生動向調査事業年報

発行 2020年12月25日
発行者 大橋 秀隆
発行所 兵庫県立健康科学研究所
(兵庫県感染症情報センター)
電話 079-440-9090 (代表)
Fax 079-438-5570
メール webmaster@hyogo-iphes.jp

02健®1-004A4